

# 建築設計製図優秀作品集 2016

「町と海とをつなぐ壁」宮嶋悠輔・濱嶋杜人・門口雅菜・谷醒龍

「公園沿いの住宅」服部 立・Lunenкова Anastasia

「水辺に佇むマイ・スペース+ others」小山田駿志・飯尾誠也・中村美月

「刺すためそれは縫うため」村山詩織

「光の空間」山本陸人・漆山雄大・吉澤 玄・西 遼・武田竜治・大野 葵・中村美月・藤島健英

「色彩の港」飯塚智哉・会沢斗志希・江田拓海・上野耕平

「光と影」横畑佑樹

「時計」中村美月

「潤いの成長拠点 — ツーリストと共に生きるコムルー村 —」上田沙矢香

「海に関する学習を提供する新国立青少年自然の家の提案」

— 三浦市の地域資源を活用した施設設計 — 志宣侑太

「らぶぼーと Tokyo-Bay」池ヶ谷典宏・楠瀬大志・富永柚香・宮川駿也

「万緑の聳立 積層された緑による建築の提案」濱嶋杜人

「ホチキス」小林陽太

「生きる建築保存 — 伊根町舟屋群保存計画 —」衛藤成波

「街のアートミュージアム」勝部秋高・田中考登

「海の駅」新井郁子・佐藤未来

「古都の行き先」佐々木秀人・新部瑤介・加藤毅三

「干潟の機能を取り入れた浮体式浄化施設の設計 — 東京湾におけるリゾートホテルを核とした提案 —」山影悠時

## 平成28年度 設計製図担当教員一覧

### 1年生（ベーシックデザイン演習）

佐藤信治（ベーシックデザイン演習）／海洋建築工学科  
榎本弘之（ベーシックデザイン演習）／榎本弘之建築研究所  
川久保智康（ベーシックデザイン演習）／川久保智康建築設計事務所  
木内厚子（ベーシックデザイン演習）／STUDIO 8  
鶴田伸介（ベーシックデザイン演習）／熊工房  
新田知生（ベーシックデザイン演習）／向日葵設計  
廣部剛司（ベーシックデザイン演習）／廣部剛司建築設計室  
松井正澄（ベーシックデザイン演習）／アトリエトド

### 2年生（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）

小林直明（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／海洋建築工学科  
内海智行（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／ミリグラムスタジオ  
小野和幸（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／KAJIMA DESIGN  
神野郁也（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／神野郁也アーキテクト  
木内厚子（デザイン演習Ⅰ）／STUDIO 8  
佐藤浩平（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／佐藤浩平建築設計事務所  
玉上貴人（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／タカトタマガミデザイン  
筒井紀博（デザイン演習Ⅰ）／筒井紀博空間工房  
鶴田伸介（デザイン演習Ⅰ）／熊工房  
水野吉樹（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／榎竹中工務店

### 3年生（デザイン演習Ⅲ、建築メディアデザイン）

佐藤信治（デザイン演習Ⅲ、建築メディアデザイン）／海洋建築工学科  
小林直明（デザイン演習Ⅲ、建築メディアデザイン）／海洋建築工学科  
榎本弘之（デザイン演習Ⅲ）／榎本弘之建築研究所  
川久保智康（デザイン演習Ⅲ）／川久保智康建築設計事務所  
新田知生（デザイン演習Ⅲ）／向日葵設計  
廣部剛司（デザイン演習Ⅲ）／廣部剛司建築設計室  
光井 純（デザイン演習Ⅲ、建築メディアデザイン）／光井 純アンドアソシエーツ建築設計事務所

### 4年生（総合演習Ⅰ）

佐藤信治（総合演習Ⅰ）／海洋建築工学科  
小林直明（総合演習Ⅰ）／海洋建築工学科  
畔柳昭雄（総合演習Ⅰ）／海洋建築工学科  
桜井慎一（総合演習Ⅰ）／海洋建築工学科  
山本和清（総合演習Ⅰ）／海洋建築工学科  
高島秀訓（総合演習Ⅰ）／海洋建築工学科  
菅原 遼（総合演習Ⅰ）／海洋建築工学科

「プレゼンテーション」黄 起範・佐藤未来・赤堀厚史／

新井侑子・藤山翔己・芳西優汰・松下知可／大槻 愛・土橋大輔・松田瑠奈

「塵も積もれば山となる」金子 真

「結び留める水田 生業と土木の結節点」蒲生良輔

「北十間川の集合住宅」服部 立・吉澤泉南

「水族館」中村圭祐・黄 起範

「共助する異文化 産業教育を介した難民教育施設の計画」佐々木秀人

「AKIYA share town」蒲生良輔・小慣笑美依・福富大真

「次世代型浮体式海洋ガス生産施設の提案  
―愛知県渥美半島沖における複合型研究開発施設の設計―」 出山 亮

日本大学理工学部 海洋建築工学科

# 建築設計製図優秀作品集 2016

---

## CONTENTS

1年生 (ベーシックデザイン演習) .....	2
2年生 (デザイン演習 I、デザイン演習 II) .....	9
3年生 (デザイン演習 III、建築メディアデザイン) .....	16
4年生 (総合演習 I) .....	27
卒業設計 .....	33
修士設計 .....	42
コンペ受賞歴一覧 .....	46

# 1年生（後期：ベーシックデザイン演習）

【担当】 佐藤 信治  
 榎本 弘之  
 川久保智康  
 木内 厚子  
 鶴田 伸介  
 新田 知生  
 廣部 剛司  
 松井 正澄

## ベーシックデザイン演習 （後期）

### 第1課題

「ミクロの世界に立ってみよう」  
 （出題：佐藤信治）

#### 【課題趣旨】

課題は普段見慣れたものの視点を変える訓練から始まります。皆さんの体が身長15～18mm位の大きさにまで小さくなったとします。見慣れていた文具や家電など手に取ることのできる小さなものがまるで未来都市や巨大な構築物のように見えるでしょう。ミクロの大きさになった皆さんは普段は外側から見ているものの中に自由に入ったり内部空間をじっくりと眺めることができます。見たことのない空間に細部まで想像してください。さまざまな驚きや発見があるでしょう。そうした内部空間に立ち最も魅せられた光景を表現してください。空間は意外な所にも存在します。さらにあなたが見つけたこの内部空間を丁寧に描いてください。そして絶妙のタイトルをつけその空間の特質を説明してください。

#### 【提出物】

- ① ケント紙に描いた作品。裏面に、  
 ① 担当講師氏名、② 学生番号+氏名、  
 ③ 描いた対象物とタイトルを記入
- ② 作品タイトルと空間の説明文を記した A4サイズレポート用紙1枚。レポート用紙の最初に、同じく上記を記入

#### 【採点基準】

- (1) 描く対象物への着眼点（誰でも知っている身近なものでありながら、一見とてもそのようには見えないという視点を選んでください）
- (2) 表現の密度
- (3) 説明の適切さ
- (4) 必ずどこかに立っていることがわかるような視点であること

### 第2課題

「光の空間」  
 （出題：川久保智康）

#### 【課題趣旨】

空間をデザインする上で、「光」は大切な要素のひとつです。人間が視覚から得る情報の多くは、可視光線によるものです。私たちは「光」を手掛かりに、かたちや空間を認識しています。たとえば天井や壁で覆われた内部空間において、採り込まれる自然光を遮ったり反射させたりすることで、明るさや陰影を折り合わせた場所を作り出すことができるのです。つまり、光と影を操作することは、空間をつくる行為そのものなのです。

『Structure gives light makes space 構造は 光を与え 光は 空間をつくる』

これは20世紀の巨匠建築家ルイス・カーンの言葉です。構築物が重力を支えるだけではなく、光の受け手であり、光を可視化できるものであるということを表しています。彫刻家は石を削り、画家はキャンバスに絵の具をのせていきます。建築家はいかにして「空間」をつくるのか？ それは、そこに導く「光」によるという視点なのです。

#### 【提出物】

- (1) 模型：1/20、外形5m×5m×5mの「光の空間」を表現した模型（内部に1体の人物を入れ込む。6面のうち1面はない状態で作成）
- (2) 図面：以下をA2判2枚にまとめる  
 ・平面図：1/20（2面、切断位置GL+1,000、GL+3,000）  
 ・断面図：1/20（1面）  
 ・模型写真：2L判以上  
 ・タイトル+設計趣旨：300字程度

#### 【評価基準】

- (1) 光の現象や表情の面白さが、空間に活かされているか。
- (2) 光の採り込み方に工夫や独自性があるか。

- (3) 使用材料をうまく加工できた模型かどうか。
- (4) 空間表現にどのような意味（コンセプト）を与えたか。
- (5) 光と影の操作に関係のない平面的な装飾は求めません。

### 第3課題

「水辺に行むマイ・スペース + others」  
 （出題：松井正澄）

#### 【課題趣旨】

マイ・スペースは文字通り自分のための空間でありながら、この課題ではさらに「+others」の要素が求められます。それは建物を周辺環境とつなぎながら、自分以外の複数の誰かとの接点を想定し、その場所における共同作業を含んで計画するという事です。つまりこの課題では、私+他者、すなわち「(わたしだけの) 専有」と「(みんなの) 共有」を同時にさまざまに考えることが求められます。新しい建築が、敷地および周辺の環境と一体になって含めた魅力ある場所となり、自分や親しい仲間、その場所に訪れる人々に「素敵なか」を与える提案を期待します。

#### 【設計条件】

計画地は坪井近隣公園内に位置する。北西側は遊歩道に、南東側は調整池に面した、間口20m×奥行15mのなだらかな傾斜をもつ水辺空間である。休日にはジョギングする人、家族で憩う人など、公共な広場や公園的な機能として賑わいがある。該当敷地は公園広場と水辺との間の水際に位置し、水陸の環境要素と計画内容がどのような関係をもって魅力ある場所となり得るかを計画するものとする。

- (1) 「マイペース」という定義は自身に住まうスペースではなく、自分がプライベートにかかわる場所としてイメージして良い。各自でストーリー

を設定。自身がかかわるスペースであれば設定は自由。

- (2) 「+」はマイスペースにパブリックスペースをプラスすることを意味する。自分以外の他者も利用できるスペースを提供する。カフェなどの飲食機能も可とし、その場合は水回りなど必要な機能を設計すること。マイスペースとパブリックスペースの関係に留意。
- (3) 水辺を積極的に利用。水辺の水質はきれいな状態であると想定する。
- (4) 建築のみでなく計画敷地全体を有効に計画する。
- (5) 計画地：千葉県船橋市坪井町1371
- (6) 敷地面積：300㎡（90坪）
- (7) 延床面積：30～100㎡（ピロティ・外部階段・テラス・バルコニー・庇等は面積不算入）
- (8) 構造：自由、階数：自由  
 ・地盤は表層から支持地盤となり得る良好なものとする。  
 ・電気・ガス・上下水道は供給済み。  
 ・建築基準法、都市計画法などの関係法規は適用外とする。

#### 【提出物】

- A2判ケント紙横使い4枚。以下のうち①に1枚、②～⑥に3枚を割り当て。
- ① 表紙：設計趣旨や計画説明を文、図（スケッチ・パース等）、写真で構成。
  - ② 配置図：1/100（建築物を屋根伏で表現し、道路、隣地、遊歩道、池との位置関係を示す）
  - ③ 平面図：1/50（各階平面図。1階平面図には外構計画を表現する）
  - ④ 断面図：1/50（2面以上。1面は水際線を横断し、水域と建物との関係を表現する）
  - ⑤ 立面図：1/50（各面4面以上）
  - ⑥ 模型：1/50（プレゼンテーション用。池・遊歩道など周囲もきれいに作成し、建築はこの地盤にしっかり固定すること。現物提出、採点後返却。写真は①に貼付）
- 図面は原則鉛筆描き、インキングも可。

## ベーシックデザイン演習 第1課題 ミクロの世界に立ってみよう

#### ■講評

ミクロの決死隊の主眼は、毎年のことながら空間の中に自分を置いてみることであり、さらにその中で見える空間の状況をわかりやすくスケッチやタイトルで伝達することにあります。ですから、どんなにすばらしい空間を想像しても、それを上空からのぞき込んでいる状態でスケッチしては、この課題の目指すところとはなりません。空間に立つということを表現するときに最も大切なことは、自分の立ち位置

置の床からその廻りの空間がつながっているように表現することです。そうすることで、極めて小さい空間でありながらその場に立っているように見えることとなります。ぜひ、そうしたことを意識して考えて描いてほしいと思います。

●金子真「塵も積もれば山となる」：暗い穴蔵に積まれた物体が上部からの光に照らされています。よく見るとそれは1円玉ということが分かります。多分これは貯金箱なのでしょう、手前の硬貨に乗っている様子が分かります。陰影の付け方などが丁寧に描かれていますが、硬貨そのものと分かりすぎてしまうことが残念です。

●小林陽太「ホチキス」：SF映画に出てくる宇宙船の基地のようなダイナミックな構図です。これからまさに宇宙空間に旅立つような迫力のある画面が丁寧なタッチで描かれています。パネの様子が不自然であり、全体のタッチもあっさりしすぎているところはマイナス点でした。

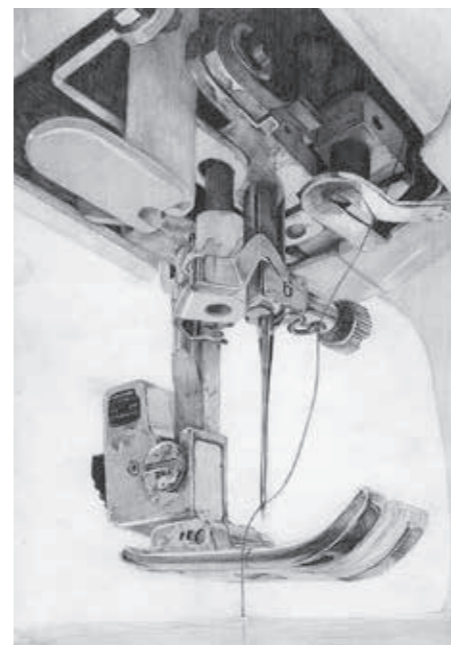
●中村美月「時計」：定番となってしまう、機械式時計の内部です。各歯車やそれを支える軸が丁寧に描かれています。しかしながら、作者がどこに立ち位置を設けているのかが分からないため、空中に浮かんでいるような印象を受けます。歯車の上にも立っていたら、もっとダイナミックな構図になったと思われるます。

●横畑佑樹「光と影」：大変うまいスケッチです。見方によってはシリコンのインゴットのようにも、スカイスクレーパーを思わせるような幻想的な空間が描かれています。よく見てみると、それは懐中電灯のバルブと反射板であることがわかります。この作品も、立ち位置が空中である点が残念です。

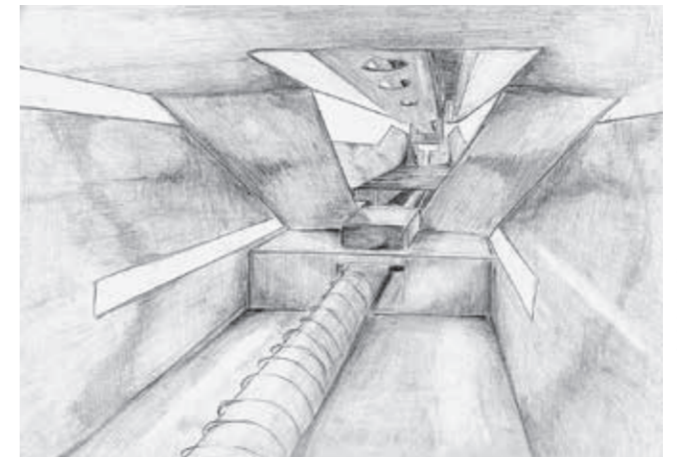
●村山詩織「刺すためそれは縫うため」：今にも動きそうなマシンが描かれています。針の先などは突き刺さりそうに尖っており、この上にいたら身の危険を感じそうになります。確信犯的に危機感をあおっているのです。自分の立ち位置も明確であり、物語性と空間の構成が秀逸な作品といえるでしょう。（佐藤信治）



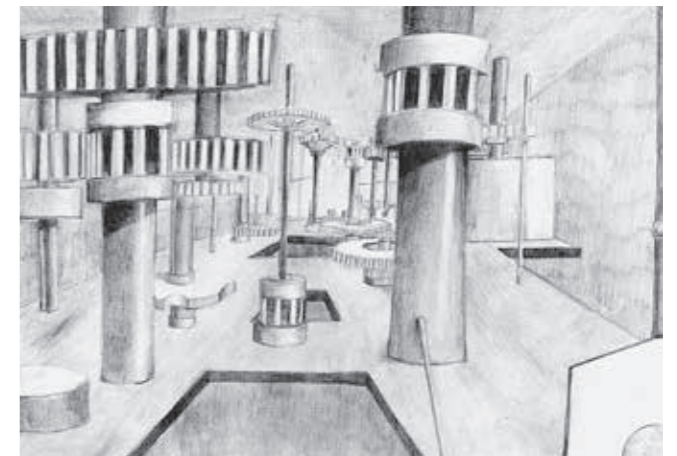
金子 真「塵も積もれば山となる」



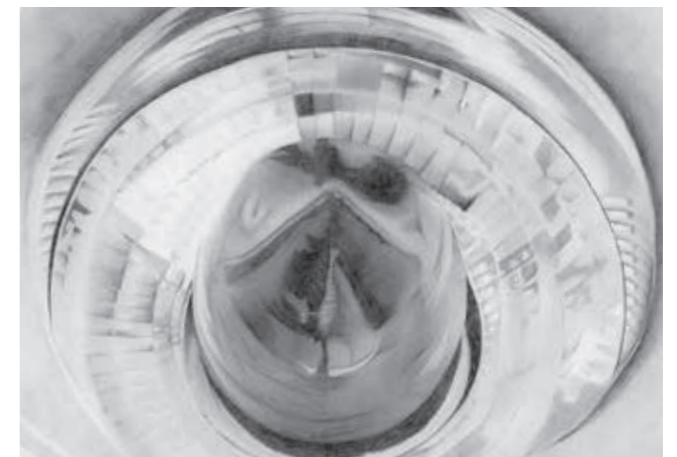
村山詩織「刺すためそれは縫うため」



小林陽太「ホチキス」



中村美月「時計」



横畑佑樹「光と影」

■講評

5m×5m×5mの立方体内に導く「光」をテーマに空間を表現する。1年生が建築計画の演習を行う前に、ウォーミングアップとして毎年行われている課題である。反射、陰影、移ろいなど「光」の姿は、頭の中で想像しただけでは捉えられない。模型を作成して、自然光のもとでその効果を確認し実感することで、そのリアリティーを追求する。

●山本陸人案：上部に設けられたスリット状の開口から採光し、一定の角度で回転配置された材に光を当てる。開口の位置に工夫がされていて、線状の

影、反射、明暗のグラデーションが奥行き感のある表情を上手につくっている。

●漆山雄大案：整然とレイヤードされたフレームを構成的に表現している。フレームの形状を少しずつ変えながら、一番奥に現れる十字型のスリット。とても象徴的で、計算された造形が綺麗にまとめられてる。

●吉澤 玄案：壁天井の各所から突き出したガーターに沿って、意図的にコントロールされた光が入り込む。直線的に進出し減衰していく光の筋が印象的である。また、太陽の移動によって光の強弱や位置が変わっていくのが興味深い。

●西 遼案：立方体に対して一定

の角度振られた不整形の格子を介して、反射させながら光を取り込んでいる。この写真からは想像がつかないが、実物の模型を見ると開口部と内部空間、そこに入り込む光のルートを何度も検討した様子がわかる。やや蛇足に感じられる部分はあれど、斬新な作品である。

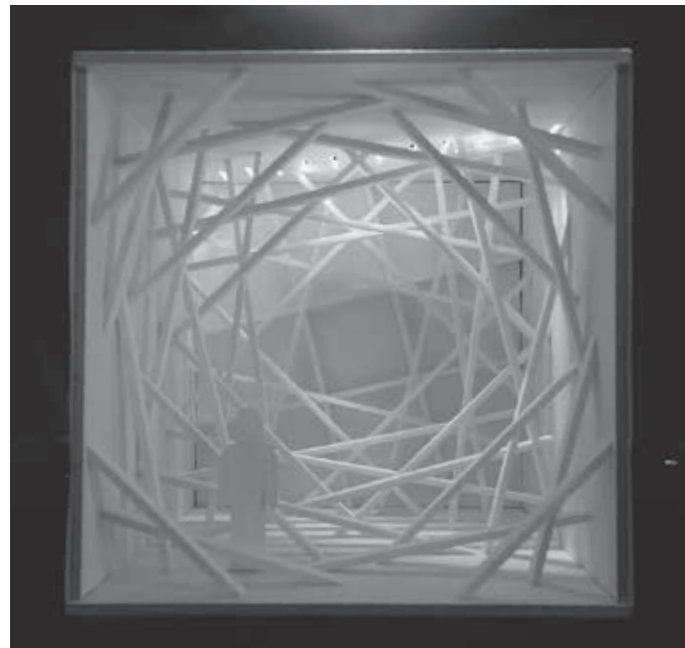
●武田竜治案：天井から壁伝いに落ちる光。それ以外の光を極力抑え、深い陰影の中に微かに浮かび上がる床の起伏。光の通り道と呼応してその中央が切り込まれたのか、より強い象徴性を感じる。

●大野 葵案：立方体の壁面の一つを光が透過する面として、それを背景にして正方形のフレームを幾重にも重ね

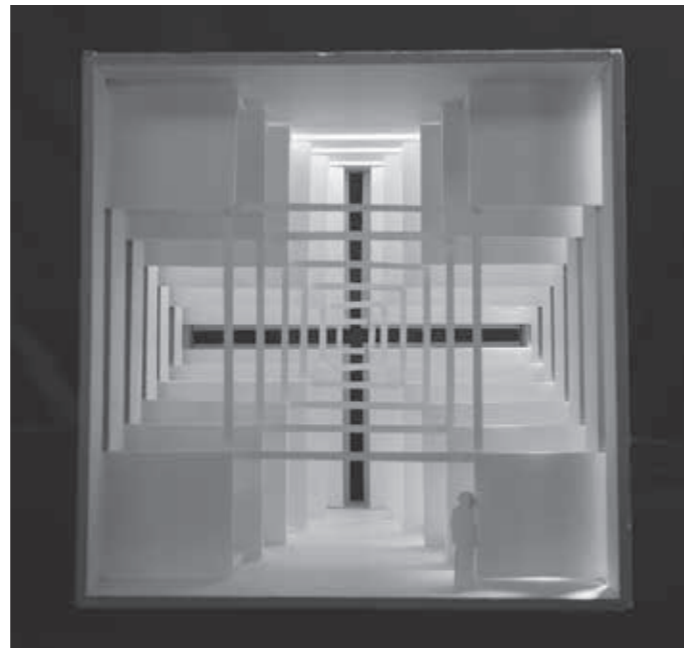
ている。バックライトからの距離によって少しずつ異なる反射と陰影は、まるで抽象絵画のような表情を見せ、とても美しく仕上がっている。

●中村美月案：与えられたスペースを真摯に建築化した。ぼつ窓状の開口部、レフ板のような小片、階段を上り下りしながら、微妙にコントロールされた光を楽しむことができる。体感してみたいと思わせる十分な魅力を提示できている。

●藤島健英案：中心に配置した鳥の巣のようなオブジェが、周囲からの光を受けて存在感を放っている。空間がオブジェの容器のような取り扱いに見えてしまうところは残念だが、迫力のある作品に仕上がっている。(川久保智康)



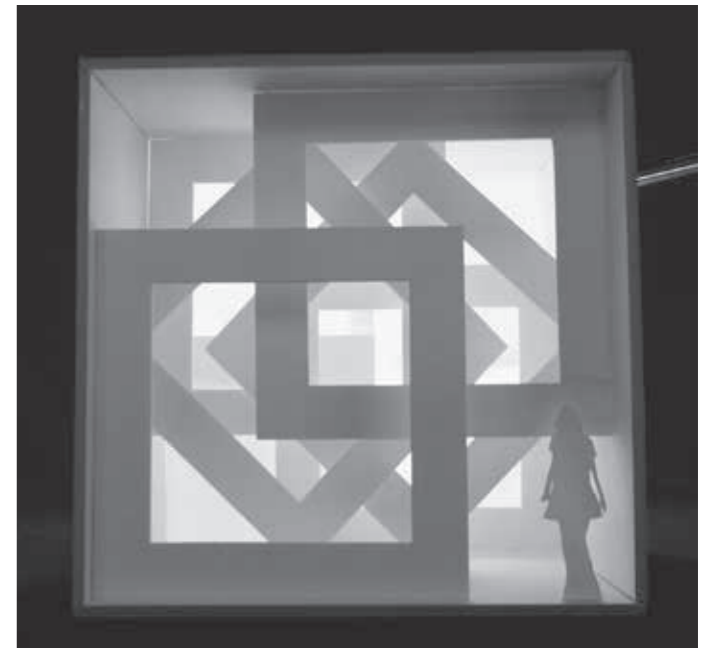
山本陸人



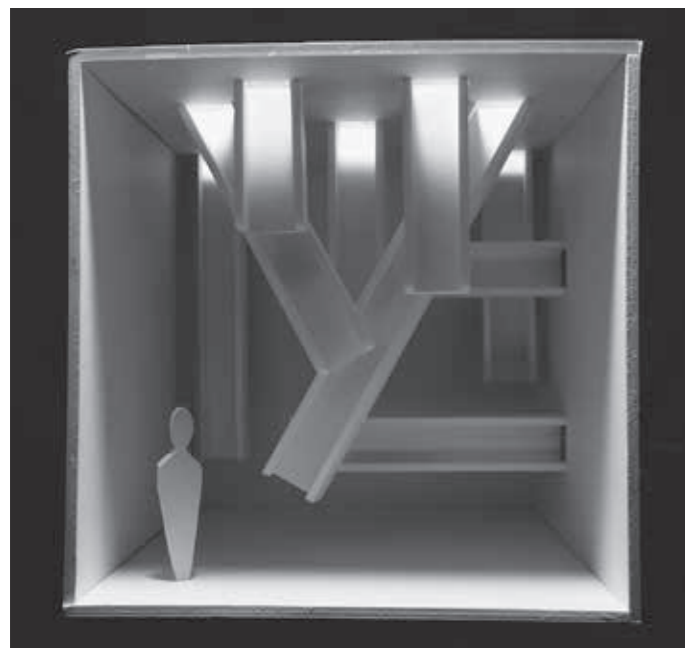
漆山雄大



武田竜治



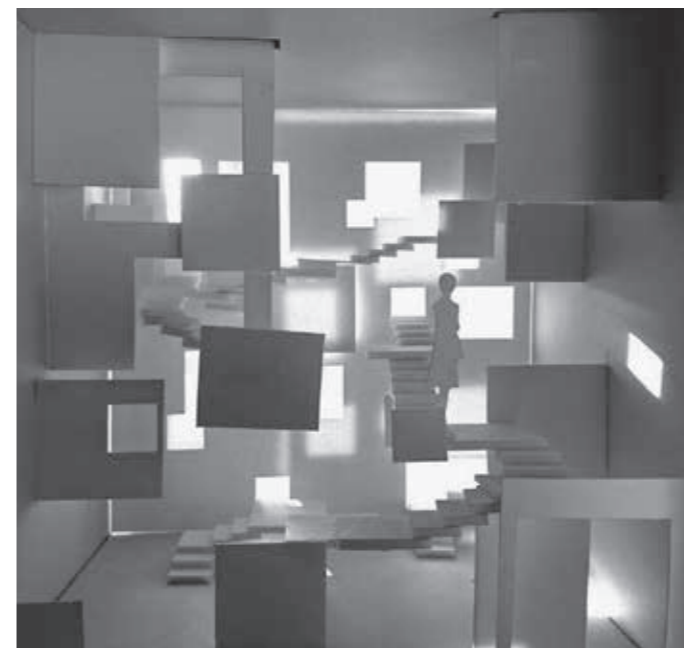
大野 葵



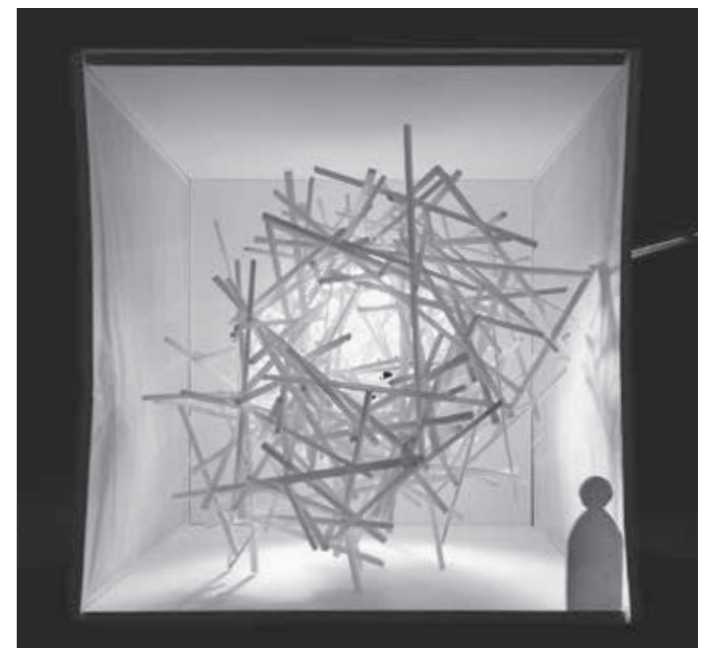
吉澤 玄



西 遼



中村美月



藤島健英

ベーシックデザイン演習 第4課題  
水辺に佇むマイ・スペース  
+ others

小山田駿志

■コンセプト

公園というパブリックな空間にいか  
にマイスペースを設けるかを意識して  
設計した。地下と2階にマイスペース  
を2つ設け、1階をパブリックスペー  
スとした。

地下部分は池に向かって開いており、  
水面より掘り下げることによって周辺からの  
視野も気にならず、池のゆったりとした  
雰囲気を取り込む落ち着いた空間を  
作り出した。2階部分は箱型の部屋が

吊るされており池側をガラス張りにし、  
光を多く取りこむことで明るく、部屋  
が浮いているような空間を作り出した。

地下と2階をつなぐ螺旋階段の周り  
はガラスで囲まれており、他者が一目  
で上へは上がれないと感じさせるのと、  
空間が浮いているように見せる効果が  
ある。1階のパブリックスペースへは  
緩やかな傾斜と踏面の広い階段でアプ  
ローチすることができ、池へ視線が抜  
けるように設計することで公園を訪れ  
た人々を導く動線を確保した。

■講評

小山田駿志君のマイ・スペースは、  
池に向かうビスタ上の水際にあり、公  
園側からは水辺の風景を切り取るゲー

トのように行んでいる。斜面を下り敷  
地に入ると緩やかな上り勾配に変わり、  
階段を数段上がると池を見渡せるテラ  
スに出る。ここは公園を利用するだれ  
もが利用できるパブリックな水辺の空  
間となっている。頭上を覆う木の架構  
から吊り下げられた直方体は巣箱のよ  
うでもあり、水際線を屋根まで延長し  
た木の架構のラインより飛び出したガ  
ラス張りの部分に立つと、池面を飛ぶ  
鳥のような気分にもなれそうだ。巣箱  
はテラスの下にある地下空間とは螺旋  
の階段でつながれているが、テラスと  
はシリンダー状のガラスで隔絶されて  
いる。地下空間の半分は水面よりも深  
く埋められており、ソファに腰かけ  
て水中を眺めていると体内帰帰を思わ

せる原初的な空間体験ができる。淡い  
光に満ちた室内からは、きらめく水面  
の広がりや水辺の木々も見渡せる。  
目的ごとに構想されたボリュームは  
コンクリートの箱、鉄箱+ガラス箱、  
木の架構となって建築的に存在してい  
る。大きな木の架構の下でプライベート  
とパブリックの空間は入れ子構造とな  
り、パブリックスペースと2つのプ  
ライベートな空間とはトポロジカルな  
関係となる。水際線で分けられた地と  
池は3つの空間での親水体験を通じて、  
ポリフォニックに再構成されている。  
マイ・スペースの空間構成が同時一  
体的に OTHERS のパブリックスペー  
スを生みだす、とても素敵な建築であ  
る。(松井正彦)

ベーシックデザイン演習 第4課題  
水辺に佇むマイ・スペース  
+ others

飯尾誠也

■コンセプト

現地調査に行くと、周辺の環境は住  
宅地であり公園内は子どもたちで賑わ  
っている印象が強かった。そのため、  
今回のテーマは水辺に佇むマイスペ  
ースであるが、自分だけのスペースに  
するのはもったいないと感じ、自分も  
子どもも楽しめる空間を計画すること  
を考えた。

まず公園内の敷地予定地は木々が生  
い茂っていたから、その木々を活かす

計画をした。一番のコンセプトは「秘  
密基地のような空間」だったから、生  
い茂った中を探検して行くようにした。  
建物の高低差はあまり設けず、できる  
だけ低く設計し、子どもたちでも簡単  
にデッキに上げられるなどの配慮をした。

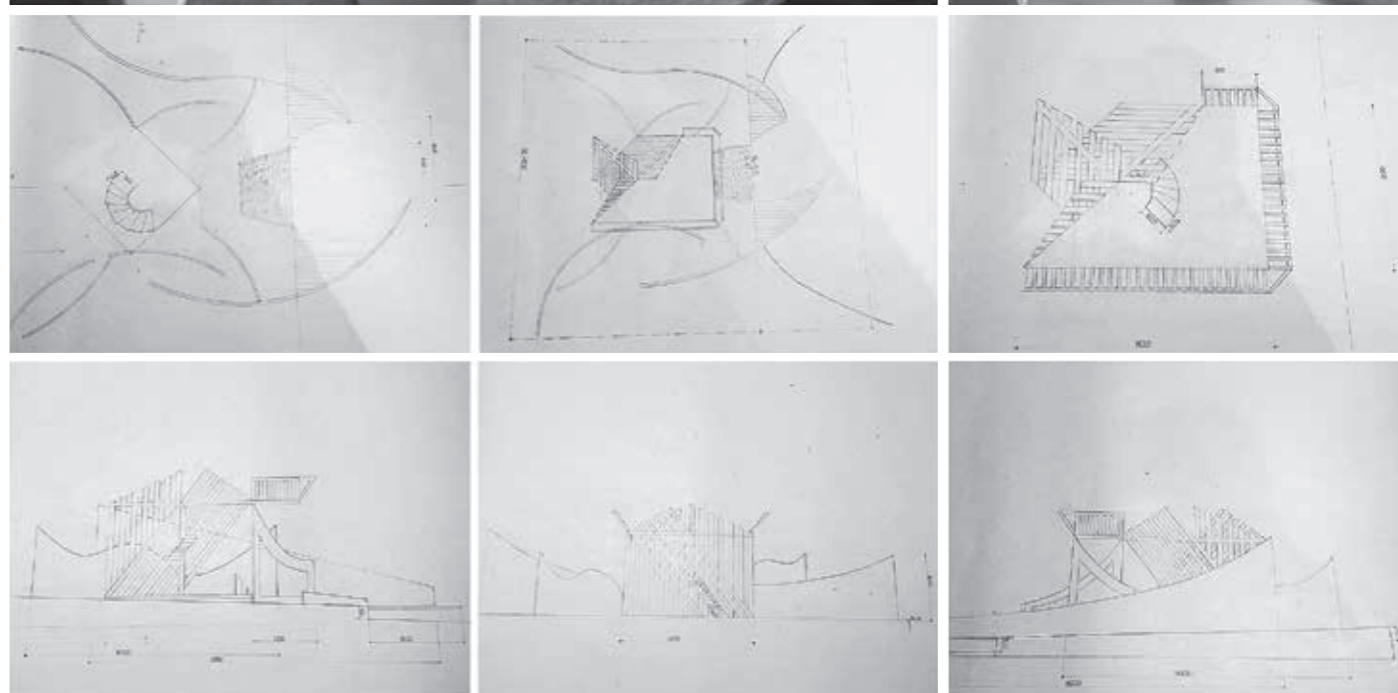
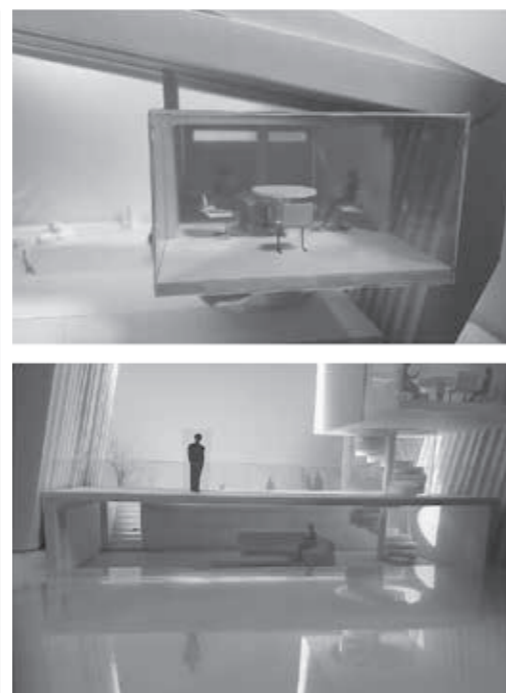
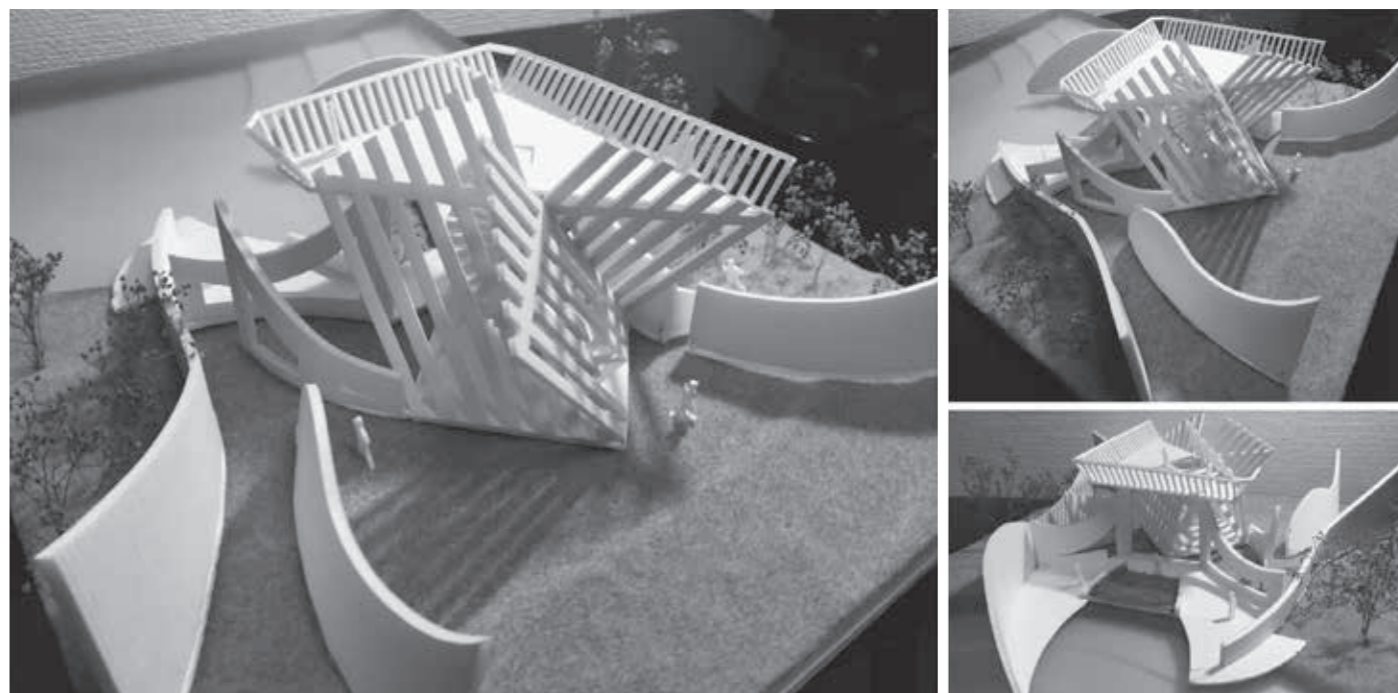
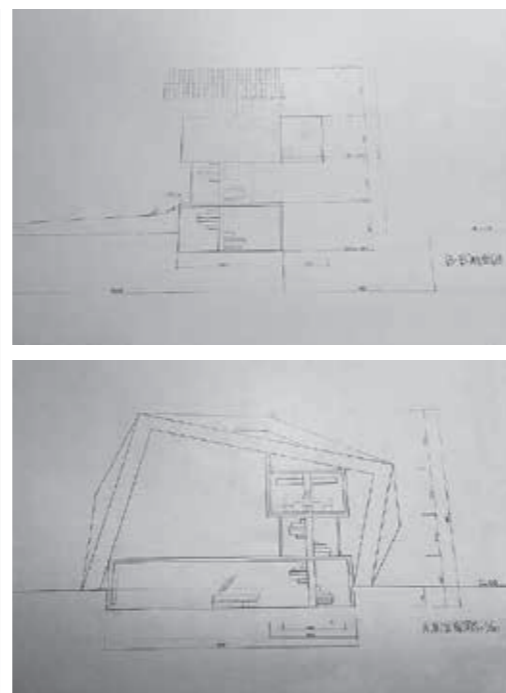
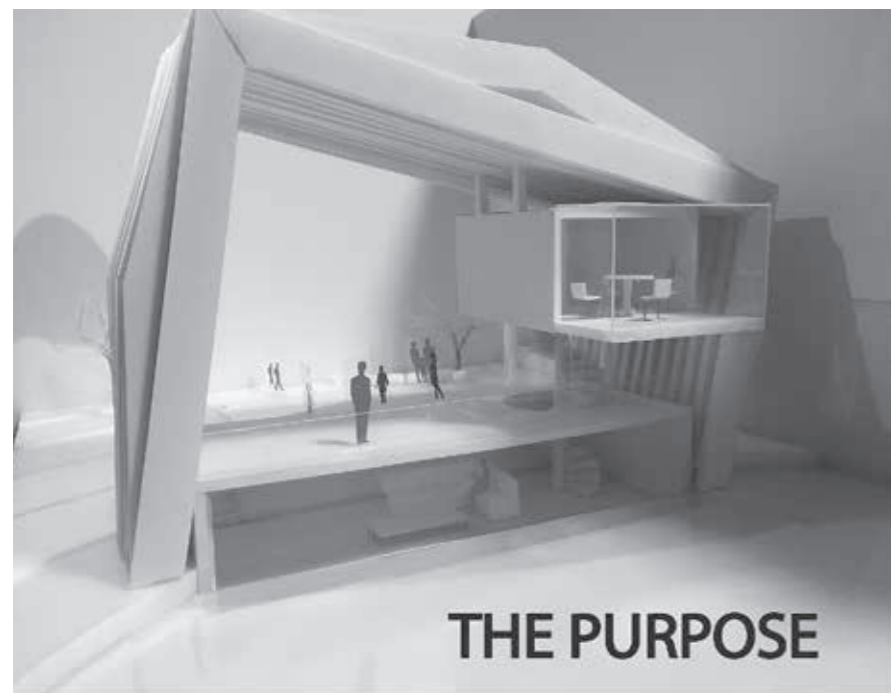
■講評

1年生の課題を締めくくる「マイ  
ペース」は先入観のない柔らかい精神  
のもと、伸び伸びとした作品が生まれ  
やすい課題である。計画敷地の性格か  
ら「マイ」にとどまらない他者との共  
有性をどうプランニングし建築的に具  
体的に解決するかが作品を豊かにする  
ポイントとなる。

飯尾作品は自ら躍動しながらこの場  
所に集まる子どもたちやそれを見守る  
大人を巻き込むパワーを感じる作品で  
ある。とすれば、マイシェルターと  
して完結してしまうこの課題で、有機  
的な壁面のアプローチは建物の中へ誘  
い、取り込むバー状の構造がインディ  
アンのティビ的でもあり、動きのある

展望デッキを支える様はミラーレスの  
そのようでもある。現地の植物と生  
き物のように絡みつく様は、一言、み  
んなを巻き込む元気な作品である。元  
気でありながら水場を取り囲む爪のよ  
うなデッキスペースはなぜかこの建築  
の場の中ではプライバシーを感じさせ  
る包容感がある。そして陸へは閉じる  
ことを許さない躍動的な造形が、そこ  
こへ走り回る子どもたちの底抜けな  
元気さとシンクロする様を想像させる  
楽しい作品である。

これこそがこのマイスペースの課題  
にふさわしいエネルギーなのではない  
かと思う。作者には今後もこの物怖じ  
しない壁を作らない精神を失わずに作  
り続けていってほしい。(鶴田伸介)



中村美月

■コンセプト

公園のテーマである「水と緑の環境軸」を意識し、訪れた人々が水と緑を身近に感じられるような建築を設計しようと考えた。計画予定地に生い茂る木々を建築の周囲と中央部に大きく穿たれた中庭にあえて残し、さらに調整池から水を引き込んで小さな池も設けた。利用者は建築物の中にいながらもまるで外を歩いているかのような開放的な空間で、四季折々の表情を見せる

自然を楽しめる。建築材料として無機質なコンクリートを選んだのは、この素材自体が持つ重く人工的な印象が、四角を主体とした設計にマッチし、自然を対照的に強調すると考えたためである。また、公園という敷地の特性も鑑み、設計には利用者たちの動線を強く意識した。人々は階段をのぼり、1階から3階へと順に移動しながら結果的に建築をぐるりとまわるように一周することになる。高さとともに周囲の景色が流れるように変化していく様を歩きながら堪能することができるのである。

■講評

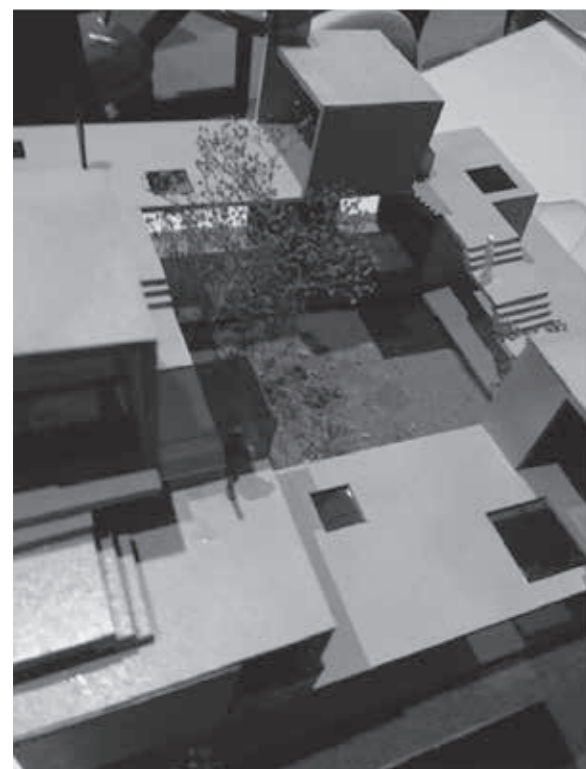
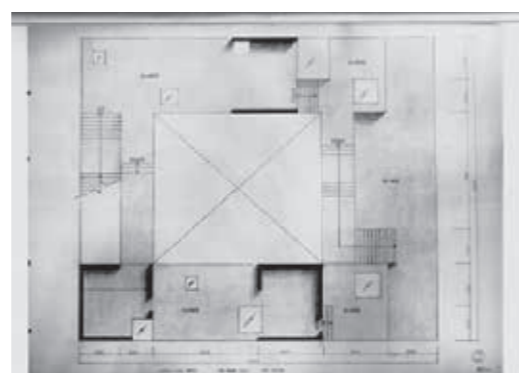
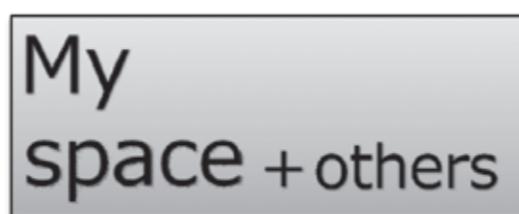
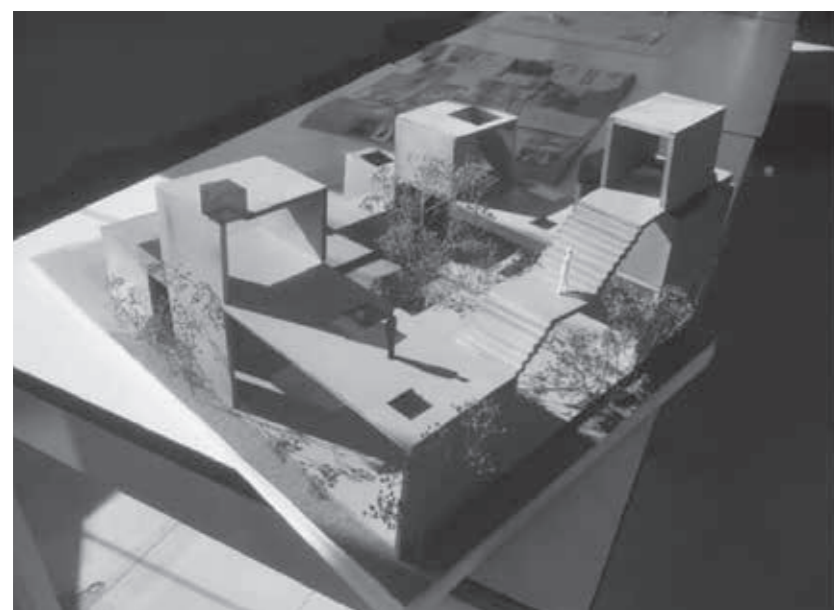
マイスペースという課題は、かなり

曖昧な要素を内包している。それは、個人のものとして空間を構想するけれども、それを共有する必要があるという点からは「パブリック」を求められるということから来ている。設定されている敷地が水域を含む地域の公園の一角であるから、各自が自問自答しながら公私の距離感に向き合うことになるのだ。中村案の大きな特徴は、一見外部から伺える建築自体のボリュームは大きそうであるが、実は内部にオープンスペースを囲い取っているところである。これは、そもそもこの場所にある樹木、水域など「すでにあるもの」に対する敬意について考えていくなから導かれたものだ。そこに建築が挿入されることによって、立体的な

散策路が構成され、この場所を平面的にも断面的にも、多角的に味わうことができる。また、あえて鉄筋コンクリートという強い素材を選び、フレーミングすることで、無機質な空間と自然を対比的に描こうとしている。そして、コンクリートのフレームには水槽のボリュームが象嵌される。それが時に水槽となり、揺らぎのある天窓となり、コンクリートのフレームにもう一つ「光の層」をもたらししているところが、この案がもう一つの深みを獲得しているゆえんである。案自体の完成度も高いが、各図面に細かく陰翳を描き込むなど、提出物の範囲で表現できることに對して、貪欲に取り組んでいる姿勢も評価された。(廣部剛司)

## 2年生（前期：デザイン演習Ⅰ、後期：デザイン演習Ⅱ）

【担当】 小林 直明  
内海 智行  
小野 和幸  
神野 郁也  
木内 厚子  
佐藤 浩平  
玉上 貴人  
筒井 紀博  
鶴田 伸介  
水野 吉樹



### デザイン演習Ⅰ（前期）

#### 第2課題

「公園沿いの住宅

～生活と住空間を考える～」

（出題：木内厚子、小野和幸）

【課題趣旨】

社会的な背景をもとに現代の家族像や生活スタイルを考慮しつつ、周辺環境や景観を配慮した住宅の設計を行います。住まい手の個性を最大限に活かす住空間をイメージし、これからの『住まい方』の提案を求める課題です。

敷地は、船橋日大前駅から徒歩5分程の新しい住宅街の一画にあります。閑静な環境にあり、北側と西側は道路、南は公園に、東側は遊歩道に面しています。道路と敷地は3mのレベル差があり、敷地と公園は1mのレベル差があって、公園に向かって緩やかにのぼる公園内遊歩道や緑地があります。

- 敷地条件
  - 第1種低層住居専用地域
  - 建ぺい率60%、容積率100%
  - 最高高さ制限10m以下
  - 防火地域等の指定なし
  - 構造は自由。地盤は良好
- 設計条件
  - 生活スタイルは各自自由に設定
  - 家族構成は夫婦+子の3人以上
  - 家族各人の寝室、および居間、食堂、台所の他生活に必要な諸室を計画
  - 各室への動線をよく考えて計画
  - 各屋の大きさは適宜設定
  - 家族の距離感や関係を配慮
  - 延床面積120㎡～150㎡程度。階数制限なし、最高高さの制限を守る
  - 駐車スペースは1台以上
  - 内と外、公園や緑地との関係を考慮
  - 各敷地の地形や環境を活かした計画

#### 第3課題

「まちの〇〇〇（居場所）の設計」

（出題：内海智行、神野郁也）

【課題趣旨】

近代住宅は核家族の成立とともに生まれましたが、結果として地域社会の解体を招きました。昨今の地域コミュニティへの関心とともに、一方では核家族像が揺らいでいることが指摘されています。コミュニティカフェ、シェアハウスへの関心は、その一端であるといえます。そこで、第2課題で設計した住宅を既存と捉え、A・Bを合わせた敷地に「まちの〇〇〇（居場所）」の計画を行います。核家族の枠組みを越えて、積極的に他者を迎え入れることによって、「まち」をつなぐきっかけを、そして豊かで魅力的な交流空間の提案を期待しています。

### デザイン演習Ⅱ（後期）

#### 第1課題

「北十間川の集合住宅

～美術館と水辺に隣接する集住体～」

（出題：筒井紀博）

【課題趣旨】

北十間川沿いの敷地に集合住宅を、隣接する水辺の空間および美術館との関係性を配慮して計画する。墨田区は、東京スカイツリーの建設に伴い「北十間川水辺活用構想」が策定され、「ゾーンごとの特性を活かしながら、全体として統一感のある親水空間を形成する」、*「都市的なデザインの中に下町文化が楽しめる水辺景観を形成する」*という基本方針を挙げている。敷地東側東京スカイツリー前面の北十間川はすでに親水空間がデザインされているが、本敷地においても下町的な都市部において、人々が快適に過ごせる「魅力的な水辺の集住体」の提案を求める。計画に当たり、とくに以下が求められる。①敷地Bに「街のアートミュージアム」を計画。川の水辺を挟んで2つの敷地が一体的な環境を形成することをイメ

ージし計画する。②ファミリー層を対象とした住戸（家族構成は3、4人）。

- 計画敷地および周辺条件
  - 右図計画敷地A参照。敷地は770㎡
  - 商業地域（建ぺい率80%、容積率500%）。防火地域
  - 電気・ガス・上下水道は整備済。地盤良好
- 建築物
  - 鉄筋コンクリート造、地上4～7階建て程度。必要に応じ地階可
  - 総戸数は25戸以上、1戸の床面積は65～75㎡程度
  - メゾネットタイプ、トリプレットタイプ等、立体的な住戸形式も可
  - 水辺空間と一体化または関係を意識した貸しイベントスペースを設置
  - 設備は空調設備を設ける。また、エレベーターを必ず設置する
  - 共用エントランスには、メールコーナーを設ける
  - 管理員室・ゴミ保管庫・ポンプ室などを設ける（各10㎡程度）
- 屋外施設
  - 駐車場は平面駐車。来客用兼搬入用1台。その他台数は適宜とする
  - 自転車置場25台分以上設ける
  - 外構計画と北十間川、プロムナードとの関係性を考慮する
  - 広場、遊歩道、テラス、中庭、水盤、東屋、屋上庭園などは、適宜自由

#### 第2課題

「街のアートミュージアム」

（出題：玉上貴人）

【課題趣旨】

課題は「街のアートミュージアム」の設計である。「街の」とあえてつけた意味は、街の顔となり、街に根差した人々の集いの場になるよう考えてほしいからである。敷地の特性を良く読み取り、どのような展示物と建築が本敷地にふさわしいかイメージを膨らませていただきたい。  
1. 計画地（面積：1,800㎡）

- 敷地形状・接道・周辺状況、下図参照
- ②南側前面道路境界から12mまで2m低い。北側河川敷プロムナード高低差2m。敷地内の切土、盛土可
- ③商業地域（建ぺい率80%、容積率500%）、防火地域
- ④電気・ガス・上下水道は整備済。地盤も良好
- 設計条件
  - 延床面積の目安：約1,000㎡。
  - 構造形式自由、地上2階建て程度、必要によって地階も可。
- 施設プログラム（各室面積は参考、合計1,000㎡）
  - 公開部分：エントランスホール160㎡、カフェ120㎡、展示室360㎡
  - 非公開部分：調査研究・収蔵庫120㎡、事務・バック諸室80㎡、搬入荷捌き・機械室・荷物用EV80㎡
  - その他：廊下・階段・EV80㎡
    - 展示室の天井高は3.5m以上とする。
    - 客用トイレ男子（手洗2、大1、小2）、女子（手洗2、大2）、多目的トイレ
    - バリアフリー、UDに配慮する。
    - 車いす来客用兼作品搬出入用1台分駐車場を必ず設けること。
    - 10台分以上の駐輪場を設けること。
- 外構計画
  - 周辺環境に配慮し、とくに北側の親水空間を活かす外構計画とする。



デザイン演習Ⅱ第1・2課題 敷地図



デザイン演習 I 第2課題  
公園沿いの住宅

服部 立

■コンセプト

当敷地はゆるやかな丘陵となっており、公園側には遠くまで見渡せる方向がある。そこで、指向性を持った空間を敷地から立ち上がるような斜辺で構成した「見据える家」をつくった。内部では視線を開けた風景に誘導し、住宅地でありながら景勝地のような解放感を作り出す。中央に吹き抜けを設け回遊性を持ったプランは、上下階にいる家族の存在をお互い「見据える」こ

とができる。

第3課題では住宅オーナーが老後に自宅を児童館への改築を希望したと仮定し、地域にひらく「まちの児童館」をつくった。既存建物が持つ軽快なファサードや回遊性を活かし、遊びの要素を随所に取り入れた。断面でも視線が抜けることで、カフェ利用者が児童館で遊ぶ子どもたちの賑わいを感じることができる。付近に旧住宅地、新興住宅地、駅、大学が位置する敷地に、カフェを備えた児童館をつくることで購買客や利用者、従業員、教育練習、生徒としてなど、さまざまな地域のつながりが生まれる。

■講評

船橋キャンパスからほど近い、古くからの家並みが新興の住宅群へ変節する境界となるエリアの、小さな公園に面して隣り合う2つの区画が敷地として与えられた。そのうちのひとつを選んで住宅を設計するというのが第2課題。5年後その住宅のオーナーが隣地も取得し、既存住宅を活かして地域に開かれた施設を増築するという想定で、時間と空間の連続性について考えるこ

とが第3課題では求められた。

服部君の住宅は、三角形の壁を組み合わせてできる開口部を公園の豊かな緑を仰ぐ高さに開いたり、近隣からの視線を遮って閉じたりして構成されている。周辺環境を取り込みながら外部と内部をシームレスにつなぐ断面・立面計画は独創的で美しい。そして「ひらく・つなぐ・あそぶ」というコンセプトも明快に、地域と建築と人とを結びつけるというテーマに真摯に向き合い、既存に内包されていた吹抜やスキップフロアを進化させた「まちの児童館」への増改築では、スタディー模型で試行錯誤を繰り返したデザインの成果がこの建築をいっそう魅力的なものにした。(水野吉樹)

デザイン演習 I 第2課題  
公園沿いの住宅

Lunenкова Anastasia

■コンセプト

住宅ではフロアを5つに分け、子ども部屋や寝室など、プライバシーを大切にしながら、かつ、廊下などはなく各階へすぐに行くことができ、フロアが完全に重なっていないので、常に人が見え、人の気配を感じられる空間になっている。また、フロアのレベルを分け、縦の空間を利用することで、限られた空間をさまざまな用途で活用できる。さらにこのようにフロアを分け

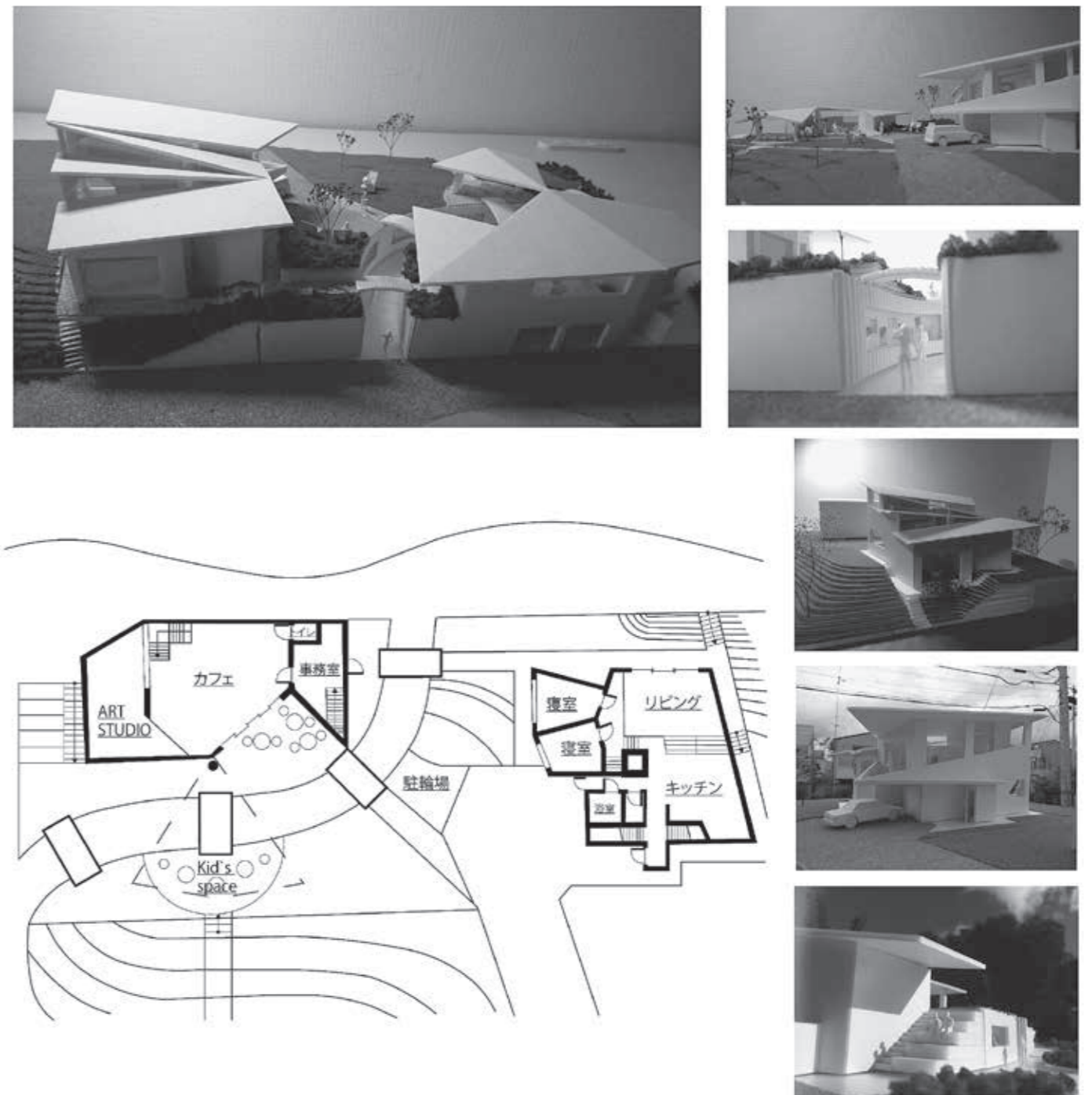
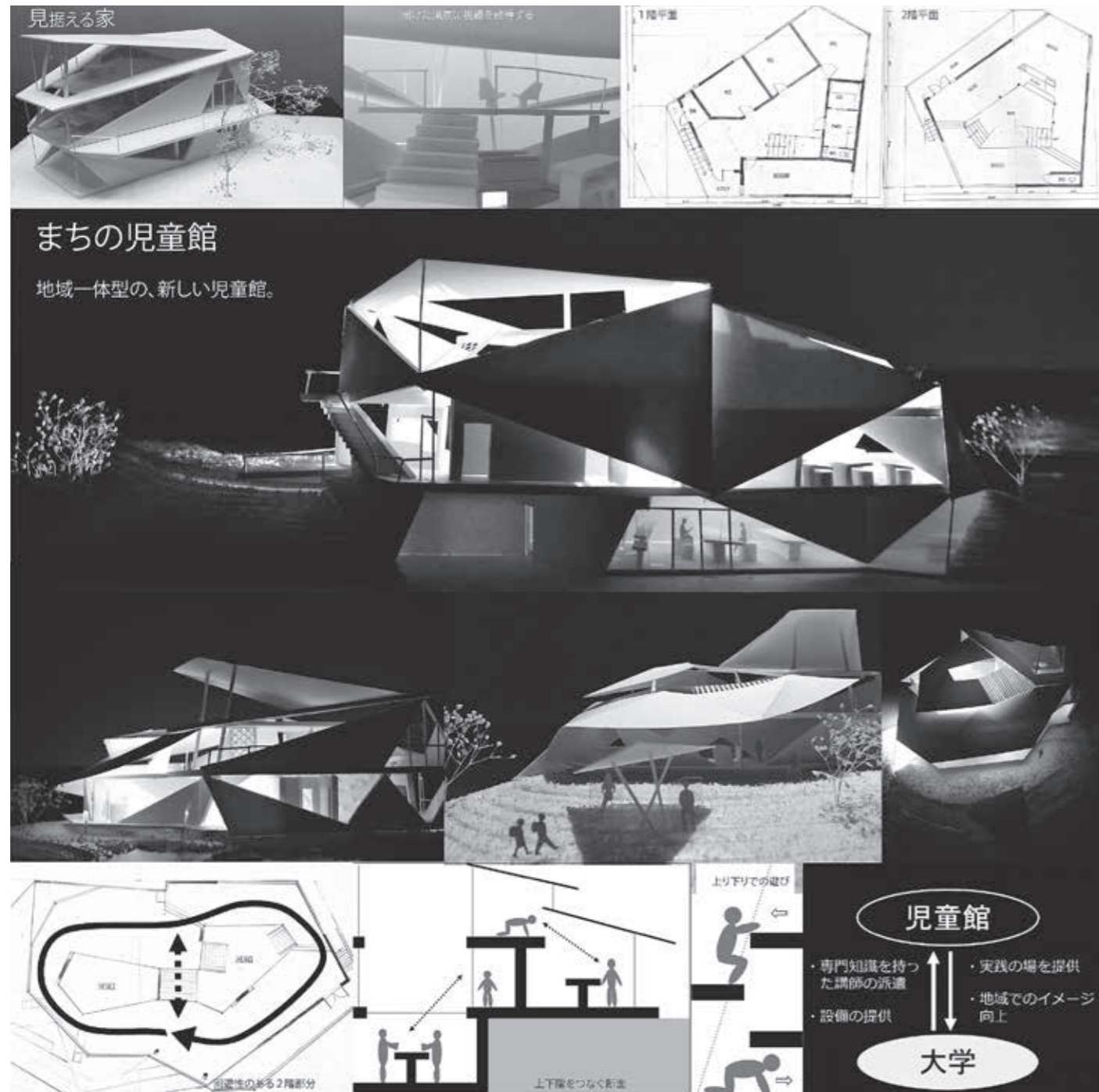
た理由の1つとして、地形が斜面になっているので、その形を活かすために地面を掘り、フロアを配置し、建物の形も横の地形に合わせ、斜めにしている。

もう1つの課題のテーマは「町の○○」であって、住宅の隣の敷地にコミュニティスペースを造るという課題だったので、アートスタジオとカフェの2つの施設で構成されており、さまざまな年齢層が訪れることのできる場所にした。スタジオでは絵を描くことでリラックスし、暇なときに、趣味で時間を過ごすこともできる。また、敷地を2つに分けたいという目的で、公園から道路までもう1つの通路を造り、それを利用するために、直接日の光が

当たらないよう北側の壁に、絵の展示を設けた。それもコミュニティスペースの1つになり、より楽しい、カラフルな地域になると考える。

前の課題で自らの計画した住宅を増築するという設定の課題である。従来の建築計画における隣接環境は他者による与件であった。しかし空地の活用が問われる時代に、周辺とは（自ら）かわりを創り得るものと考え、段階的に統合や再編を図ることも求められるようになる。新たに発生した隣地の取り込み方が問われる中で、アナスタシアさんは、擁壁のある計画地の敷地形状を生かし、2つの敷地に土木的な堀を設け、意図的な離隔を与えている。その狭間の公共的な空間利用の提案、さらにはリズムのある屋根形状をランドスケープと捉え、一体性のある新しい風景を生み出す手法などユニークな統合が施されている。(内海智行)

■講評



服部 立

■コンセプト

北十間川沿いに建つ27戸の集合住宅。いまだ木密地域も残るこの地に一塊のボリュームはそぐわない。そこで水辺の波を抽象化し、メゾネットのユニットを南に向け上下にずらした。この構造には多くの利点が存在する。まず、水平方向の吹き抜けが出現することで、マンションでありながら側面からの採光や換気が可能になった。次に隣戸と共用のバルコニーを設けることで現代

不足しがちな庭先での近所付き合いを復活させる。イベントスペースには水辺環境を活かしたアウトドア拠点を設け、敷地前でのハゼ釣り教室をはじめ、SUP やランニングなど水辺の遊歩道を活かしたアクティビティを促進する。居住空間に至る設備もそれらの活動に適合させた。1階中央部には共用通路を設け、水面は見せるが対岸を隠す視線の効果で北側道路を行く人を水辺および美術館側へと誘導する。これらが合わさり、川辺から街に賑わいを作り出して「東京カワマチ」となる。

■講評

この案の特徴は、各住戸を単純な水平区画ではなく、床と壁の区分を交互に配し、その連続性を集合体としてのファサードに昇格させた点である。WFS と称した交互の界壁は、運河沿いの公共空地からの見上げ、そして上層の占有空間からの見下げに対し、それぞれが絶妙なリズムで視角を制御している。都市の公共性、プライバシーとコミュニティ。集住の課題は尽きない中で、スキップしたシェアバルコニーによる隣接者同士の新しい距離感等、現実性のある手法を提示した秀作である。 (内海智行)

吉澤果南

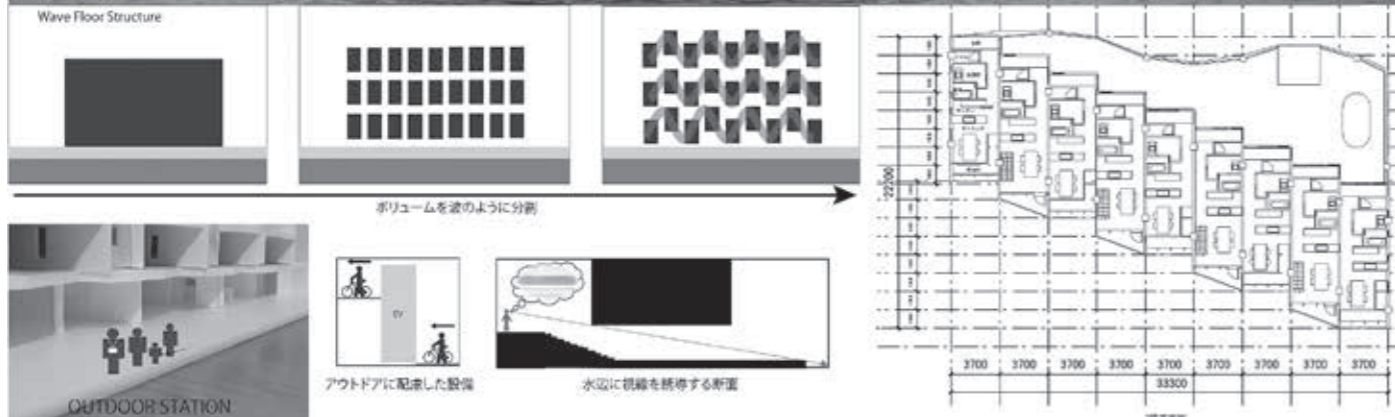
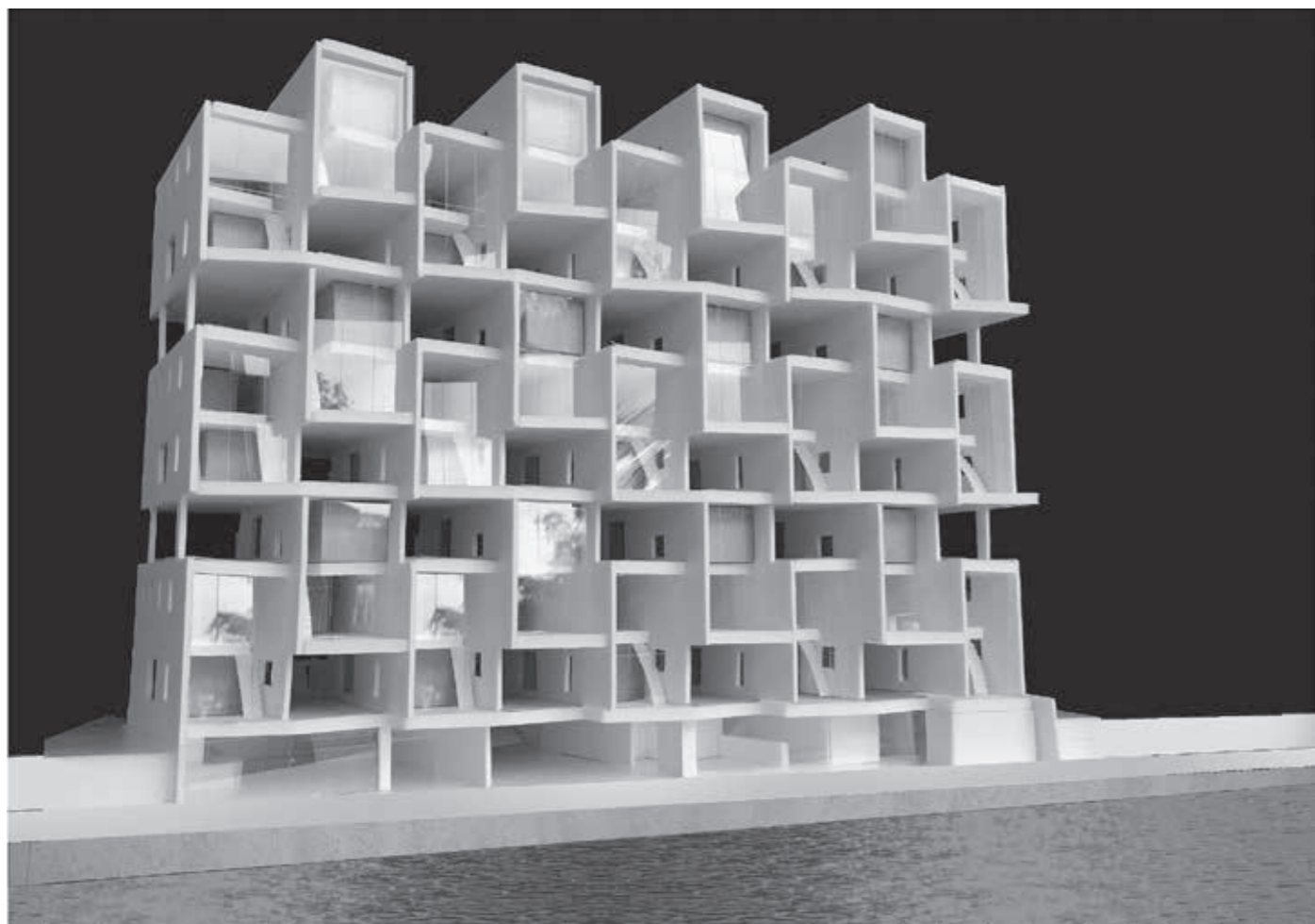
■コンセプト

社会問題にもなっている片親世帯の増加は、計画地である墨田区ではとくに多く問題である。片親世帯が働くためには子どもの面倒を見る人が必要であり、高齢者が適していると考えた。江戸時代の下町文化の栄えていた墨田区で当時のような助け合う精神を今に再起する空間を時代を超える集合住宅として提案する。 高齢者世帯と片親世帯が助け合える

ようにするのが、共用の庭と土間である。共用の庭を通り子どもたちが帰宅したり、リビングとかかわりを持たせることで高齢者とかわる機会を増やす。また高齢者世帯が有する土間空間でご飯を食べ、学び、遊ぶことができる。これは、土間空間という中間領域がこのようなかかわりを可能とする。 高齢者と子どもと親という世代と、江戸の助け合いの精神が時代を超え今に再起することが、必要となってくるだろう。

■講評

本課題はこれまでの課題から比較するとスケールが大きくなり、戸惑う生徒も多く見受けられた。しかし計画地内に要望面積を当てはめようとすると、自ずとボリュームの解が見えてくる課題である。 吉澤さんの案は花街というコンセプトを活かし、江戸末期のモジュールを利用した住居ユニットを現代風にアレンジして、要望面積分のユニット数を積み上げたシンプルな構成である。地域の特性である片親世帯に特化した住まいに着眼した点は面白い。 このユニットの合間に生じる余白を緻密に読み解き、人とのつながりによって生まれる特性、個性、才能の発見と育成の場となる共有の庭と土間を成立させた点も興味深い。 高齢者世帯とのつながりにおいては多少研究の余地があったと思うが、吉澤さんの独特の感性が花街をよみがえらせ、地域のアイデンティティの再構築を多角的に分析し、提案した点は高く評価したい。 (筒井紀博)



時代を超える集合住宅

これまでの墨田区  
江戸末期に墨田川が整備されてから花街が栄えた。今でも料亭や長屋などが見られ、下町文化が色濃く残る街である。当時長屋で多くの人が過ごしていた。この地域の長屋は一部屋が狭く、間口2.7m・奥行3.6mの広さで暮らしていた。

【ダイアグラム】  
この大きさを1つのモジュールとする。 これらを回転させたり、縦や横に動かす。 6タイプの部屋を形成する。



現在の墨田区

墨田区では、23区に比べて片親世帯が約10パーセント多い。また、片親世帯は子供の面倒を見なければならず、働く時間が減り、金銭的な問題が起こる。働きたい昼間の時間帯に子供の面倒を見てくれる人がいれば、そんなことはなくなる。

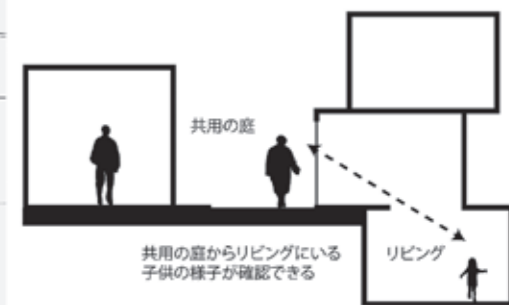
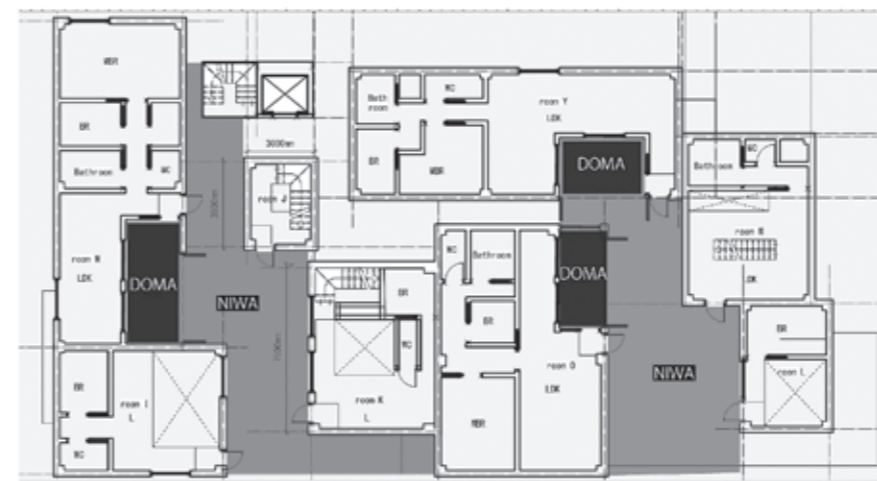
【コンセプト】

片親世帯の親が働く時間に高齢者世帯が子供の面倒を見ることで江戸のような助け合う関係を生み出す。



共用の庭と土間

共用の庭が高齢者と片親世帯をつなぐ。さらに高齢者世帯にある解放可能なDOMA空間でご飯を食べ、遊び、学ぶ。高齢者世帯の部屋ではなく、中間領域である土間が、このようなかかわりを可能とする。



デザイン演習Ⅱ 第2課題  
街のアートミュージアム

勝部秋高

■コンセプト

浮世絵を見て、描かれた場所や景色を体感できれば、歴史を超えた作者の思惑などを今の時代と照らし合わせることができる。

まず、浮世絵が多く描かれていた江戸時代の城下町に広がる堀を抽象化し、美術館の展示エリアに關係させる。エントランスホールを中心に6つの地域に対応した展示部屋を作り、層のように渦巻状に配置する。そしてその層を

貫くように順路を敷きトンネルでつなげた。床に描かれた古地図と浮世絵の場所を現在の写真とともに展示。子どもたちはその床に描かれた地図ガイドを頼りに進んでいく。建物の形状にあらわれている特徴的なスパイラルは周りの多種多様な人的動線を取り込むという役割も果たしている。北側の4車線道路には2階のレベルで接し、公園からは高架下のトンネルと1階間がつながっている。川に対してはオープンカフェを隔ててプロムナードまで人々が流れるような空間構成で、敷地半分がオープンスペースだ。広いランドスケープではフードステーションやイベントなどを仮設、実施。

■講評

墨田区の北十間川と大横川親水公園に隣接する業平地区に街のミュージアムを設計する課題である。江戸の水系ネットワークを形成した運河に面した立地環境において、建築がいかに関与できるかを問う課題でもある。

勝部案は、浮世絵を展示テーマに掲げ、地勢的な歴史の文脈を参照しながら、都市の骨格を成す水系の構図を建築空間に浮かび上がらせようと試みている。街や生活の中にある風景を、時間的な変遷を対峙させて展示することで、空間体験として具現化する意図である。曲線を持つ展示室が規則性を持ちながら段階的に渦を成し配列することで、連鎖する場面展開が設定され、高低差のある敷地において重層的な動線を引き込み、エントランスから展示へのアプローチへと連続している。都市のコンテクストに回答しながら、統合した建築構成そのものが街の風景に新たな輪郭をかたちづくる秀逸な提案である。(小野和幸)

デザイン演習Ⅱ 第2課題  
街のアートミュージアム

田中考登

■コンセプト

計画地である墨田区では、かつては水路がいたるところに張り巡らされ、生活上重要な役割を担い、人と水辺との共生が実現していた過去がある。

本計画では、既存の北十間川親水整備構想の考え方に習い、それを後押しするとともに、水辺空間、とくに水路について、そのあり方を考え直すきっかけを提供することを目的としている。常設展では、「名所江戸百景」や

「江戸名所図絵」等、江戸期における資料等をもとに、水辺空間の変遷と現状を認識し、企画展では、実際に空間を体験することにより、水辺空間の持つ魅力を感じ取るよう構成している。

水路は交通・生産・防災・娯楽等、さまざまな機能を有しており、魅力的な水辺空間の一つである。そこで、水路という空間を「環境美術」としてフレームをあて、あらゆる視点から水路をみるといった、新たな展示方法の提案、加えて、江戸時代では日常的な交通手段であった舟での移動を現代に取り戻し、ゆったりとした時間の流れを感じながら、普段とは違った目線で街並みを眺めるといった、新たなライフスタイルの可能性をみるとともに

「水路の美術館」を提案する。

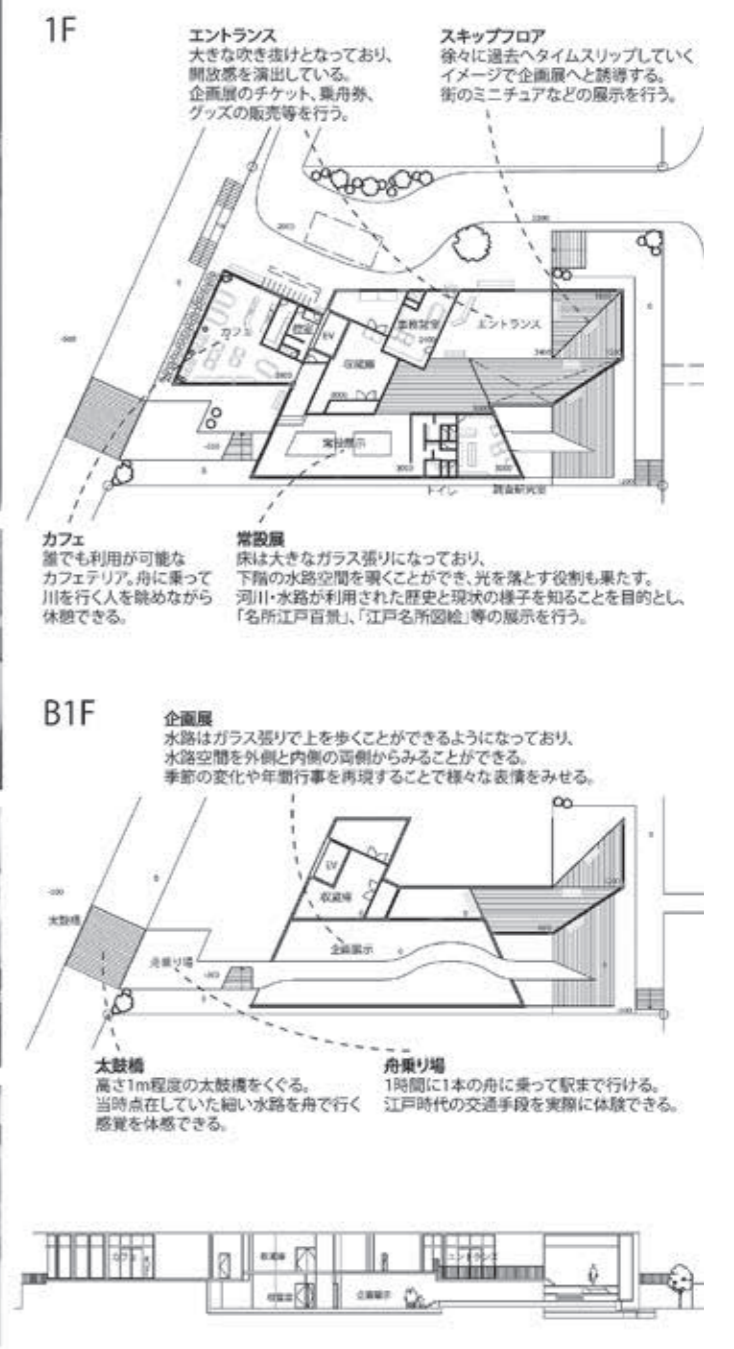
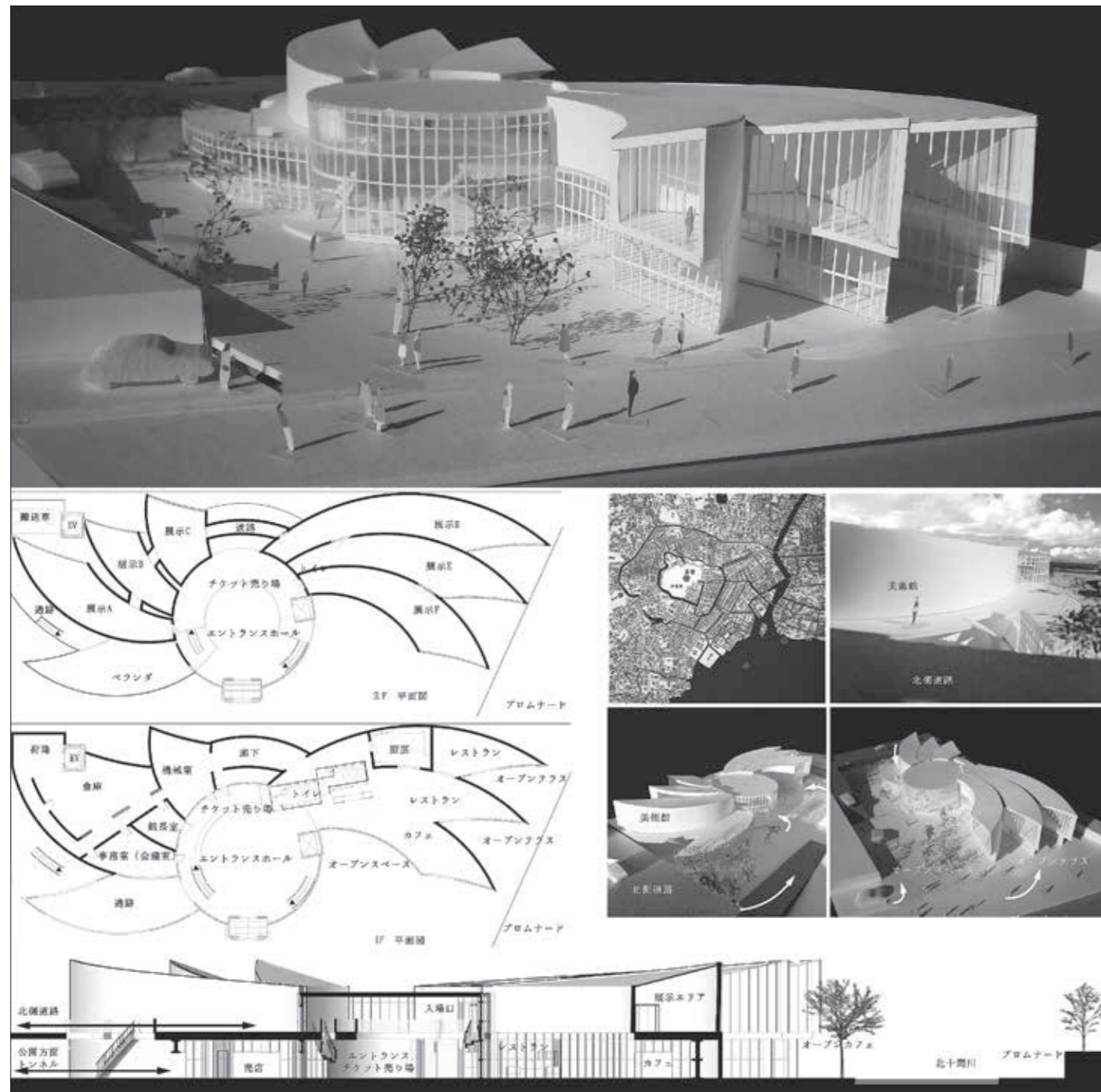
画建物は時間的・空間的に地域とつながる拠点となっている。この美術館を訪れる人々は、周遊しながら地域での歴史的な時間と空間を体験することとなるだろう。

ここでは「水路」がキーワードとなっているが、北十間川から建物に大胆に取り込まれた水路は企画展示エリアとし、その上部に設けたガラスに浮かぶように常設展示エリアを計画することで、2つの空間は合わせ鏡のように「水路」のイメージを拡張している。さらにフラットルーフとすることで、その強度は高められている。その意味で、この案は水路を立体的に取り込んだ魅力的な都市空間を生成しているのではないだろうか。(神野郁也)

■講評

この課題は東京スカイツリーの足元につながる北十間川と南側の大横川親水公園に挟まれた敷地に美術館を計画するものであるが、地域への公共的なまなざしも求められる。

田中案は美術館の展示空間に水路を持ち込むことで、敷地に接する(陸域一水域)異なるアクセス条件を積極的に結びつけることに成功しており、計



# 3年生（前期：デザイン演習Ⅲ、後期：建築メディアデザイン）

## 前期：デザイン演習Ⅲ

### 第1課題

#### 「海の駅」

（出題：川久保智康、佐藤信治）

### 第2課題

#### 「水族館」

（出題：廣部剛司、新田知生）

### 第3課題

#### 「プレゼンテーション」

（出題：光井 純）

## 後期：建築メディアデザイン

### 第1課題

#### 「海の駅」

（出題：川久保智康、佐藤信治）

### 第2課題

#### 「水族館」

（出題：廣部剛司、新田知生）

### 第3課題

#### 「プレゼンテーション」

（出題：光井 純）

## 前期：デザイン演習Ⅲ

### 第1課題

#### 「海の駅」

（出題：川久保智康、佐藤信治）

### 第2課題

#### 「水族館」

（出題：廣部剛司、新田知生）

### 第3課題

#### 「プレゼンテーション」

（出題：光井 純）

## 後期：建築メディアデザイン

### 第1課題

#### 「海の駅」

（出題：川久保智康、佐藤信治）

### 第2課題

#### 「水族館」

（出題：廣部剛司、新田知生）

### 第3課題

#### 「プレゼンテーション」

（出題：光井 純）

## 前期：デザイン演習Ⅲ

### 第1課題

#### 「海の駅」

（出題：川久保智康、佐藤信治）

### 第2課題

#### 「水族館」

（出題：廣部剛司、新田知生）

### 第3課題

#### 「プレゼンテーション」

（出題：光井 純）

## 後期：建築メディアデザイン

### 第1課題

#### 「海の駅」

（出題：川久保智康、佐藤信治）

### 第2課題

#### 「水族館」

（出題：廣部剛司、新田知生）

### 第3課題

#### 「プレゼンテーション」

（出題：光井 純）

## 前期：デザイン演習Ⅲ

### 第1課題

#### 「海の駅」

（出題：川久保智康、佐藤信治）

### 第2課題

#### 「水族館」

（出題：廣部剛司、新田知生）

### 第3課題

#### 「プレゼンテーション」

（出題：光井 純）

## 後期：建築メディアデザイン

### 第1課題

#### 「海の駅」

（出題：川久保智康、佐藤信治）

### 第2課題

#### 「水族館」

（出題：廣部剛司、新田知生）

### 第3課題

#### 「プレゼンテーション」

（出題：光井 純）

【課題意図】  
『海の駅』は、海からはもちろんのこと陸からもアプローチできる、誰もが気軽に楽しめるマリンレジャーの拠点である。一時係留設備（ビジターバース）、マリンレジャーに関するイベントや情報発信、レンタルボートやクルージングの基地、レストラン・カフェ等の営業、海産物等の物品販売など、地域観光の足掛かりと、それぞれの特性を活かした取り組みが実施されている。この様に『海の駅』とは、休憩施設と地域振興施設が一体となった施設であり、単体としての機能に加えて海の駅ネットワークの構築が図られるものである。主に考慮すべき特徴とし、以下の3つの機能に整理できる。

(1) 休憩機能：海路利用者が24時間自由に利用できる休憩施設の提供

(2) 情報発信機能：来館者に対してその地域の文化・名所・特産物などを活用したサービスの提供

(3) 地域連携機能：各地域（町）の核となり、海路を介した地域（町同士）連携の促進。

計画地は天王洲エリアの東品川海上公園付近である。課題は、東品川海上公園の周辺環境を生かしながら、全面運河を水辺資源として有効利用する水上の交通と地域活性の拠点としての機能を拡充する施設とする。設定敷地は約9,100㎡。既存都市部より延長する臨海部の結節点として、賑わいを演出することのできる施設計画を求める。

【設計条件】

(1) 敷地および建築条件

計画地：品川区東品川3丁目 東品川海上公園地区、用途地域：準工業地域、建ぺい率の限度：60%、容積率の

限度：300%、地区地域：準防火地域、敷地は平坦で道路や隣地との段差はない、敷地東側に橋がある、電気・ガス・上下水道は整備済、地盤は軟弱であり杭基礎とするが耐圧盤下の表現は不要、計画建物の規模は計画諸元による、隣地および道路境界より2m程度セットバックすること、構造形式自由。

(3) 計画諸元

①建築諸室：延べ面積 約2,000㎡（各室面積の±10%を許容範囲とする）

・客用部門（計1,450㎡）：エントランスホール（200㎡）、待合ラウンジ（100㎡）、レストラン・カフェ（300㎡）、物産販売店舗（400㎡）、展示スペース（250㎡）、来館者用化粧室（80㎡）、廊下・階段・客用EV（120㎡）

・管理部門（計550㎡）：事務室（170㎡〈水上バスの乗船チケット窓口〉）、会議室・応接室（50㎡）、宿直室（15㎡）、給湯室・従業員トイレ（15㎡）、管理エントランス・廊下・階段・人貨用EV（100㎡）、倉庫（100㎡）、機械室（100㎡）

②屋外施設：水上バスの乗降棧橋、アプローチ、広場、散策路、植栽等を、建築と一体のランドスケープとしてデザイン。来館者用駐車場は隣接地既存駐車場を利用するが、専用駐車場として大型車用5台、身障者用2台、サービス用2台程度の駐車スペースを確保。

【提出物】

(1) 表紙：作品タイトル、設計趣旨（テキスト・ダイアグラム）、面積表、パース、スケッチ、模型写真等で明快かつ視覚的に表現

(2) 配置図（縮尺1/500）：建築物は屋根伏とし、外構計画を表現

(3) 平面図（縮尺1/200）：各階平面、室名は凡例をつけて略号も可。1階平面図には周辺の外構も記載

(4) 立面図（縮尺1/200）：4面すべて、影や素材等を表現

(5) 断面図（縮尺1/200、1/300）：2

面以上、水域と建物との関係がわかること（南北、東西それぞれ）

(6) 模型（縮尺1/200）：模型提出のほか、模型写真2カット以上を表紙にレイアウト

(7) 内観パース：手描きでもCGでも表現方法は自由。1カット以上

【計画諸元】

(1) 敷地面積：約21,300㎡

(2) 延床面積：合計 約6,000㎡

①パブリック部門：約3,500㎡（観覧室、レクチャールーム、レストラン+カフェ、ミュージアムショップ、休憩ロビー、休憩ラウンジ、エントランスホール+廊下、来館者用化粧室）

②管理部門：約2,500㎡（展示水槽、作業室、飼育室+研究室、荷解きスペース、事務室、会議室、館長室、宿直室、給湯室+従業員化粧室、更衣室、管理エントランス+廊下、機械室）

③屋外施設（導入施設、駐車場施設、その他のランドスケープ）

【提出物】

(1) 図面

①配置図：縮尺1/500

②各階平面図：縮尺1/200

③立面図：縮尺1/200（2面以上）

④断面図：縮尺1/200（2面以上）

(2) 計画概要（表紙とする）

①タイトル

②設計趣旨：計画意図を的確に文章化し、ダイアグラム、フロー図などを交えて、簡潔かつビジュアルに表現。

③各階の床面積（部門別）および延べ面積を表としてまとめる。

(3) 模型および模型写真

①模型は縮尺1/200で施設の周囲を含めて仕上げる。

②写真はキャビネ判程度。4点以上。

(4) 図面提出仕様：A1判横使い、左綴じ。コンセプトおよびゾーニング図、面積表並びに写真を貼ったものを

表紙とし、レイアウト、着色は自由。CAD等の使用は自由とする。

・コンセプトの表現：コンセプトを具

体化する水際空間の設計、屋外展示を含む造形性とそのプレゼン表現

・地域再開発的配慮：敷地東側に隣接する第1課題の海の駅と後期課題の

宿泊施設との連動性、景観的な配慮、周辺環境との関係性

【計画諸元】

(1) 敷地面積：約21,300㎡

(2) 延床面積：合計 約6,000㎡

①パブリック部門：約3,500㎡（観覧室、レクチャールーム、レストラン+カフェ、ミュージアムショップ、休憩ロビー、休憩ラウンジ、エントランスホール+廊下、来館者用化粧室）

②管理部門：約2,500㎡（展示水槽、作業室、飼育室+研究室、荷解きスペース、事務室、会議室、館長室、宿直室、給湯室+従業員化粧室、更衣室、管理エントランス+廊下、機械室）

③屋外施設（導入施設、駐車場施設、その他のランドスケープ）

【提出物】

(1) 図面

①配置図：縮尺1/500

②各階平面図：縮尺1/200

③立面図：縮尺1/200（2面以上）

④断面図：縮尺1/200（2面以上）

(2) 計画概要（表紙とする）

①タイトル

②設計趣旨：計画意図を的確に文章化し、ダイアグラム、フロー図などを交えて、簡潔かつビジュアルに表現。

③各階の床面積（部門別）および延べ面積を表としてまとめる。

(3) 模型および模型写真

①模型は縮尺1/200で施設の周囲を含めて仕上げる。

②写真はキャビネ判程度。4点以上。

(4) 図面提出仕様：A1判横使い、左綴じ。コンセプトおよびゾーニング図、面積表並びに写真を貼ったものを

表紙とし、レイアウト、着色は自由。CAD等の使用は自由とする。

・コンセプトの表現：コンセプトを具

体化する水際空間の設計、屋外展示を含む造形性とそのプレゼン表現

・地域再開発的配慮：敷地東側に隣接する第1課題の海の駅と後期課題の

宿泊施設との連動性、景観的な配慮、周辺環境との関係性

【計画諸元】

(1) 敷地面積：約21,300㎡

(2) 延床面積：合計 約6,000㎡

①パブリック部門：約3,500㎡（観覧室、レクチャールーム、レストラン+カフェ、ミュージアムショップ、休憩ロビー、休憩ラウンジ、エントランスホール+廊下、来館者用化粧室）

②管理部門：約2,500㎡（展示水槽、作業室、飼育室+研究室、荷解きスペース、事務室、会議室、館長室、宿直室、給湯室+従業員化粧室、更衣室、管理エントランス+廊下、機械室）

③屋外施設（導入施設、駐車場施設、その他のランドスケープ）

【提出物】

(1) 図面

①配置図：縮尺1/500

②各階平面図：縮尺1/200

③立面図：縮尺1/200（2面以上）

④断面図：縮尺1/200（2面以上）

(2) 計画概要（表紙とする）

①タイトル

②設計趣旨：計画意図を的確に文章化し、ダイアグラム、フロー図などを交えて、簡潔かつビジュアルに表現。

③各階の床面積（部門別）および延べ面積を表としてまとめる。

(3) 模型および模型写真

①模型は縮尺1/200で施設の周囲を含めて仕上げる。

②写真はキャビネ判程度。4点以上。

(4) 図面提出仕様：A1判横使い、左綴じ。コンセプトおよびゾーニング図、面積表並びに写真を貼ったものを

・全体模型：縮尺1/1000

(2) 計画概要（表紙）

・計画コンセプトに合致したタイトル。

・設計趣旨を分かり易く的確に文章化し、ダイアグラム、フロー図などを交えて簡潔かつビジュアルに表現する。

・計画の全体像がわかる大型の模型写真を一点入れる。

(3) 模型は縮尺1/1000、敷地内外を含めて仕上げる。写真はキャビネ判4点以上とする。

(4) 図面仕様：A1判横使い、左綴じ。コンセプトおよびゾーニング図、面積表並びに写真を貼ったものを表紙とし、レイアウト、着色は自由。左側2個所のファスナー止めとする。CAD等の使用は自由とする。

【課題趣旨】

海の駅と水族館、そしてアーバンリゾートホテルの計画を想定した計画地全体のマスタープランとランドスケープデザインを課題とします。

計画地はゆりかもめ・台場駅、船の科学館駅から徒歩10分圏内とアクセスが良好。周辺地域に大型商業施設やホテルが開発済で2020年のオリンピック開催に向けてさらなる発展が見込まれる場所です。海の駅、水族館、ホテルとそれら結びつけるランドスケープ含んだ複合再開発を計画してください。

【課題のポイント】

①駅やお台場海浜公園から連続する歩行動線をつくる②アクセスを想定した車両動線をつくる③三施設共有の公共駐車場を設ける④車両進入エリアと歩行者のみの利用エリアとの明確なゾーニングを行う⑤屋外空間づくりにおいて樹木の粗密感に配慮する⑥水際への人のアクセスを可能にするための、歩行者動線や親水空間をつくる⑦マスタープランの骨格をつくるにあたり、軸、ノード、シークエンス、ビューコリドールなどの基本的なデザイン手法を意識しながら組み立てる⑧東京湾の環境資源や景観要素を取り込んだランドスケープデザインに取り組む

【提出物】

(1) 図面

・マスタープラン平面図：縮尺1/1000

・部分断面図（2面以上）：縮尺1/200または1/100

・全体模型：縮尺1/1000

(2) 計画概要（表紙）

・計画コンセプトに合致したタイトル。

・設計趣旨は、簡潔に分かり易く、ダイアグラム、フロー図などを交えて、ビジュアルに表現する。

・各階の床面積（部門別）および延べ面積を表としてまとめる。

(3) 模型は全体：縮尺1/400、部分：縮尺1/100程度、A1判サイズに仕上げる。写真はキャビネ判4点程度。

(4) 図面提出仕様：A1判横使い、左綴じ。コンセプトおよびゾー

・構造形式自由。木耐火構造集材材、木とS造・RC造の構造等も可。

(3) 計画諸元

①宿泊エリア（約8,500㎡）：ツイン・ダブルルーム100室程度（4,500㎡）

・スイートルーム10室（1,500㎡）、通路・階段等（2,500㎡）

②パブリックエリア（約8,300㎡）：ロビー・共用スペース（2,000㎡）、レストラン（2,000㎡）、ショップ（800㎡）、宴会場・会議場（1,500㎡）、ジム・スパ（2,000㎡）

③管理エリア（約4,200㎡）：裏方サービス諸室（2,000㎡）、機械室（1,500㎡）、廊下・その他（700㎡）

【提出物】

(1) 図面

配置図：縮尺1/400、各階平面図：縮尺1/200、客室平面図 パース：縮尺1/50、立面図・断面図（各2面以上）：縮尺1/200

(2) 計画概要（表紙）

・計画コンセプトに合致したタイトルを考

える。

・設計趣旨は、簡潔に分かり易く、ダイアグラム、フロー図などを交えて、ビジュアルに表現する。

・各階の床面積（部門別）および延べ面積を表としてまとめる。

(3) 模型は全体：縮尺1/400、部分：縮尺1/100程度、A1判サイズに仕上げる。写真はキャビネ判4点程度。

(4) 図面提出仕様：A1判横使い、左綴じ。コンセプトおよびゾー

ング図、面積表並びに写真を貼ったものを表紙とし、レイアウト、着色は自由。左側2個所のファスナー止めとする。CAD等の使用は自由とする。

【課題趣旨】

年度を通じて学んだことを総括する学習として位置づけ、これまでのすべての課題の成果を一つのプレゼンテーションとしてまとめて説明する技術を学ぶための演習です。

【課題の想定】

あなたがマスタープランおよび三施設の建築の設計者の立場となり、東京オリンピックに向けてこのお台場の敷地を開発して環境の充実を図り集客を図りたい開発者に対して、デザインプレゼンテーションを行う設定とします。

【課題の想定】

あなたがマスタープランおよび三施設の建築の設計者の立場となり、東京オリンピックに向けてこのお台場の敷地を開発して環境の充実を図り集客を図りたい開発者に対して、デザインプレゼンテーションを行う設定とします。

【課題の想定】

あなたがマスタープランおよび三施設の建築の設計者の立場となり、東京オリンピックに向けてこのお台場の敷地を開発して環境の充実を図り集客を図りたい開発者に対して、デザインプレゼンテーションを行う設定とします。

【課題の想定】

あなたがマスタープランおよび三施設の建築の設計者の立場となり、東京オリンピックに向けてこのお台場の敷地を開発して環境の充実を図り集客を図りたい開発者に対して、デザインプレゼンテーションを行う設定とします。

【課題の想定】

あなたがマスタープランおよび三施設の建築の設計者の立場となり、東京オリンピックに向けてこのお台場の敷地を開発して環境の充実を図り集客を図りたい開発者に対して、デザインプレゼンテーションを行う設定とします。

【課題の想定】

あなたがマスタープランおよび三施設の建築の設計者の立場となり、東京オリンピックに向けてこのお台場の敷地を開発して環境の充実を図り集客を図りたい開発者に対して、デザインプレゼンテーションを行う設定とします。

【課題の想定】

あなたがマスタープランおよび三施設の建築の設計者の立場となり、東京オリンピックに向けてこのお台場の敷地を開発して環境の充実を図り集客を図りたい開発者に対して、デザインプレゼンテーションを行う設定とします。

【課題の想定】

あなたがマスタープランおよび三施設の建築の設計者の立場となり、東京オリンピックに向けてこのお台場の敷地を開発して環境の充実を図り集客を図りたい開発者に対して、デザインプレゼンテーションを行う設定とします。

【課題の想定】

あなたがマスタープランおよび三施設の建築の設計者の立場となり、東京オリンピックに向けてこのお台場の敷地を開発して環境の充実を図り集客を図りたい開発者に対して、デザインプレゼンテーションを行う設定とします。

【課題の想定】

あなたがマスタープランおよび

新井郁子

■コンセプト

「海の駅と暮らす」

水辺利用の活発化は隅田川を例にも確認できるが、十分な展開には至っていない。そこで本提案では、海上交通の結節点としての機能に加え、親水空間を身近にする「暮らしの中にある海の駅」を計画した。日常的な船の利用を想定し、遠距離船、河川を走る中距離船、近距離船の船着場を設置した。また水上スポーツに対応した施設を設

置し、店舗やオフィスも設置、近隣住民の利用を目的とした。

設計にあたり機能を種別に配し、屋根で包むことで外部と内部（機能空間）との間に中間空間をつかった。折れた屋根は、水辺に向かって弧を描き、緩やかな傾斜を持っていることから、人が自然と水辺に向かうようにした。内部空間では、屋根に合わせて天井高が変化している。また模型でも見られるように、外部は金属の冷たい印象を与えるが、内部には木の素材を多用し、空間を経て建築の表情の変化を楽しむことができる。

■講評

この作品では与えられた運河の形に修正を加えて、敷地内に運河を湾のように円形に取り込み、その円形に沿って勾配屋根の海の駅をデザインしている。屏風状に折れた屋根の形状を円形の入江に沿って切り取ることで、思いがけない個性的な屋根の形状が生まれている。船から見るときの、屋根を円形に切り取ることによって生まれる偶然の形状が、非常に面白い。内部空間の大きさや賑わいを切り取って海側

に見せるアイデアは、大変素晴らしいと思う。一方で多様に変化する屋根の下には、機能空間とオープンスペースと交互に配置されており、海沿いの賑わいの場を、内部空間と外部空間の境界を超えて巧みに生み出している。設計時には屋根構造は木造という考えもあったようだが、その部分については図面等では明快には表現されていない点は、少し物足りなかった。また海辺の歩行空間も屋根の形状を反映させながら雁行させて、広がりのある場所、少し絞られた場所を交互に配置しメリハリのある空間が生み出されている。ヒューマンスケールの海辺の港町の叙情が巧妙に現代的に表現された佳作である。 (光井 純)

佐藤未来

■コンセプト

“船の駅”として多方面から建物へのアプローチが可能なランドスケープと一体化した海の駅。

計画地は起伏のある土地で公園として利用され、周囲をオフィスビルや駅、集合住宅に囲まれていることから人々の通り道となっていた。起伏を活かした道としての役割をなくさないためにそれぞれのランドレベルから計7本の動線を伸ばし、交わる場所に建築を造

った。建物内も動線を遮らないように各部屋を配置した。1階、地下1階から成る2階建ての建物である。1階へは4本の動線をのびし、船着き場がある地下1階へは3本の動線を設けることでどこからでもアクセスしやすくした。また、1階の床の高さをランドレベルよりも上げることで外から各階レベルの中を見ることができ、開放感を出した。スロープを渡るだけで1階へも地下1階へも入ることができる。

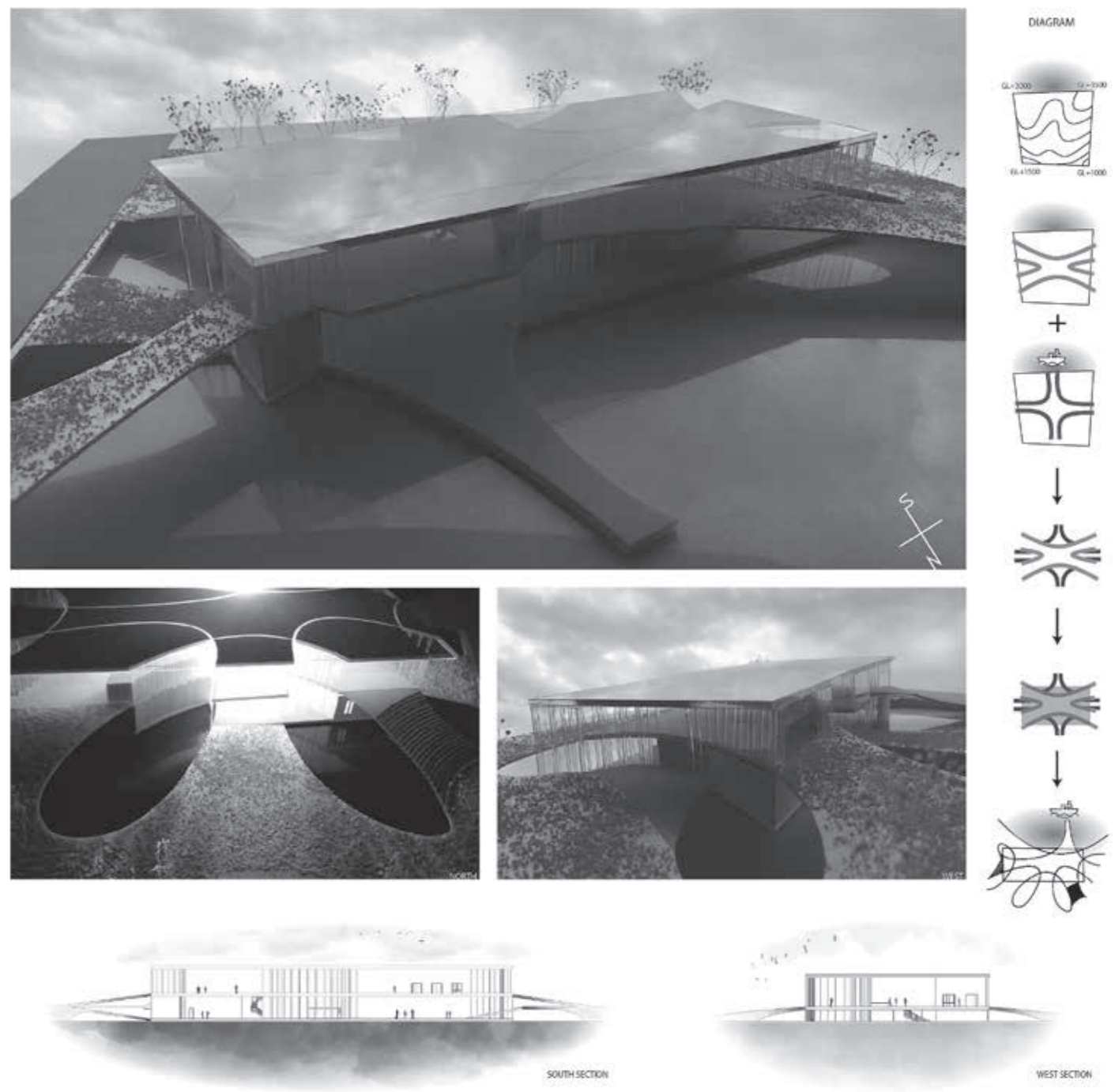
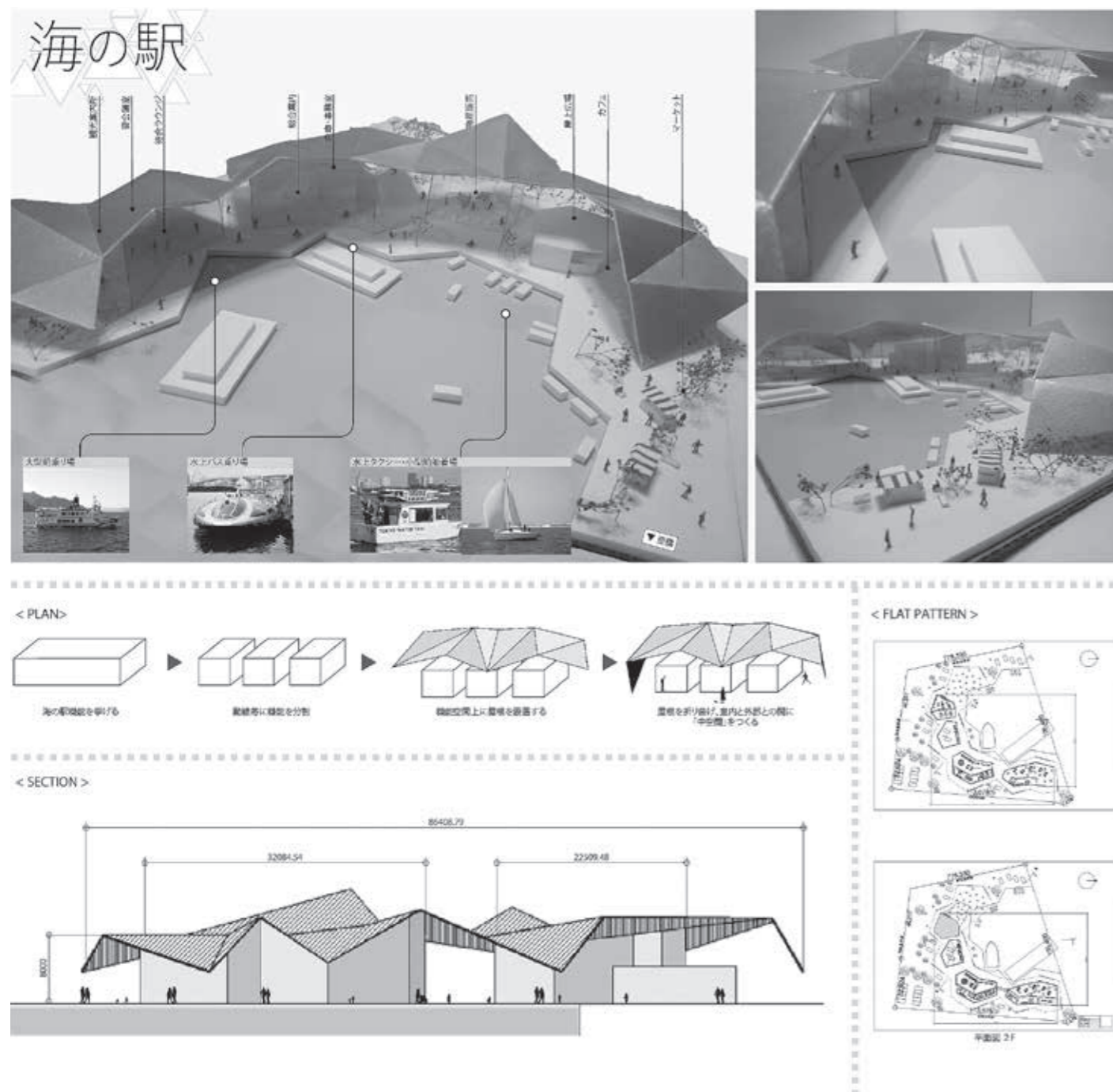
■講評

3年生の設計課題では、連続した敷地に海の駅や水族館、ホテルなどのいくつかの施設を関連付けて計画してい

る。今回の計画地となった東品川地区周辺は、天王洲エリアを中心とした再開発計画や、近年増加する観光客を受け入れるルートとして、羽田空港と都心を結ぶ水上バスの社会実験航路が設定されるなど、注目すべきエリアである。

この「海の駅」は一連のプロジェクトの最初の課題で、前述した水上バスの定期航路化を想定し、海上交通や広く地域交流の拠点施設となることが求められている。学生にとっては沿岸部での本格的な計画となり、水面と地盤面とのレベル差をどのように魅力的に処理できるかは命題の一つでもある。佐藤さんの提案は、既存の街路や公園を通過していく人の流れを基調として、

それを微妙に矯正しながら、新たに計画する海の駅へと自然に導くような操作をしつつ、現状のランドレベルを手掛かりに、異なるレベルに配置された水上バスの乗船場、カフェ、集会施設等の諸室へと緩やかなスロープで円滑に結び付けていこうというものである。とても明快なコンセプトだ。しかし、この作品が評価に値したのはそのことだけではない。そこに現れた建築をみてほしい。一筆描きのような柔らかなラインに沿って上下するペイメントと、ガラスウォールで整形に切り取られた内部空間。多くの説明を必要とすることなく、シンプルなアイデアを秀逸な造形に展開することができている。 (川久保留康)



中村圭祐

■コンセプト

水族館、海の駅、ホテルの3施設すべてにおいて、運河を積極的に利用した水上アクティビティ（ストレス解消のための、コミュニケーションを誘発するスポーツ）と、オリンピックを契機に発達していく水上交通をそれぞれの施設の付加価値とした。

コンクリートに覆われた都市には、自然に憩い癒される場が不足している。それらを解決する糸口は都市に残る唯

一の自然空間である水辺にあると考える。敷地全体に運河を引き込むことで敷地内にアクティビティの利用者のための水域を創出する。その上に橋を架けるように水族館のヴォリュームを配置していく。運河水面とヴォリュームの間にできた3mの空間はアクティビティの利用者と計画地内の水上交通が行き交う。館内から一部露出した水槽が運河水面から観覧できる。水槽が放つ光は昼夜問わず運河を彩り、非日常を演出する。

■講評

通常、建築をつくる時、その建築の内部空間が目的空間となる。その中

で行われること（アクティビティ）がプランを誘発し、その間の齟齬の少ない建築が一般的には「よい建築」とされる。中村君の提案は、その目的空間の〈変換〉を試みた提案ではないかと思う。

水族館の設計課題は、水生動物を身近に感じることができるといふこと、それを支える空間を内包できるという意味では楽しいプログラムである反面、機能的には非常に緻密な裏動線・機能を要求する。そこが成立していないと、そもそもの機能を果たすことができないビルディングタイプであるからだ。

中村案は前述の機能的なファクターを捉えた上で、その建築を宙に持ち上げ、水面と建築との間に余白となる空

間を作り出している。基本的に一筆書きのプランニングによる建築空間は、ともすると単調な内部体験につながる。しかし、ふと眼下に広がる水域につながり、そこで楽しむ人々との間にゆるい関係が結ばれたとき、目的空間は建築の下の水域にこそあったのではないかと思わされるのだ。建築自体に平面的にも断面的にも、もう少し空間的な自由度が展開できたのではないかという気もするが、そもそもの目的空間が建築という巨大な庇の下での水域体験にあってとすれば、その空間は副産物であることを超える。都市生活者にとっての水域のあり方を問うという意味で、かなり大胆かつ意欲的な提案となっているといえる。（廣部剛司）

黄 起範

■コンセプト

水族館をもっと身近にしたい。地域の憩いの場となるような水族館を計画する。

何気なく人が入ってこられる水族館を目指して、自然に人を引き入れる円形の平面と開けたロビー・屋上庭園を整備する。建物はフリスビーのような中空の円形をしており、建物の中心に世界最大のイルカプールが存在する。

展示動線はイルカプールを取り囲むよ

うに円の内側に面しており、イルカショーをしている以外の時間の観察も自由に行える。

展示は9つのゲートで区切られた10テーマの展示になっており、これらを円を描くように回る。その円形は地球に対応しており、船で地球を一周する航路に合わせた展示内容となっている。展示順路の最後は屋上庭園につながっているが、屋上庭園とエントランスホールはお金を払わずとも自由に立ち入れるようにすることで水族館をより身近なものにする。

管理スペースが建物の外側にあるため展示の終わった夜も外観は輝き、敷地周辺の散歩道を照らす灯となる。

■講評

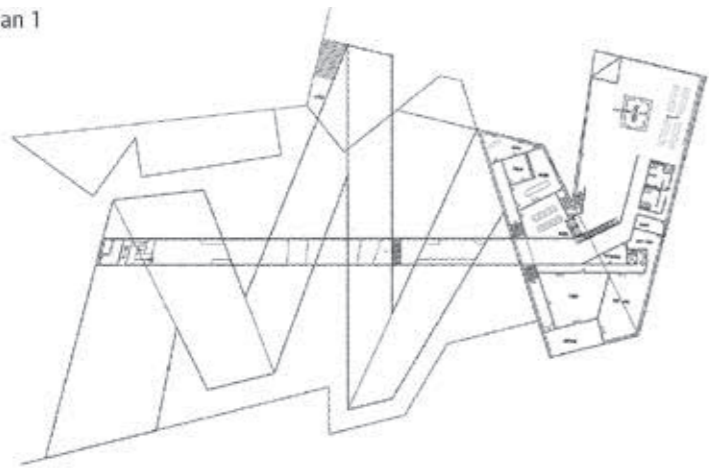
この計画でもっとも優れているところは、右下に示された全体配置図に示されています。これを見ると一目瞭然なのですが、直交する運河と水路をまたぐように大きな回廊上の橋が海の駅、水族館、ホテルをつないでいることがわかります。水族館は、その回廊と接するように配置され、歩いてきた人は、自然と水族館に吸い込まれるような構成になっています。

さらに水族館の入口に立つと、中心部にショールームを内包した構成になっており、水族館内に入館することなく、イルカのジャンプを遠目に見ることが可能となっています。これでは入らざるを得なくなってしまうでしょう。

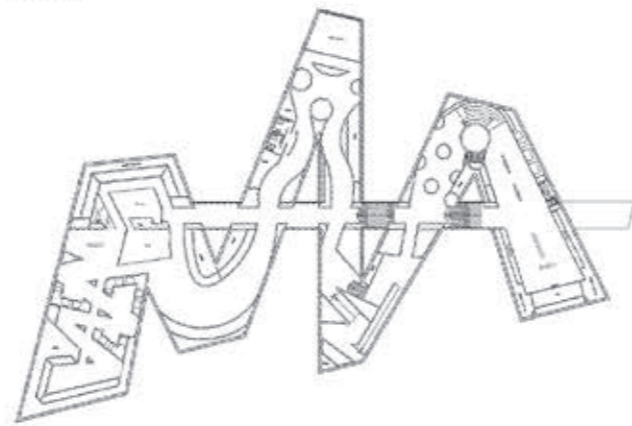
館内は一筆書きの要領で、中央部のショールームを所々から眺めて自らの位置を確かめながら、世界の水族が観覧できるような構成になっています。さらに、この観覧通路はスロープ状になっており、1階から2階に上った後は、自然に別のスロープから1階に降りていくようなしくみになっています。こうすることで、館内に多くの観覧者が詰めかけた時でも、渋滞が少なくなるように配慮されています。

構造的な部分にまで配慮がなされ、外壁においては単調になりがちな円形のプランでありながらルーバー状のスリットから室内がちらちら見られるなどが可能となっています。これでは入らざるを得なくなってしまうでしょう。（佐藤信治）

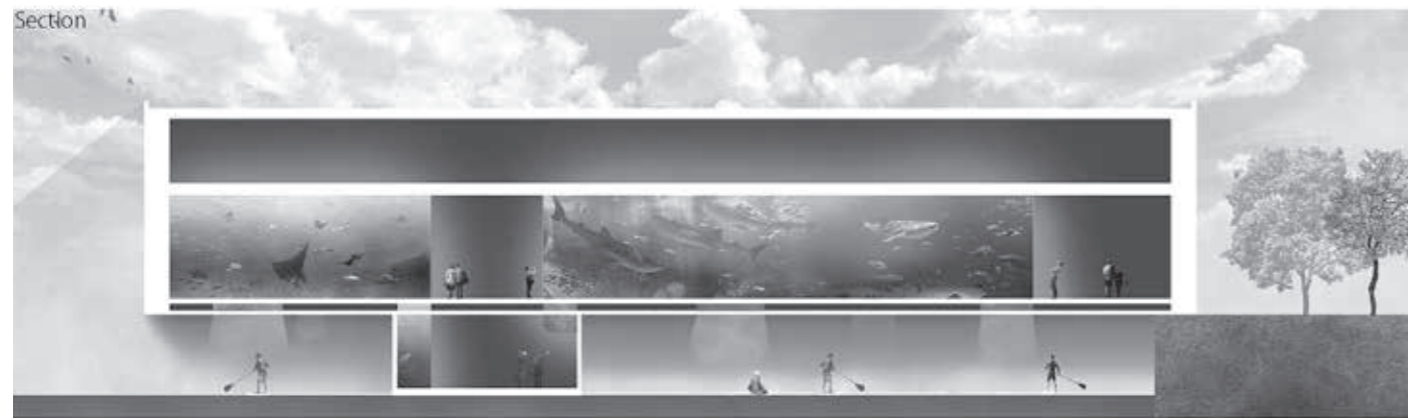
Plan 1



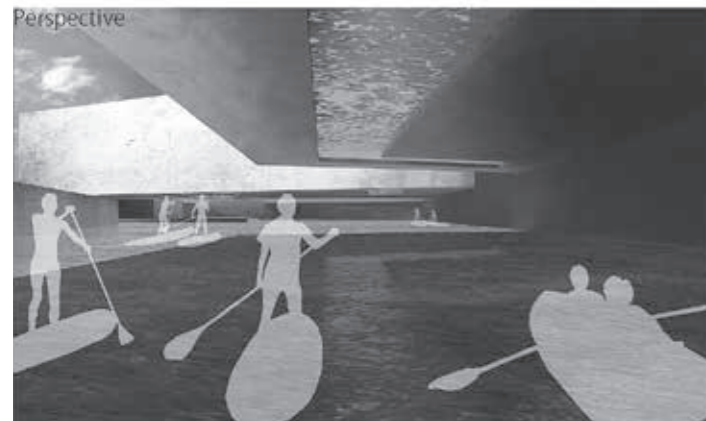
plan 2



Section



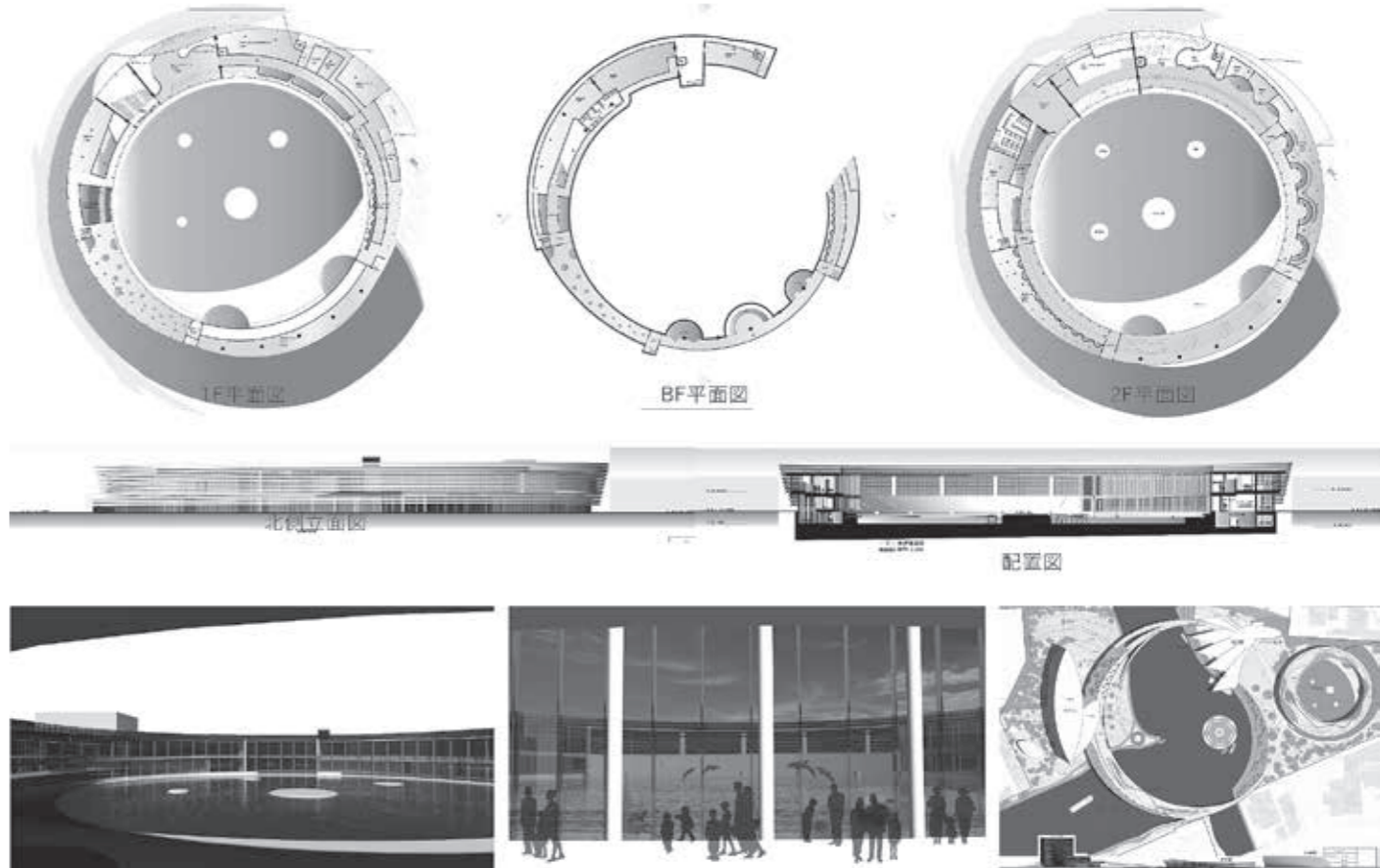
Perspective



Model



設計コンセプト



建築メディアデザイン 第2課題  
都市型リゾート機能を有したホテル

黄 起範

■コンセプト  
「滝と洞窟と浮かぶ部屋」  
都市でしかできないリゾートホテルを考える。都市部特有の夜景や近年のゲリラ豪雨を活用し水盤により空に浮かぶ部屋では、昼間は空に浮かぶ都市を楽しみ、夜は水に映る宇宙のような夜景を楽しむ。突然の大雨でも楽しめる仕掛けが滝にある。普段はゆるやかに流れる滝も雨の日は勢いを増し、刺激的な体験を提供する。建物の最上階

は1段大きくなった白い床があるが、これは雲をイメージしている。雲から湧き出た水が緩やかに客室を流れ落ち、一旦レストランが浮かぶ池に溜まったのち水の広場に向けて流れ落ちる。滝つぼをよく見ると洞窟になっていて船でのホテル入館ができる。陸・水面・滝・橋の絡み合う都市的な洞窟を抜けると3階層吹き抜ける巨大な縦穴洞窟にたどり着く。ここで船を降りて神殿へと入場するアプローチだ。客室からの眺めを崩さないためにタワー棟の客室はすべて10mの片持ち床になっていてメガストラクチャがそれを支える。

■講評  
流れ落ちる水、静かな水面を保って

外の景色を映し出す水、運河と一体になって大規模の非日常の水の広場を演出する水、そしてまた、豪雨の時には屋上に水をたたえ、ゆっくりと曲面上の壁を流れ落ちる水、人と水のさまざまな姿を徹底して追求し、宿泊客に対する演出を考えながら、大胆にホテルデザインに組み込んでいる。水だけでリゾートホテルの演出を徹底的に追求する試みはそう簡単ではないが、テーマは終始一貫していて大変面白い。しかしながら、水に関するデザインのスケール感については、コンセプトは明快ではあるが、個別のデザインの扱いについてはやや荒っぽくなり過ぎているところが否めない。リゾートホテルに必要な、水の細やかな表情について

もデザインの中で配慮することができるようになると、大きなスケールの水の表情が対比的に生きてくると思われる。今後のさらなる研鑽を期待したい。また、客室においては廊下部分をメガ構造として10mもの片持ち梁構造を採用している。これは客室に構造的な表情をまったく見せずに、空に向かって完全に解放したいとの考えであるが基本的な方針は大変良いと思う。水面の反射が空を部屋の中に映しこむことによって、客室の中に浮遊感を生み出すという意図である。水はインフィニティ・プールの手法を取り入れたデザインにした方がより上手に行くと思われる。壁と天井に囲まれた水は演出がなかなか難しい。(光井 純)

建築メディアデザイン 第2課題  
都市型リゾート機能を有したホテル

佐藤未来

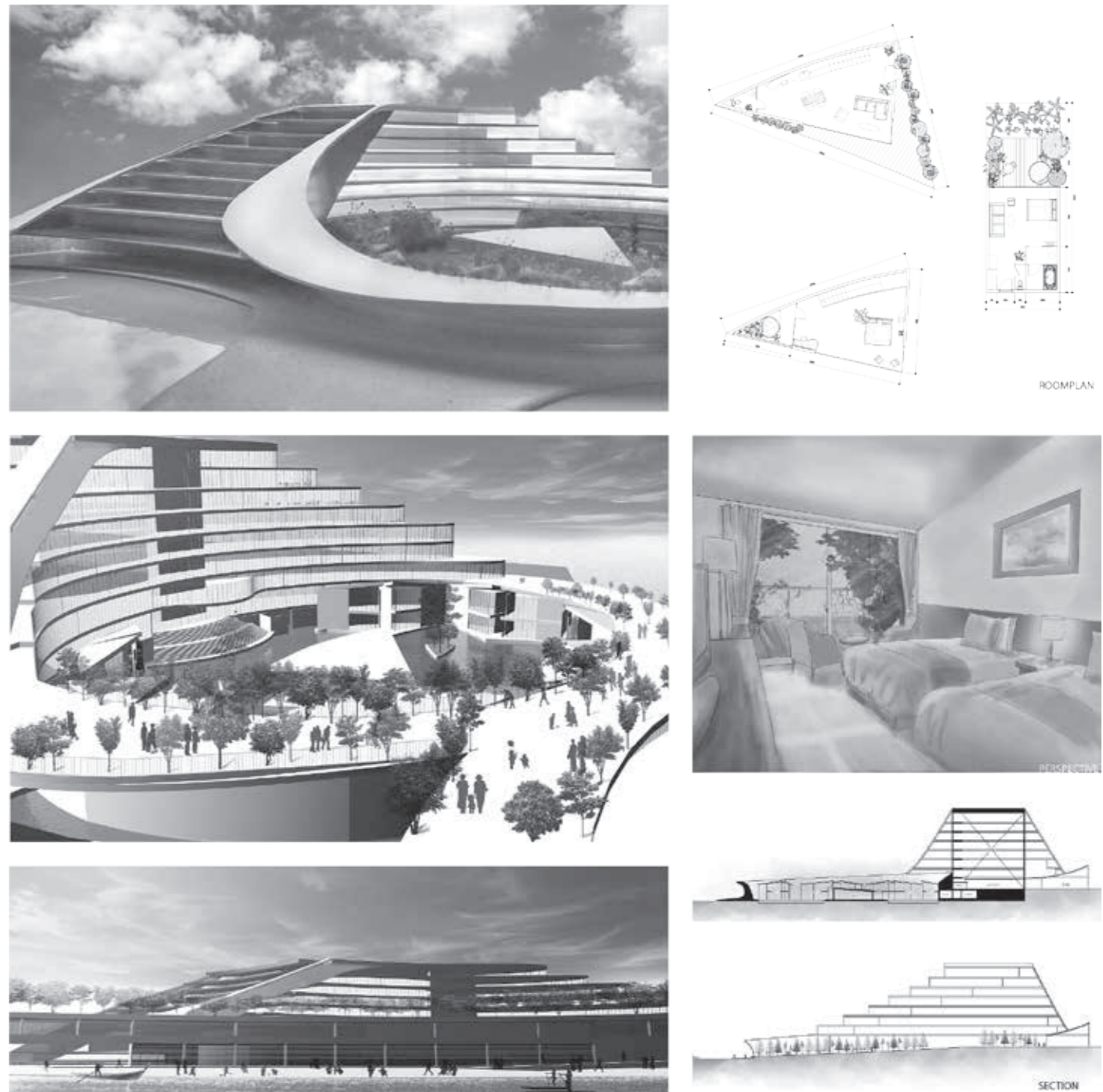
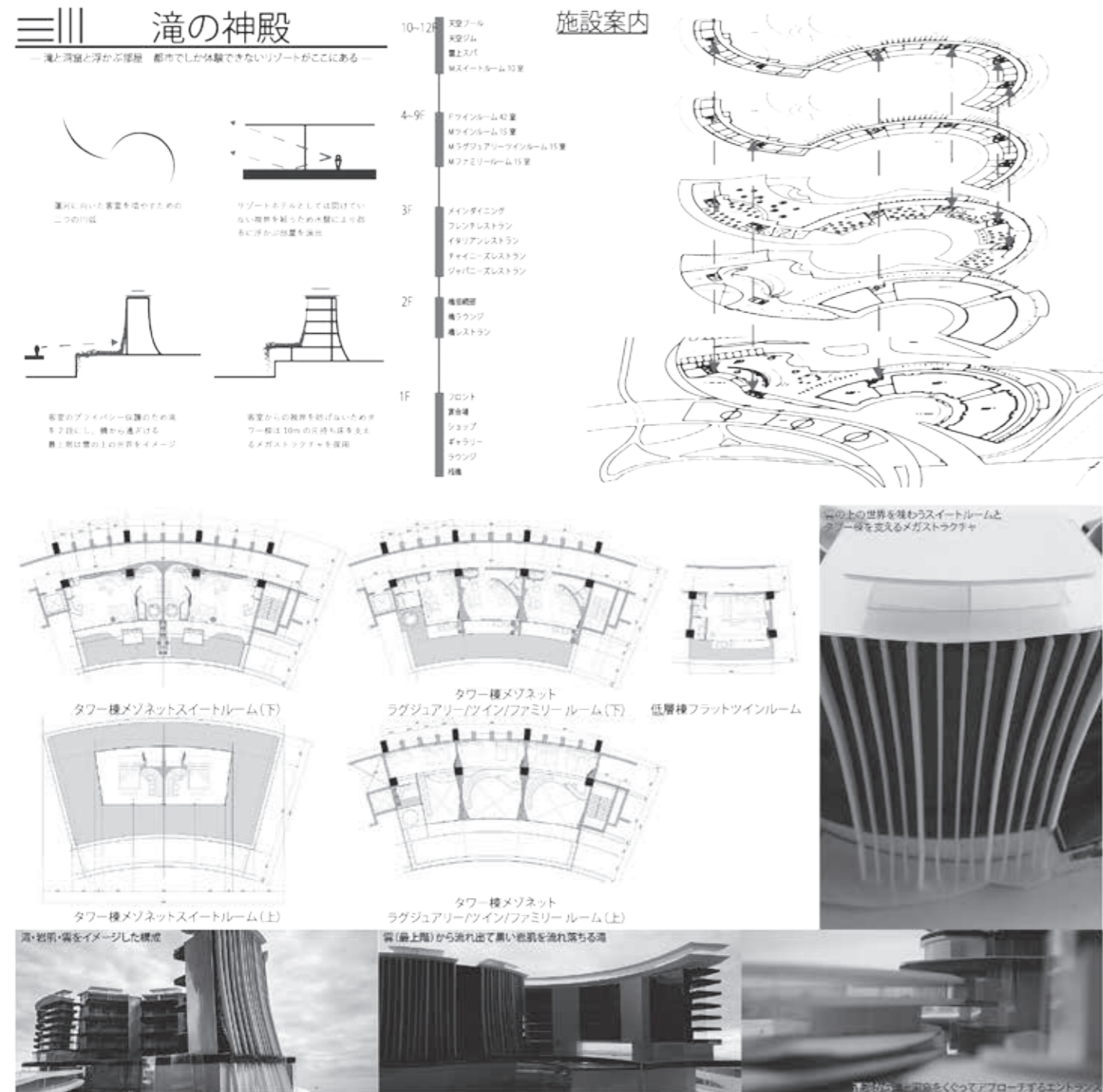
■コンセプト  
都会のオアシスとなり、人々を自然豊かな湖の世界へと連れていく水と緑のホテル。水上コテージエリア、客室エリア、レストラン・アミューズメントエリアの大きく3つのエリアに分かれている。各客室、レストランには広いテラスを設け、自然を取り入れることで人々に癒しを与える。各階を階段状にすらすらと重ねることで、各部屋に空へと開けた広いテラスを設けた。テ

ラスには多くの植栽が設けられ、自然を感じることができる。ホテルの中心にはスイートルームのコテージが浮かぶ水盤があり、建物で囲むことで都市への視界を遮り非現実を演出した。

■講評  
このホテルのデザインを見て最初に感じることは、非常に広量でゆったりとした空間を作り出しているということである。リゾートホテルは本来、非日常性を表現しなくてはならない。そして日常見る人工環境にはない、おおらかでそして心が解放される仕掛けが必要となる。この作品はまず円弧状の形態によって緩やかに運河を囲みながら、同時に運河とホテルの間に水景そ

してスイートルーム、飲食を中心とした施設を配置することによって建築全体のゆるやかな中心を作り出している。そしてホテルの運河側の端部ではなだらかなテラスを持った客室を配置して、部屋が面する風景と都市空間の特性に応じて多様な客室の表情を生み出している。同時に客室のバースにも見られるように細部にわたるこだわりにも十分なデザイン配慮を行っている。ホテルのデザインをする場合、実際には設計者自身が多くの空間体験を持っていると同時に、既存のものを破壊しながら新しいデザインを作り上げて行くイメージと勇気である。作者が自分のイメージの力をさらに育てて行くことを期待している。(光井 純)

値という観点からはリゾートホテルのデザインは相当難しい課題だが、この作品では作者である学生の豊かなイメージの力を感じることができる。多様な客室構成、多様な外部空間構成、そしておおらかな全体構成はまだまだ荒削りとはいえ、作者の高い想像力を感じることができる。ホテルのデザインは時代ごとに大きく変容して行く。大事なのは既存のホテルについてしっかりと知識を持っていると同時に、既存のものを破壊しながら新しいデザインを作り上げて行くイメージと勇気である。作者が自分のイメージの力をさらに育てて行くことを期待している。(光井 純)



黄 起範・佐藤未来・赤堀厚史  
■コンセプト

江戸時代、徳川幕府が整備した水路は、物資や人を運んだだけでなく、舟遊びの文化も生み出した。世界的に有名な水の都といえばベネチアがある。町中に張り巡らされた水路は湿地帯を埋め立てて造られた。生活の一部に水路があり、水路を中心に栄えたベネチアだが、東京もまた同じような歴史を持ち、「東洋の水の都」と呼ばれた。近代的でモダンなビルが立ち並び

「今」の東京の水辺に、かつての江戸の賑わいを再び呼び戻したい。というおもいから、私たちは「水の都東京再構築」という提案をさせて頂いた。

計画敷地である天王洲アイランド、周囲を品川シーサイド、品川駅、お台場という観光地に囲まれた場所に位置している。また、3つの鉄道が通り、水路には羽田空港から秋葉原へ向かう水上バスや、浅草へ向かう屋形船、東京湾へのクルーズ船の航路がある。このように交通の便もよい天王洲アイランドを拠点に品川シーサイド、品川、お台場へと船やボードウォークでつなげ、天王洲から浅草、羽田方面まで水辺から賑わいをもたらす。

■講評

全体を見て大変特徴的であるのは運河が直角に交差する場所に大きな円形のある。今回の課題でも、デザインの考え方の異なる3者がぶつかり合って、新しい発見を生み出すことができていた。これから日本は個々の建築物を建て、機能的な必要性を満たす時代から、「まち」としての賑わい、人との出会いを作り上げる、「まち」をデザインする時代へ、そして世界中からやってくるインパウンドの観光客に感動を与えて日本の文化の良さや美しさ、そしてもてなしの心を世界に知ってもらう時代へと変わりつつある。

(光井 純)

ユニークな施設が実に巧みに組み合わせられて、多様な空間体験が随所に作られている。

共同設計の面白さはこうしたところにある。今回の課題でも、デザインの考え方の異なる3者がぶつかり合って、新しい発見を生み出すことができていた。これから日本は個々の建築物を建て、機能的な必要性を満たす時代から、「まち」としての賑わい、人との出会いを作り上げる、「まち」をデザインする時代へ、そして世界中からやってくるインパウンドの観光客に感動を与えて日本の文化の良さや美しさ、そしてもてなしの心を世界に知ってもらう時代へと変わりつつある。

新井侑子・藤山翔己・芳西優汰  
・松下知可  
■コンセプト

「東京の夜はつまらない」そんな観光客の声に、私たちは耳を傾けた。対象地である天王洲アイランド、各交通機関の利用が容易であり、独特のまちづくりから観光地としてのポテンシャルが期待される土地である。課題施設の設置に際し、昼夜の時間変化に伴って利用が変化し夜だけ見られるアソビ空間、「SEA クレジットスポット」をテーマに、

SEA（シー）に掛けて水上（sea）交通の拠点、人と会う（see）、見る（see）機能を計画した。「海の駅」には遠距離～近距離に対応可能な船を集約した。「ホテル」では宿泊機能に加え、マーケットや夜には屋外映画館が楽しめる。「水族館」では、ガラスを多用した水中へ潜っていく様な演出に加え、時間変化に伴い室内空間が変化する。周囲には円状の動線を配し、多様なアクティビティを可能とした橋や植物園、水上スポーツ施設等を設置した。

■講評

茫洋とした天王洲運河を彩るように水を敷地の中まで引き込んだ計画である。その水路を囲むように、海の駅、

水族館、ホテルが配置されている。具体的には天王洲運河と直交する水路の廻りを大きく掘り込んで、海の駅からホテルまでを水浸しにしてしまった計画である。このようにした理由は以下のようである。

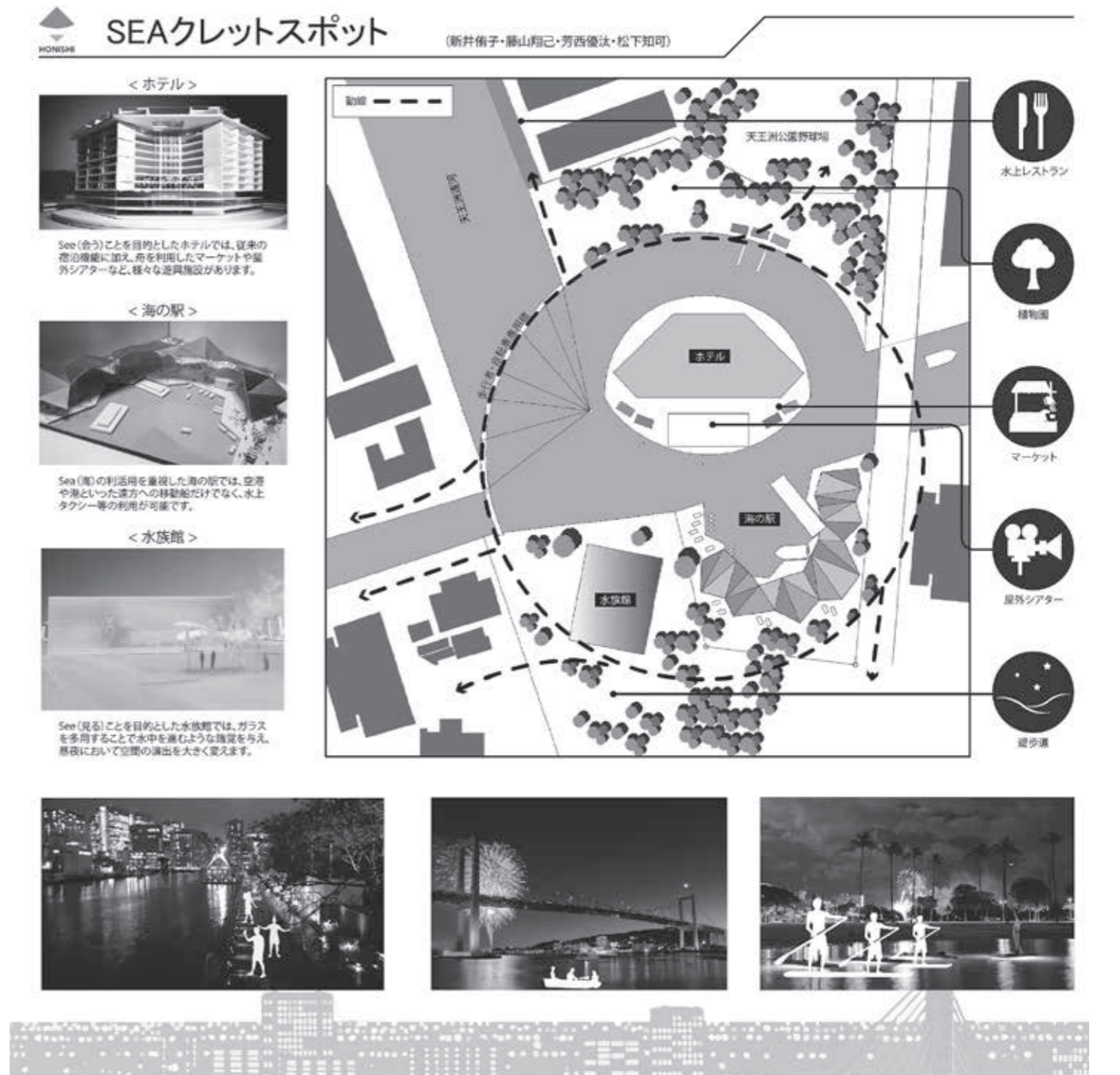
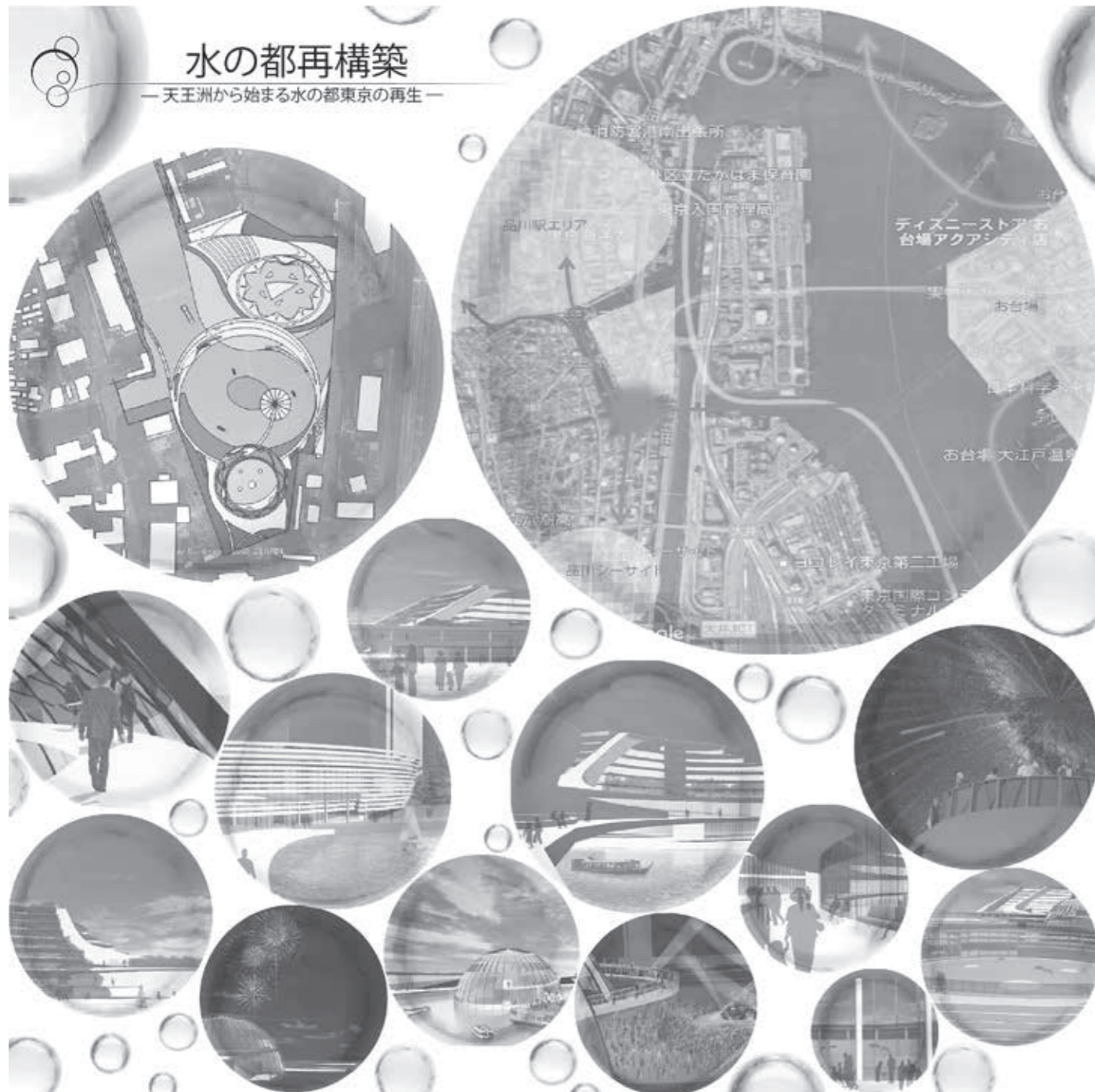
パースをよく見ると、それぞれのシーンはすべて夜景になっている。これは、訪日外国人旅行者の「東京の夜はつまらない」という、つぶやきから発想を得たモノである。

そのとおり、本計画では「夜」と「海」と「建築」が一体となるように、さらに24時間にわたって水辺におけるアクティビティが活性化するように仕組まれている。夏は花火、パドルボート、夜釣や散歩などさまざまな夜のシ

ーンが描かれており、海（SEA）を積極的に見せる（SEE）ことによって夜を彩ろうとしているの分かる。

全体はよく考えられているように見えるが、配置計画的に考えるとホテルのサービス動線も水路を経なければならず、その他の施設にも舟運に頼ることになるなど、さまざまな人が集う場所としてはもういっそうの配慮が求められる。さらに、敷地内に引き込んだ水辺のエッジの処理に工夫が見られないこと、水族館が計画画においてはほとんど絡んでいないことなど残念な点が散見される。プレゼンテーション時の最初のつかみが良かっただけに、細部の詰めが荒さが目立ってしまうことが残念である。

(佐藤信治)





大槻 愛・土橋大輔・松田瑠奈

■コンセプト

対象地である天王洲アイルは業務地区と居住地区など多機能多用途が混在する地域となっており、さまざまな人々を集めるポテンシャルを持っている。そこで、エリア全体として人々の動きを回遊させていくという考えから「五感で感じる歩く楽しさ」をコンセプトとし、さらなるエリア価値の向上を目的とした。人が歩くだけでなく、水上を歩くというような観点とし

て、水上バスの経路ともなる「海の駅」。高低差を生かした空間や魚の生態を前面に利用した水槽が、視覚の変化だけでなく生態学も学ぶことができる「水族館」。波の音を使った海オルガンの音が楽しめる「ホテル」は、足湯や緑を多く設置しているため聴覚・触覚・嗅覚を癒す都市型リゾートホテルだ。これらは五感に訴えられるような仕掛けを多く用意しさまざまな遊歩の中の拠点となるようなプランだ。

■講評

開発全体を歩き回るときに、人の五感に訴えかけるさまざまな仕掛けを作り上げて、全体をまとめ上げた計画である。3人の学生の作品それぞれ、水

族館、海の駅、ホテルを持ち寄りマスタープランの考え方を導入して3つの建築デザインを統合し、相乗効果を生み出すという課題である。しかも彼らは、プレゼンテーション課題の出題までは誰と組み合わせられるのかが知らされていないので、まずはお互いが持ち寄った水族館、海の駅、ホテルの中から誰のものをそれぞれのカテゴリにおいて採用し、全体のマスタープランとして組み立てるかを議論しなくてはならない。それからそれぞれの建築デザインの優位点を引き出すための方策を考え、マスタープランあるいはこの建築デザインに必要な調整を加える必要がある。こうしたプロセスの中で他の学生のデザインを客観的に評価し、

自分のデザインを離れた目から評価することができるようになる。「建築」のプレゼンテーションはオーディエンスの価値観の土俵に自分のアイデアを乗せて再評価し、相手にわかりやすく、そして説得力を持って伝える行為であるから、伝えたいアイデアの意図ごとにプレゼンテーションは異なってくるのである。このチームは先に述べたように、五感に訴える体験としての建築そして外部空間をテーマに建築空間とランドスケープそして水際空間との統合を図っている。参加する学生の持ち寄った建築の特性を五感の仕掛けとして統合することで、個々にバラバラだったはずのデザインを巧みに統合している。

(光井 純)

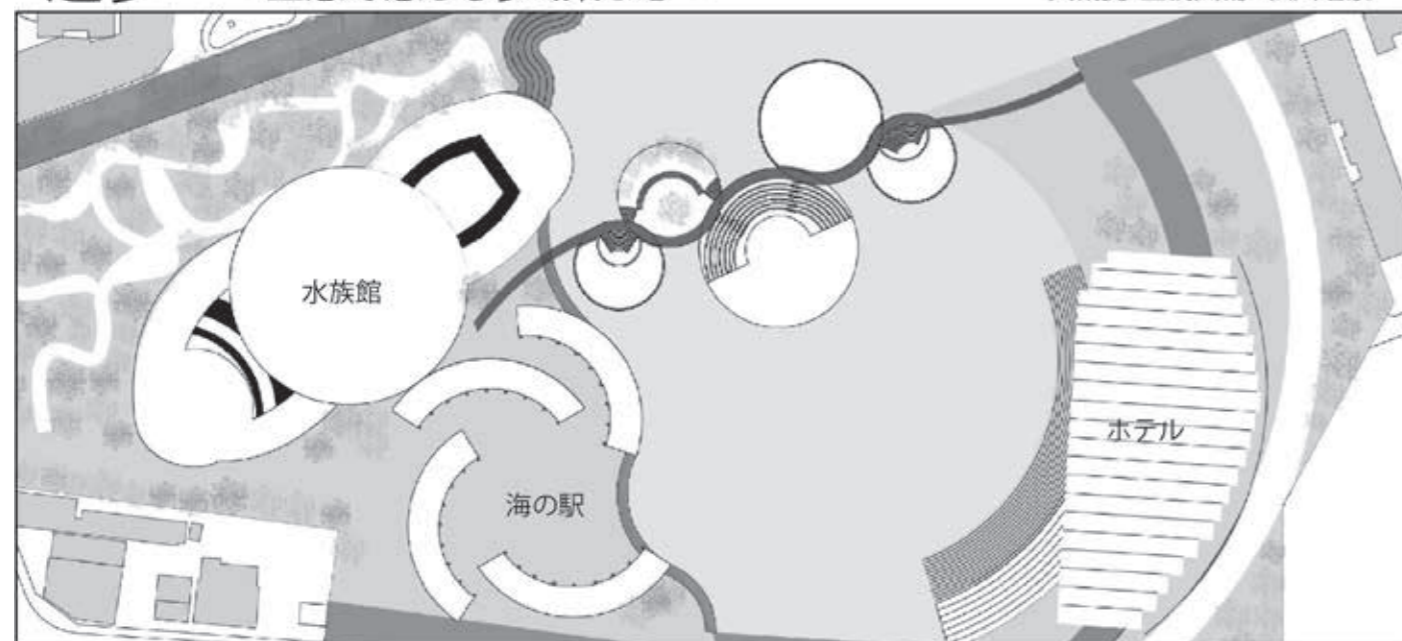
## 4年生（総合演習Ⅰ）

【担当】 佐藤 信治  
小林 直明

畔柳 昭雄  
桜井 慎一  
山本 和清  
高島 秀訓  
菅原 遼

### 遊歩 ～五感で感じる歩く楽しさ～

大槻愛・土橋大輔・松田瑠奈



〈海の駅〉



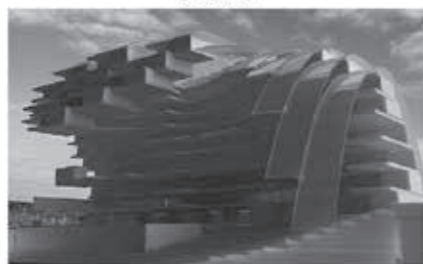
物産販売店舗や展示室事務室を完備しており、水上バス利用者以外でも楽しむことができる。ここでは、市場の食材を使ったレストランもあり、風を感じられるだけでなく、味覚も楽しむことができる。

〈水族館〉



人の動線・視覚の変化・高低差を生かした造りの水族館は歩くことへの苦を感じさせない。八の字の動線は緩やかなカーブをおび、進む期待感を感じさせるだけでなく水槽を様々な角度で楽しむことができる。

〈ホテル〉



波をモチーフとした造りはお客様を迎え入れ包み込む。客室やロビーには海オルガンや水槽、足湯を取り入れることで今までにない非日常空間を演出している。自然を感じられるだけでなくあたたかくなるホテルだ。



### 総合演習Ⅰ

#### デザイン系

「残余空間に発見する建築  
(日本建築学会設計競技)」  
(担当：佐藤信治、小林直明)

#### 【応募要領】

20世紀の建築は〈アイデアの塊〉として登場しました。コルビュジエのサヴォア邸はフリースタンディングのオブジェクトとして存在しています。それは一冊の本のような思索の塊であり身体を通して空間を読み解く人に語りかけます。注意深く観察すると、それは閉じた塊ではなく大気や地面との応答が織り込まれていますし、その時代や文明にも言及しているように思えます。モダニズムの建築は、切り取られた敷地の上に置かれた〈意味の塊〉として構想されています。その結果、私たちの都市空間は、互いに無関係な建築物の集積のように感じられます。私たちの生活は連続する時間のなかにありますが、それを受容する都市空間は切り刻まれています。

〈意味の塊〉の間 (in-between) には、厚みのある境界のような残余の空間が存在します。都市のなかで意識から外れてしまうこのような残余空間に目を向けてみると、そこに新しい建築概念が生まれる場があるように思えます。そんな建築を発見してください。

審査委員長 北山 恒

#### 【応募規定】

- A. 課題  
残余空間に発見する建築
- B. 条件  
実在の場所（計画対象）を設定してください。
- C. 要求図面および提出資料  
①提出資料：提出資料の用紙は A1 サイズ 2 枚（594×841mm）とします。なお、サイズ厳守、変形不可、2 枚つなぎ合わせることは不可です。提

出資料の裏面には、それぞれの番号を付けてください（No. 1、No. 2 と明記）。仕上げは自由としますが、写真等を貼り付ける場合は剥落しないように注意してください。なお、パネル、ボード類は使用しないでください。模型、ビデオ等は受け付けません。

- ②要求図面等：要求図面は、配置図、平面図、断面図、立面図、透視図です（縮尺明記のこと）。提出資料には要求図面のほか、計画対象の現状や計画条件を図や写真等を用いて解説したものと、作品名・設計主旨（600字以内の文章にまとめ、10ポイント以上の文字で提出資料中に記入）、模型写真等を自由に組み合わせ、わかりやすく表現してください。
- ③提出資料とは別に、上記②の作品名・設計主旨を A4判用紙 1 枚（縦使い）に印刷して提出してください。
- ④上記のほかにデータ類として、1）2 枚の提出資料の内容をそれぞれ 350dpi の PDF ファイルとしたもの、2）作品名・設計主旨の要約（200 字以内）のテキストデータ、3）顔写真（横 4 cm × 縦 3 cm 以内：顔が写っているものに限る）のデータ、を納めた DVD または CD を 1 部提出してください。

#### 計画系

「(仮称) 船橋漁港の船溜まりを中心とした賑わい空間の創出及び提案」  
(担当：畔柳昭雄、桜井慎一、山本和清、高島秀訓、菅原 遼)

#### 【課題趣旨】

船橋市は、千葉県の北西部に位置し、東京と県庁所在地である千葉市のほぼ中央、ともに半径20km 圏域に位置している。市の人口は約60万人、面積は85.64km<sup>2</sup> で、東京湾の最奥部に位置し、海上交通・陸上交通の要所として栄えた歴史がある。県内での市制

順位は、市川市に次いで4番目で、地域の広さは東西13.86km 南北14.95km、中央部一帯は標高20~30mの平坦な洪積台地で下総台地の一部である。最高所は市北部（習志野3丁目付近）の32.3mであり、最低所は臨海部（南海神1丁目~湊町1丁目付近）の0.2mとなっており、臨海部では一部海抜ゼロメートル地帯が広がる。その先の最も海寄りの臨海部は沿岸流によって形成された砂丘地帯で、海神・宮本の台地をおおい、市川から千葉へと続いている。かつては遠浅の海岸であったが現在はほとんど埋め立てられ、唯一、三番瀬のみが当時の名残を見せている。船橋は、江戸時代には將軍家の台所に新鮮な魚介を献上する御菜浦であり、江戸から佐倉や成田山へ向かう

街道上（佐倉街道・成田街道）の宿場町であった。現在では、東京湾奥部で本格的に操業されている唯一の漁場として、江戸前近海魚の水揚げや海苔の養殖が行われている。それらは、江戸前と呼ばれる魚介類で築地市場を通じて東京の寿司屋で消費される高級品である。また、海苔の養殖などが盛んで、近年、三番瀬でのりの養殖が再び始まり、「三番瀬のり」というブランド名で売り出されている。

そこで本授業の課題として、船橋漁港を中心とした「船溜まり」を対象に、都市型漁港の特徴を顕著に有する地域的特性を活かし、周辺商業施設との回遊性を目指した賑わい空間の創出及び提案を行うものである。



計画系 計画敷地図

総合演習Ⅰ デザイン系  
**残余空間に発見する建築**

宮嶋悠輔・濱嶋杜人  
 ・門口稚菜・谷 醒龍

「町と海とをつなぐ壁」

■コンセプト

海沿いに忽然とそびえる防潮堤により、町は2つに分断されてしまった。それは災害時には町を守る「防災構造物」となるが、日常の中では人のスケールからはかけ離れた「壁」となってしまふ。そしてその壁はかつて海と生きてきた町の面影を、人々から奪い去ってしまう。「海とつながること」は

この町にとって、非常に重要な意味をもつ。壁によってそれが阻害された今、壁を乗り越えることはこの町の本当の意味での復興になると考える。私たちは「壁を乗り越える道」をつくり、壁の外の空間を町に取り込む提案をする。

■講評

2016年度の総合演習（デザイン）は日本建築学会設計競技の課題「残余空間に発見する建築」をテーマに行った。具体的には、実在の場所を設定し、そ

の残余空間に発見する建築を構築することにあった。本コンペは、支部入選を経て、建築学会の大会においてプレゼンテーションが課せられている。本作品は、多くの大学院生が応募するコンペでありながら、学部生でタジマ奨励賞を受賞する優れた作品となっている。

本計画では、残余空間を東日本大震災の津波に襲われた地域に設定している。どこが残余かといえば、高さ10余メートルに及ぶ防潮堤によって、街からは海がまったく見えなくなってしまった点を取り上げている。具体的には、防潮堤の直下は海がすぐそこにありながらまったく見えないため、漁業者や、地域の住民、そして観光で訪れた観光

客から海を取り上げてしまった地域を残余空間と捉えた点にある。

漁業者のためには、堤防を越えた先にある船着き場と魚加工工場への通路となる長大なスロープを構築し、地元住民のためにはその長大なスロープ空間が日常の商店街となるように設定した。こうすることで、日常的に住民のアクティビティが海へと向かうようになり、海沿いに生活しながら海を身近に眺めて暮らすことが可能である。さらに観光のためには、山沿いの宿泊施設から海が眺められるようにこれも長大な橋を架け渡し、津波に対する安全性を担保しながら、海の観光が豊かになるように工夫されている。

(佐藤信治)

総合演習Ⅰ デザイン系  
**残余空間に発見する建築**

佐々木秀人・新部瑠介  
 ・加藤毅三

「古都の行き先」

■コンセプト

石川県加賀市山中温泉湯の出町における赤瓦を用いた街並み再生の手法の提案。この地では、都市計画道路の策定に伴い用地取得が進んでいる。それによって赤瓦でできた古き良き街並みが失われてしまっている。本計画地では、イエとイエの間が用地取得されそれぞれの関係が希薄になるだけではな

く、空き地が密集することでマチとマチをも分断してしまっている。本計画では、都市計画道路として策定された道沿い一帯を計画敷地とし、空き地と化している場所に新たに赤瓦で構成された建築を挿入していく。これは、もともとの敷地のポテンシャルを生かした設計とすることで、この地域ならではの生活を知ることのできる新たな観光地を再編する。

■講評

2016年度の総合演習（デザイン）は日本建築学会設計競技の課題「残余空間に発見する建築」をテーマに行った。

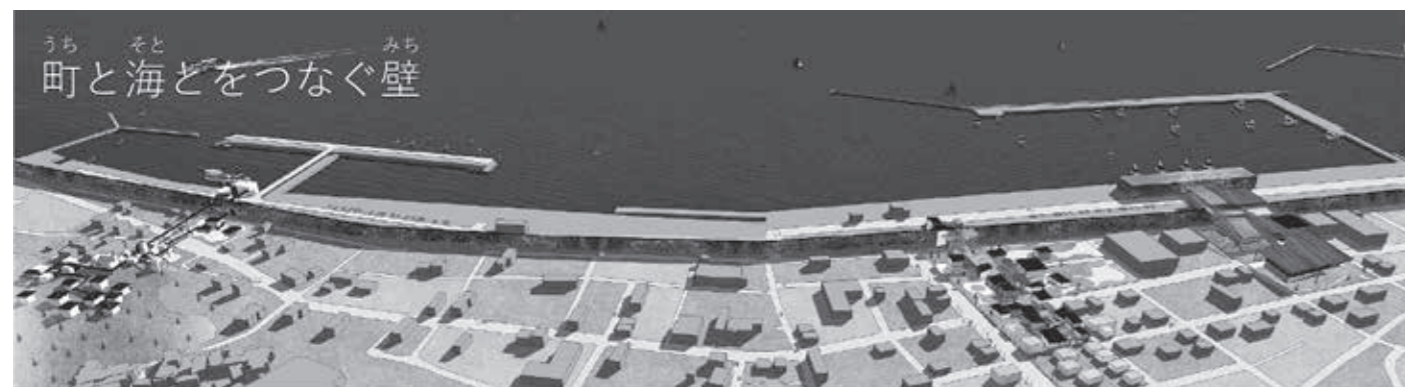
本計画の特徴は、都市計画道路決定された地方都市の問題に着目したことにある。日本の道路行政には都市計画道路制度があり、交通の空便に寄与するとともに防災における隔離距離をとるための整備事業として重要な位置を占めている。しかしながら、都市計画決定後も、道路として使用できるまでには長い時間が必要であり、各地で空き地となった道路予定地が町並みの中に点在することとなっている。こうした現状は、都市の大小にかかわらず各地において見られ、さまざまな場所で見無計画に無残な町並みを残すこととなっている。

本提案は、こうした都市計画道路決定後に事業計画の途中において用地取

得のために歯抜けになった温泉街につながる道路予定地の空き地を活用しようとするものである。具体的には、加賀の山中温泉に通じる都市計画道路の町並みに蚕食された都市計画道路のために確保された「空き地」を残余空間として捉え、これを道路完成前の一時期に活用しようとする着眼点が秀逸である。その使い道であるが、温泉街へつながる道路であるため温泉街へつながる街歩き商店街として整備している。

しかしながら、デザインに至る過程は付近の町並みのデザインコード（山並みや妻壁の町並みなど）を活用しておらず、私的なデザイン展開に終始しているところがコンペにて入賞に至らなかった点であろう。(佐藤信治)

日本建築学会設計競技 タジマ奨励賞



背景 | 東日本大震災から今

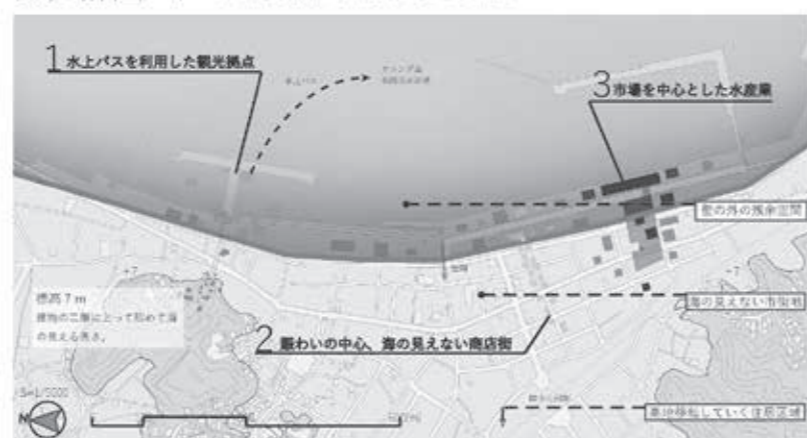


■そびえ立つ巨大防潮堤

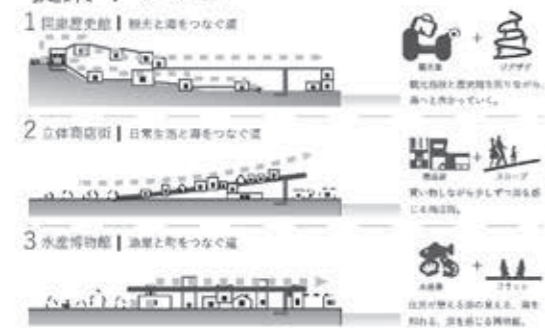
東日本大震災の津波被害により壊滅状態となったこの町では現在、復興と同時に海沿い全域にわたって巨大な防潮堤の建設が進められている。



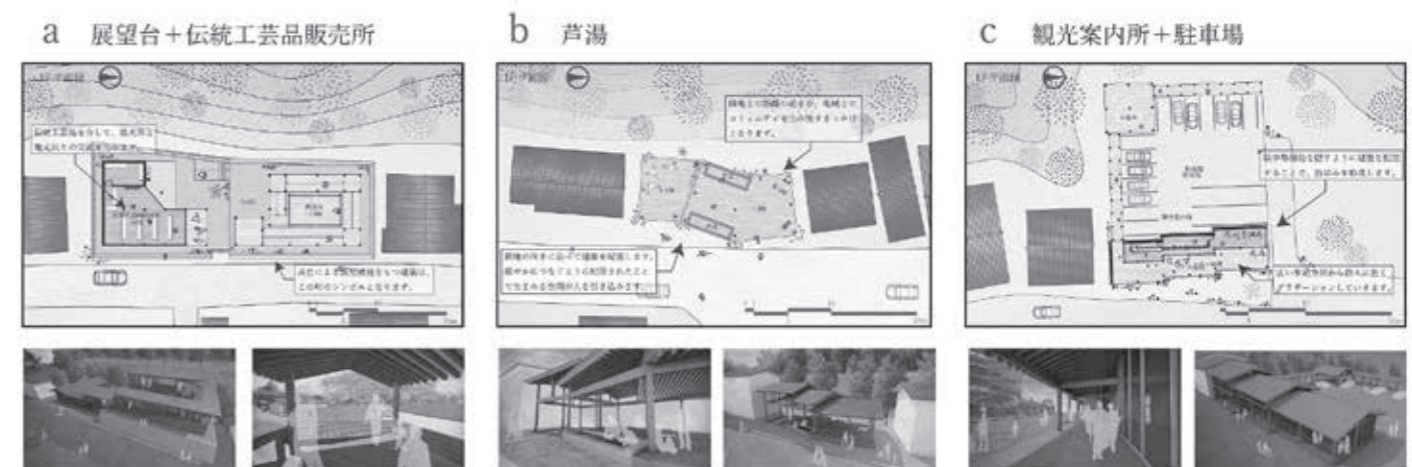
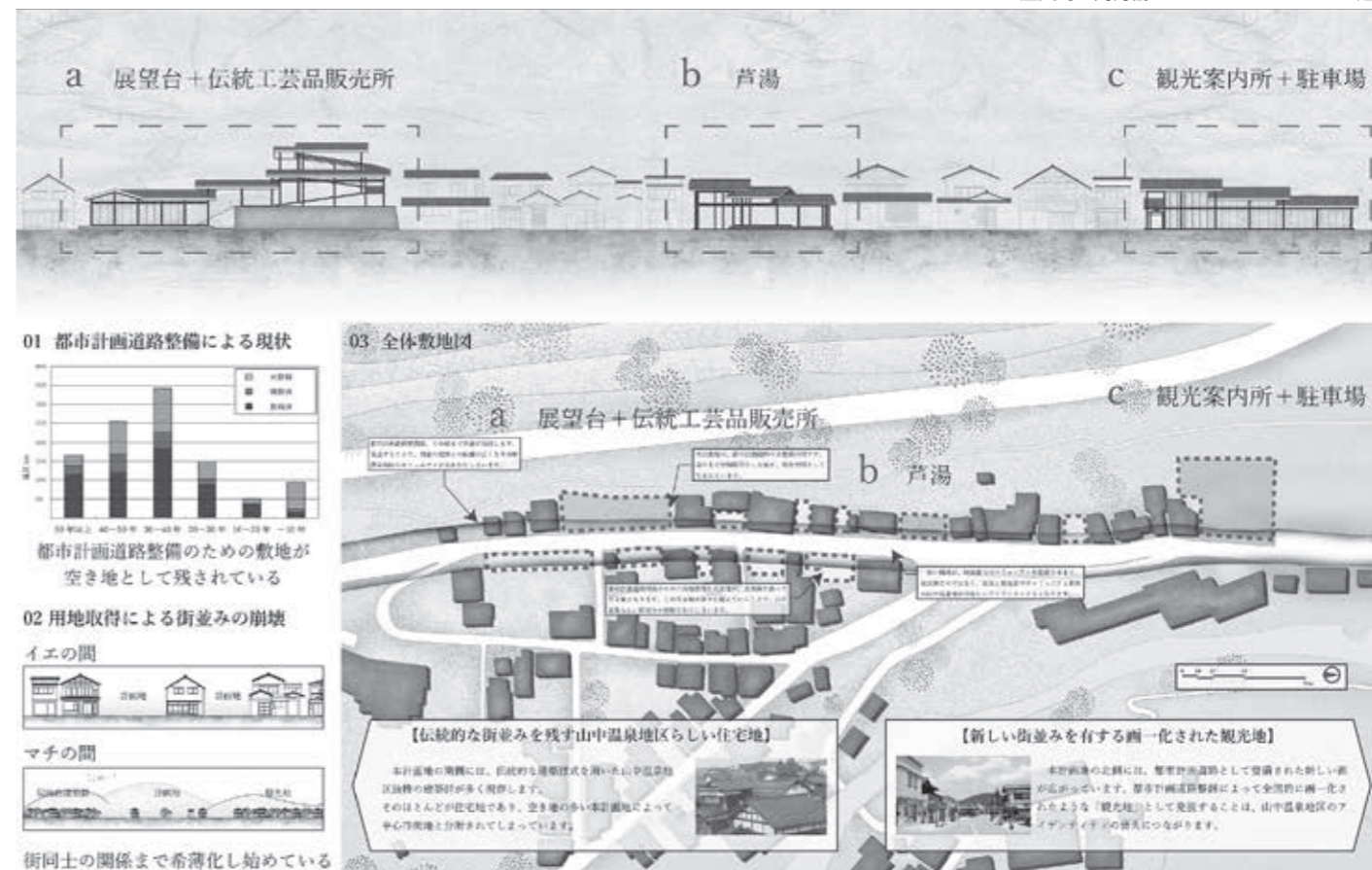
配置計画 | 町の復興計画に沿った道の配置



提案 | 3つの道



歴史的空間再編コンペティション2016 50選



蒲生良輔・小慣笑美依  
 ・福富大真

「AKIYA share town」

■コンセプト

空き家のシェアによって現代と下町を融合させ、新たなライフスタイルを構成します。

現代は個人を尊重しており、一軒家よりもマンションのような1人で生活できる場所が主流となりつつあります。

しかしその結果、かつてあった共同体や近所の人付き合いが希薄になり、

現代の地域の活力は衰えています。

さらに地域の賑わいがあった木密は空き家が目立つようになりました。

この原因は今のライフスタイルに合わなくなったことにあると考えました。

ここで下町のもつ人付き合いと現代のライフスタイルを空家のシェアによって融合させることでより住みよい新しい下町へ更新します。

■講評

本作品は、残余空間を下町の木造住宅密集地域、通称木密に計画したモノである。具体的には、京成電鉄高砂線の立駅前から続く商店街の一角を計

画地に設定している。

木密地域は、その名のとおり木造家屋が密集しており、前面道路の狭隘な地域である。このため、この地域に住む住民は地震や火災時の避難や延焼の問題を絶えず抱えながら生活していかなければならない。さらに住民は高齢化しており、いまさら他の地域に移り住むこともできない。空き家も歯抜け状に広がり、防犯対策も深刻な問題になっている。

そうした地域でありながら、この計画においては、少々強引な手法でこういった問題を解決してしまおうとしている。具体的には、敷地内の道路や通路を強引に4mに拡幅してしまうという手段に出ている。道路想定位置に掛

かった家屋は、そのまますっぱりと切り取り、その断面をガラスサッシで覆う。そのような道路をこの一帯に縦横にとり入れ、さらにこの道路には普段は車両を通さないようにした。こうすることで、4mの道路は、芝生を貼った半屋外の空間となり、庭の延長になったり地域住民の交流の場になる。夏の暑さや冬の寒さには緑の公園となった道路が有効に機能する。さらに災害時には、緊急車両が通行することもできるため地域の安全性は向上するといったさまざまなメリットもある計画となった。しかしながら、惜しむらくは、この班がそうした計画的な有用性をデザインで表現する力量に欠けたところにある。(佐藤信治)

**(仮称) 船橋漁港の船溜まりを中心とした賑わい空間の創出及び提案**

C班/池ヶ谷典宏・楠瀬大志  
 ・富永柚香・宮川駿也

「らぶぽーと Tokyo-Bay」

■コンセプト

家族や恋人同士で愛を育み、船橋を愛する人々で賑わう愛にあふれた港をコンセプトに非日常的な空間や体験をとおして漁港の魅力をより多くの人へ伝えることで、船橋市の優れた産品を全国に情報発信する拠点として人々を呼び込めるような工夫によって船橋市

と船橋漁港を活性化化する。

■提案

【動線計画】

従来は防潮堤に囲まれた地であったため、水門を河口に移動させることで防潮堤を取り払うことによって周辺からのアクセスを容易にする提案とした。さらに近隣のらぶぽーとから対象地に拡張デッキを増築することで、来場者をショッピングから水の世界へ誘う。

【配置計画】

漁港を中心にレクリエーション施設で囲むことにより、人と水の回遊性を創出した。これにより、対象地全体を周遊しつつ漁港の魅力を感じることが可能となる。

【各エリア別詳細】

既存のヨットハーバーは移設した上でボート利用者や漁業者のための交流の場としてフィッシャリーナに変更し、観光客が漁業について深く知るための教育機能が備わっている。住宅地に隣接したエリアでは築山した上で緑地を設けることにより騒音を低減すると同時に近隣住民の憩いの場となっている。

■講評

船橋のウォーターフロントに位置する船橋港を魅力あふれる空間とするための提案として、本チームは、船橋市、地元漁業協同組合、らぶぽーとに焦点をあて、それぞれが抱える問題点に対する解決提案をとおしてプランニング

しデザインを展開している。ここでは、地域を愛し、地産地消を推進し、家族が楽しく過ごせる地域づくりを目指し、船橋漁港内にレクリエーション空間として水域と陸域を生み出し、それぞれの空間が有機的に緩く関係を保てるように回遊動線を水際に配している。この動線とらぶぽーとを結ぶための架橋を新たに設けることで、らぶぽーとに來た客が自然に船橋漁港にアクセスできるように、現在ある親水公園を魅力ある空間にしている。移動動線の連続性、視覚的な眺望のつながり、ショッピングモールの非日常性の水辺への延伸、こうしたデザイン展開により、船橋の持つウォーターフロントを魅力あるものになっている。(評柳昭雄)

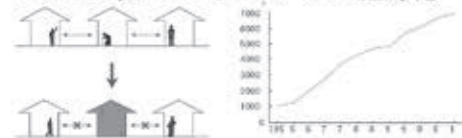
AKIYA share town



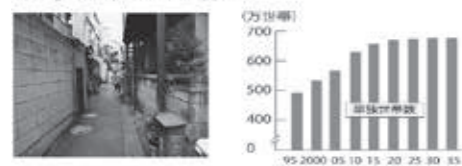
葛飾区立石では建築は古くなり、手つかずの空き家が多くある。

2. 現状調査

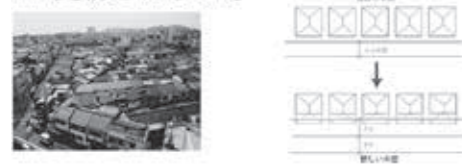
I. 空き家とコミュニティの軽薄化



II. 独り住いの増加



III. 更新されない町



3. Diagram

I. 空き家を基準に町を減築する

II. 空き家=生活インフラ 住まい=居室 とする

III. シェアタウンへ

4. シーンパース



らぶぽーと Tokyo-Bay

Concept

愛にあふれた港

家族や恋人同士で愛を育み、船橋を愛する人々で賑わう漁港を提案します。

1. 漁港の魅力をより多くの人へ

非日常的な空間や体験を通して、漁業の魅力を全身で感じられます。

2. 船橋が誇るレジャースポット

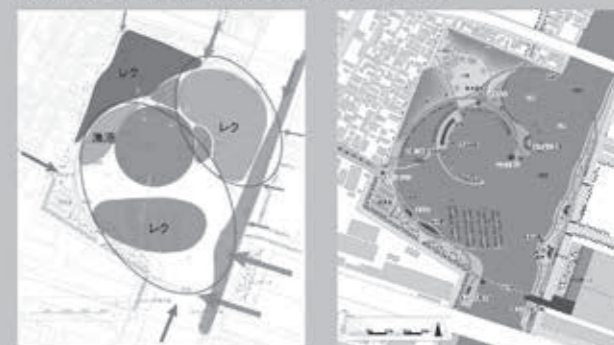
賑わいの中心地となり、優れた産品などを全国に情報発信する拠点として機能します。

3. どこからでも、しかも簡単に

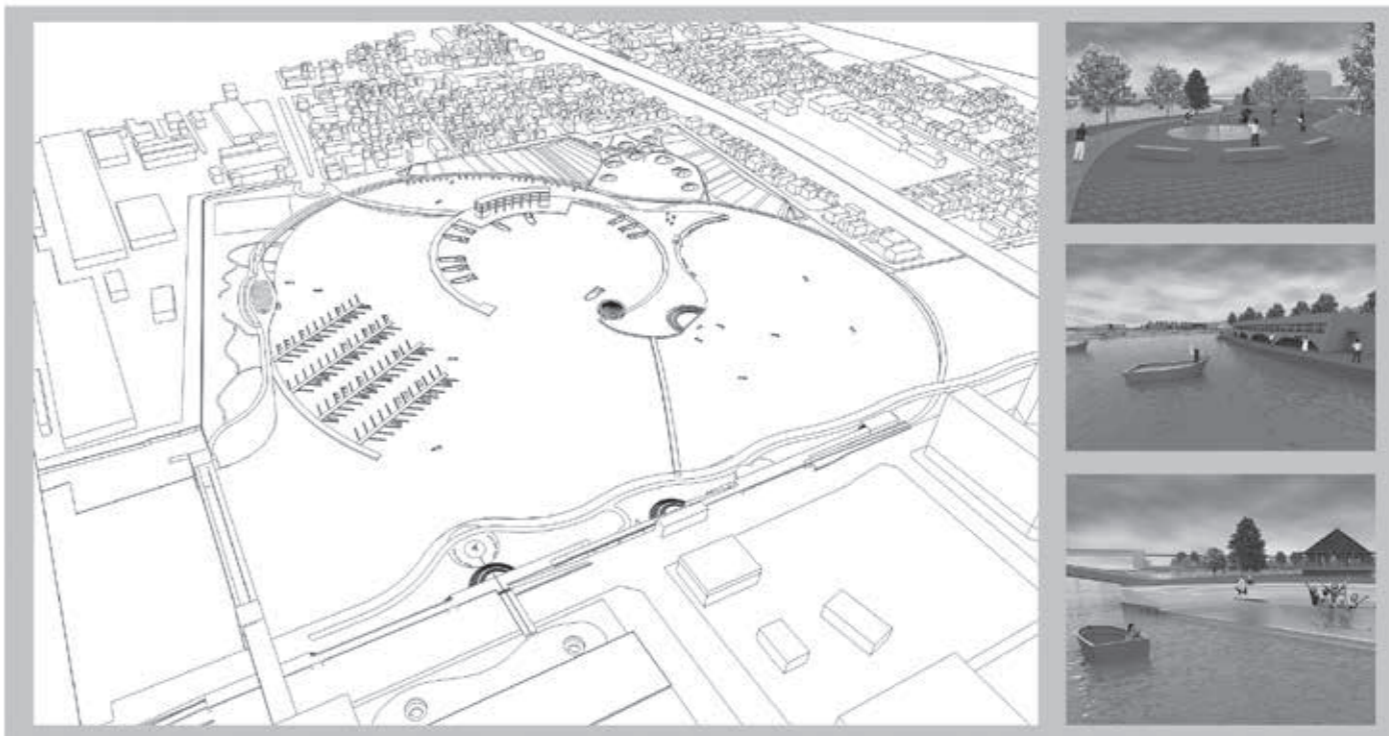
周辺環境とのつながりを密接にし、より多くの人を呼び込みます。

Zoning

漁港を中心とした回遊性の創出



漁港がレクリエーション施設によって囲まれるように配置し、人と水の回遊性をもった配置計画としました。計画地全体を周遊しながら漁港の魅力を感じることが出来ます。



総合演習 I 計画系  
**(仮称) 船橋漁港の船溜まりを中心とした賑わい空間の創出及び提案**

飯塚智哉・会沢斗志希  
 江田拓海・上野耕平

■計画敷地概要

本計画敷地は、都心の数少ない漁港である「船橋漁港」であり、近隣には大型商業施設や製品工場等がある。しかし、船橋漁港はスズキやホンピノス貝等の数々の名産品があるにもかかわらず、現状は認知度が低く、不法係留船や防潮堤によって親水性に乏しい場

所となっている。

■コンセプト

上記に挙げた問題点より「認知」「魅力」「親水」これら3項目の解決を目的とした。認知・魅力は話題性を取り込み、地域ブランドを地産地消できる場を設ける。親水は漁港を五感で感じる場を設ける。以上から、従来までの無機質な漁港のイメージを変える色彩豊かな漁港を提案する。

■提案

【ターゲット】観光客をはじめ工場勤務者、商業施設来訪者の集客を見込み、時間帯変化によって老若男女が楽しめる場の提供を図る。

【配置計画】入口付近では、簡易的な店舗、漁港機能を配することで地域ブ

ランドのPRを図りつつ漁業従事者との動線の混在を防いだ。奥には、飲食施設配し商業施設との差別化を図るとともに色彩豊かな場として人々を楽しませる。

■講評

船橋漁港を取り巻く背丈の高い護岸堤防の存在が背後地の街並みや周辺地区との連続性を遮断している。しかし、漁港内に一步入ると、大きな水面と広くあいたスカイラインが眼前に飛び込み、混在した日常的空間を瞬忘れさせてくれる。本チームはこうした状況を逆手に取ることで、堤防を境界と位置付けて、「ウチ・ソト」の関係性による魅力ある空間を「色彩の港」とし

て提案している。来訪者にとって堤防を抜けると、そこは非日常的な場所があり空間がある。新鮮な魚介類が並びマルシェはおいしいシーフードを連想させてくれ、係留されるヨット、ボートは思いを遥か大海原に誘ってくれる。こうした演出により、地産地消をおとして、船橋への理解を深め、海への関心を高めることを折り返している。また、各種建物の配置は、港内での人の動きによる視線の移動を考慮して決めており、建物の浸水などへの配慮は、港内に造る建物はピロティ形式を導入することで建物への浸水を防ぐとともに駐車場としての利用を促し、既存の漁港機能を阻害しない一石二鳥の底角を行っている。(評柳昭雄)

卒業設計

【担当】 佐藤 信治  
 坪山 幸王  
 井上 武司  
 小野 和幸  
 榎本 弘之  
 川久保智康  
 木内 厚子  
 筒井 紀博  
 鶴田 伸介  
 長井 義紀  
 廣部 剛司  
 松井 正澄  
 水野 吉樹  
 水本 光  
 光井 純



濱嶋杜人

1. はじめに

「ヒートアイランド現象」により大都市は高温化と同時に、最も生きづらい街となっていく。都心部ではさらなる自然空間の増加が求められているが、大都市で有効な緑地面積を確保することは困難だ。今までにない緑地の創造システムが必要である。それは都市を浄化し、失われた生態系を再生させる大規模な「建築」になると私は思った。

2. 計画背景

2.1. 激化する大都市の高温化

過去100年で、地球全体の年平均気温は約0.7℃上昇した。一方、日本の大都市では年平均気温が約2～3℃の割合で上昇しており、とくに大都市では、地都市化の影響が加わり、気温の上昇は顕著になっている。今後も大都市ではさらなる高温化が予想されている。

2.2. 人とその生活への影響  
都市の高温化が人へ及ぼす影響は多大である。夏期の高温化は、熱中症被害者の増加へとつながり、夜間には睡眠障害などを引き起こす原因となる。さらに、二次的に引き起こされるゲリラ的な豪雨や、大気汚染などによる人の生活への影響も大きい。

2.3. 失われる生態系

温度の変化に対応できない動物はその生息地を変える。また植物は適した環境で育つことができなくなり、緑の消失はさらなる都市高温化を助長させる。都心で動植物は着実に消えてゆくのだ。

3. 計画敷地  
都心で大規模な敷地を確保するため、新宿駅上空を敷地とする。その場所性と選定理由は以下である。

3.1. 都市化とその高温化が顕著である街

区別に熱負荷量を比べると、商業業務地区を抱えた区が多い傾向にある。なかでも新宿区は、高層、高密度化していく都市形態をよく反映している街といえる。

3.2. 風の通り道

本敷地は、線路と国道20号線の交点に位置する。これは建築物により高密度化していく都市部で風の流れを受け止められる最適な場所であるといえる。

3.3. 緑の連鎖  
新宿には周囲に大規模な緑地が存在する。それらは連続することで、緑から緑への空気の流れが生じる。敷地は3つもの大緑地をつなぐ地点となるとともに、南東からの風を受け、高層ビル群へと空気を移流する。

4. 基本計画

高層化する都市形態と同様に、緑地を高層化させていく。高層化した緑は都心で膨大な緑地面積を確保すると同時に、上空から高層、高密度化する都市へと冷気を移流する。また、高度別に動物が集まる「生態系再生タワー」のような働きをする建築となる。外部

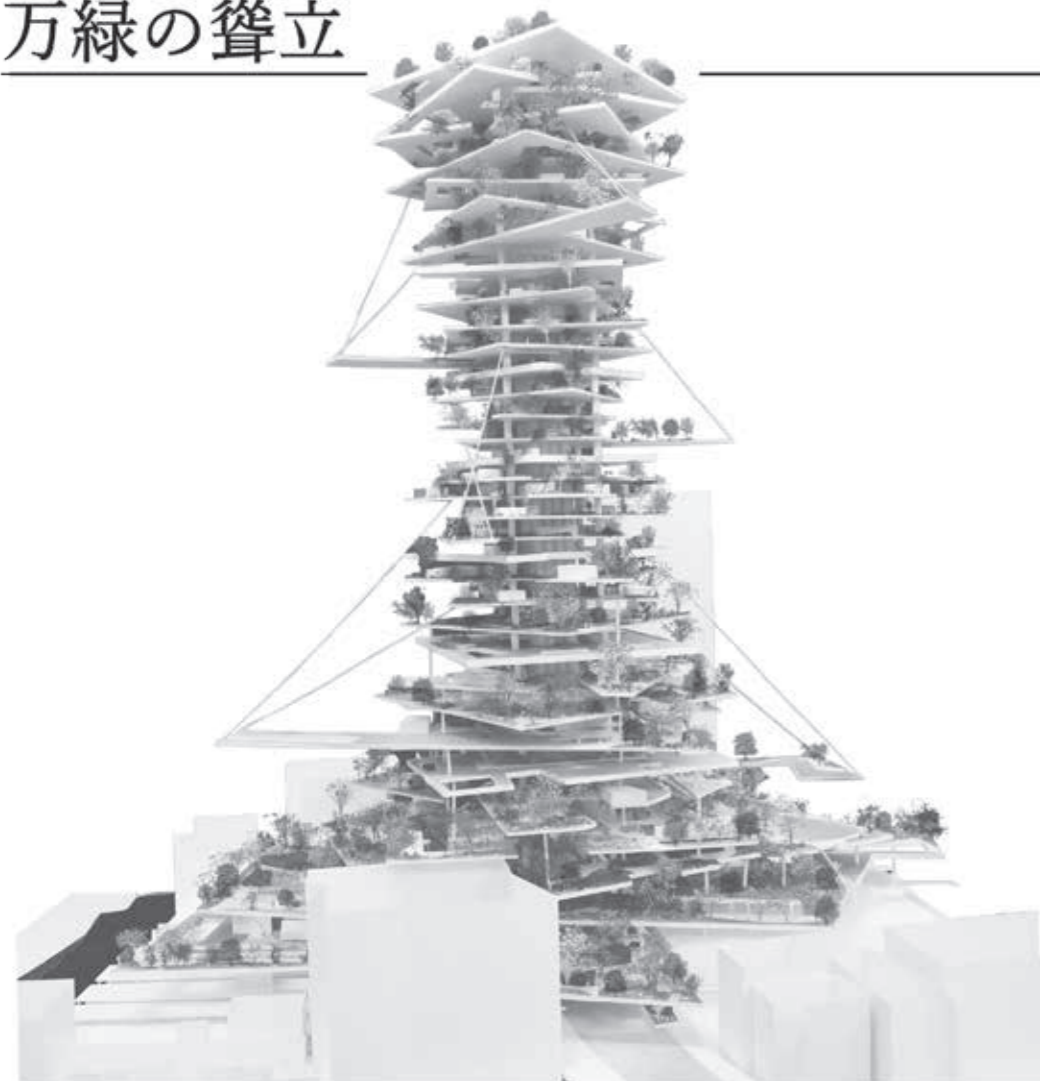
に大きく開放された緑地を生かしつつ、人の滞在するさまざまな建築の機能を複合していく。

5. 建築計画

建築を風が通り抜けることで、都市へ働きかけられるよう、建築の形態はスラブのみの高層ビルのような形としていく。スラブ間は機能別に異なるが、全体として樹木のスケールに合わせ、大きくとり、積層された公園のようなイメージで作り上げる。またスラブのすれや大量のポイドによるに抜けにより、植物への日射量を調整する。最後に貯水や雨水給水のシステム、上昇気流を用いた発電システムを建築へと組み込み、動植物の計画を合わせていくことで、全体のかたちを構築していく。

第29回千葉県建築学生賞 奨励賞

# 万緑の聳立



一 緑地空間の高層化一

【膨大な緑地面積を確保する】



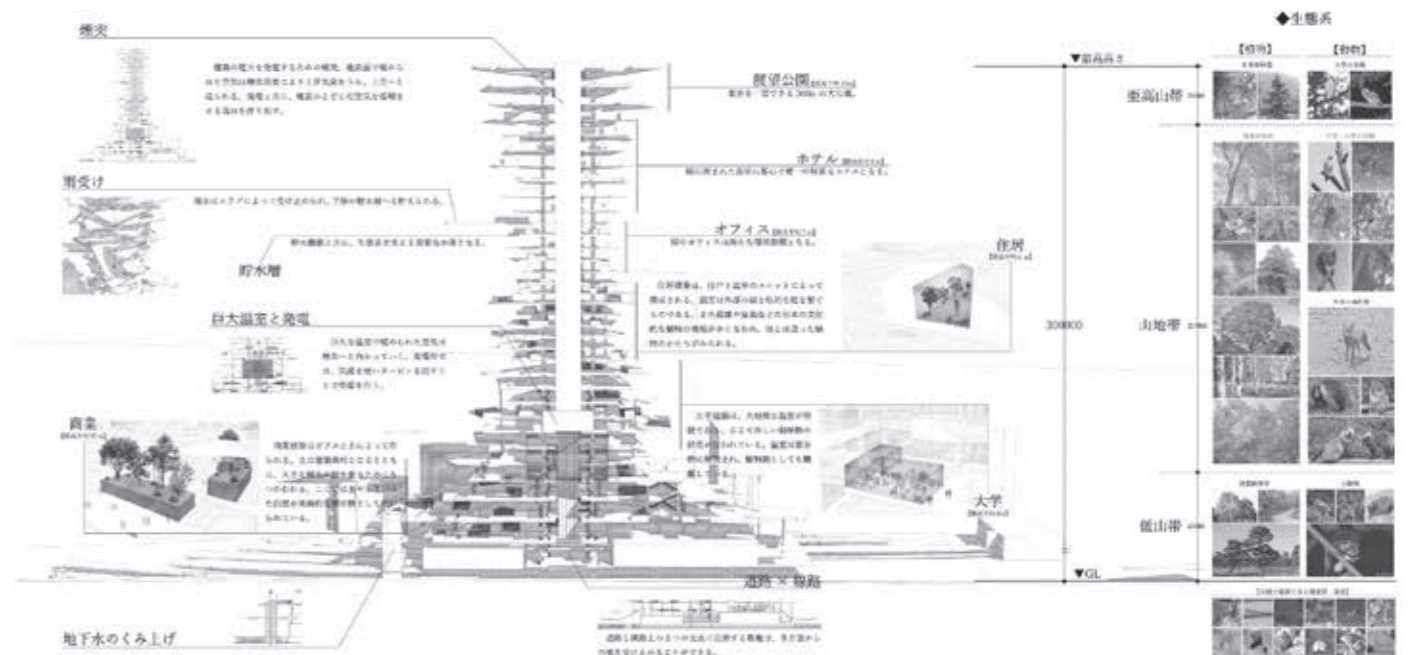
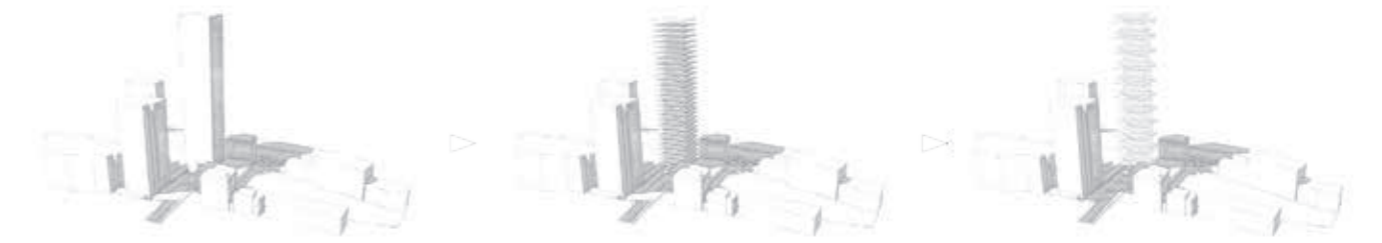
【上空から冷気を移流する】



【高度別に生態系が作られる】



# 新宿駅上空に聳え立つ大緑地空間は、命が集まり、都市を浄化する大樹となる。



システムは画期的で、それは1000年以上続いてきたサイクルである。そのお陰で麓の町は発展を遂げることができたのである。

しかし現在では棚田の放棄が進んでしまい、さまざまな危険性が発生している。農業者の高齢化や後継者不足、植物工場での生産など資本主義的な要素が原因で棚田が放棄されてしまい、その結果、山の耐力が落ち、各地でそれによる地すべりや土砂崩れの危険性が高まっている。また田んぼが減った地域では格段に洪水率が上昇している。今、新たに山の棚田と人の生活をつなげる場所、その提案が必要である。

蒲生良輔

1. はじめに日本の生活を支えている棚田—昔から川のあるところに人々の暮らしが広がっている。川の近くには当然山があるのだが、丈夫な山ばかりではなく、土砂崩れが発生することがしばしばあった。その土砂崩れから暮らしの場をいかに守ろうかと考え作られたのが棚田であった。土砂崩れ跡地を耕し、土を固め、水を溜め、浄化し、ゆっくり流しながら食料を生産するその
2. 敷地—千葉県鴨川市「大山千枚田」—
- 2.1. 東京から最も近い棚田、「大山千枚田」

東京から最も近い棚田として有名な「大山千枚田」は、千葉県の名勝にも指定されており、日本の棚田百景にも選定されているほど雄大で美しい棚田である。大昔から稲作で米えてきた千葉県鴨川市にとっても誇るべき遺産、シンボルであり、非常に大切に耕し続けられてきた。

鴨川市ではこの棚田を守ることで都市交流を行い、棚田の重要性を伝える力と町の農地活性化の起爆剤として期待を高めている。

2.2. 鴨川市にあるすべての棚田の生産力とそのポテンシャル

鴨川市は稲作が代表的な一次産業であり、広大な農地面積を有しており、その中で中山間の棚田は麓の農地保全

から生産までの役割を担っているため、非常に重要な立ち位置である。仮に鴨川市すべての農地を耕し米の生産をした場合、米の生産量としては東京都中央区の全住民が年間食べていけるだけの生産量に匹敵する。

しかし現在では1/4以上が耕作放棄されている現状があり、そのほとんどが棚田であるため、土砂崩れなどからより多くの放棄地を生む可能性がある。

3. 基本計画—棚田を守り生かしたまちづくり—

外部への発信力もあり、都市部と稲作をつなげるハブとなっている大山千枚田だが、その裏山は急傾斜地崩壊危険箇所とされており、裏の山が崩れて棚田を失ってしまい、町を創り上げていく生活と棚田の風景が失われる危機

ある。

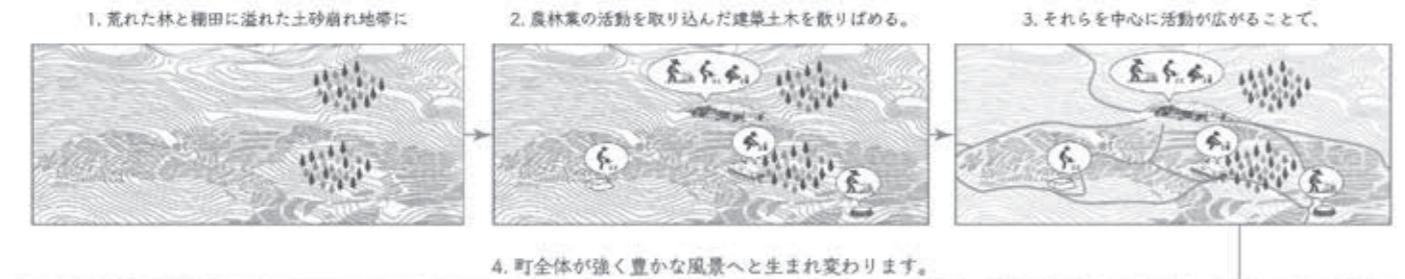
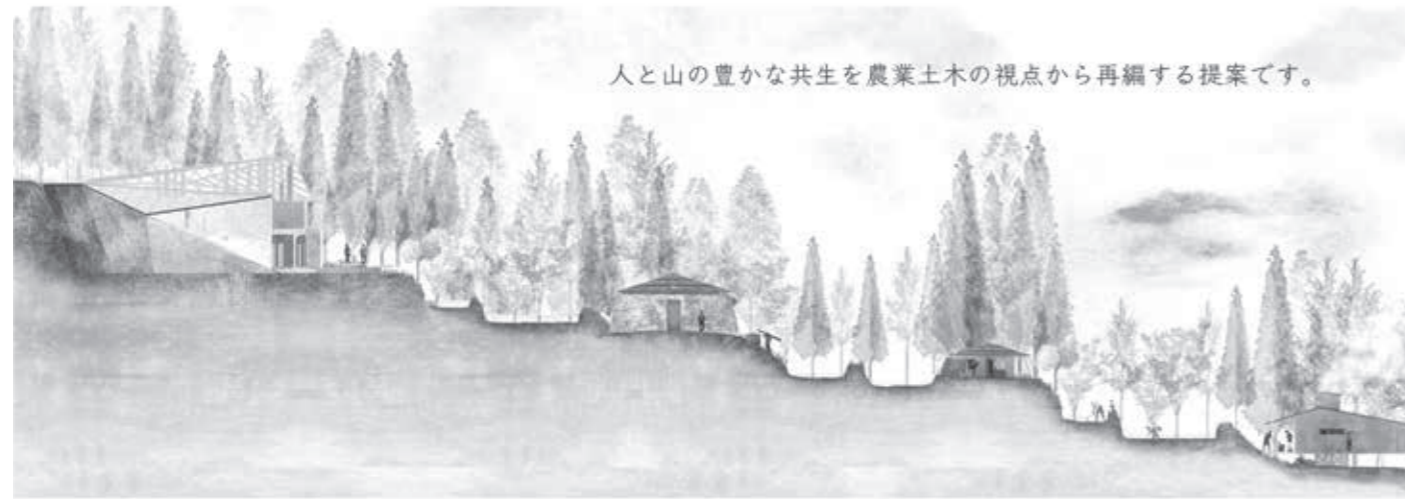
まずは土木的な作用を持って棚田を守り、外部への演出を考えたもこの風景を残すことは非常に重要である。

これまで現地では生産のみを主にしていた。ここで現地に新たに消費と加工の場を設け、生産する地域と一体にすることで消費者と農林業者の間にあった距離を縮め、農林業のやりがいを生み出す。さらに外部の人たちが農林業に触れ町の豊かさを知り、この施設から人を段階的に町と農林業に取り込んでいくことを狙う。また、地域内で生産し消費する循環システムによって防災時にも持続的に運営できる町となる。

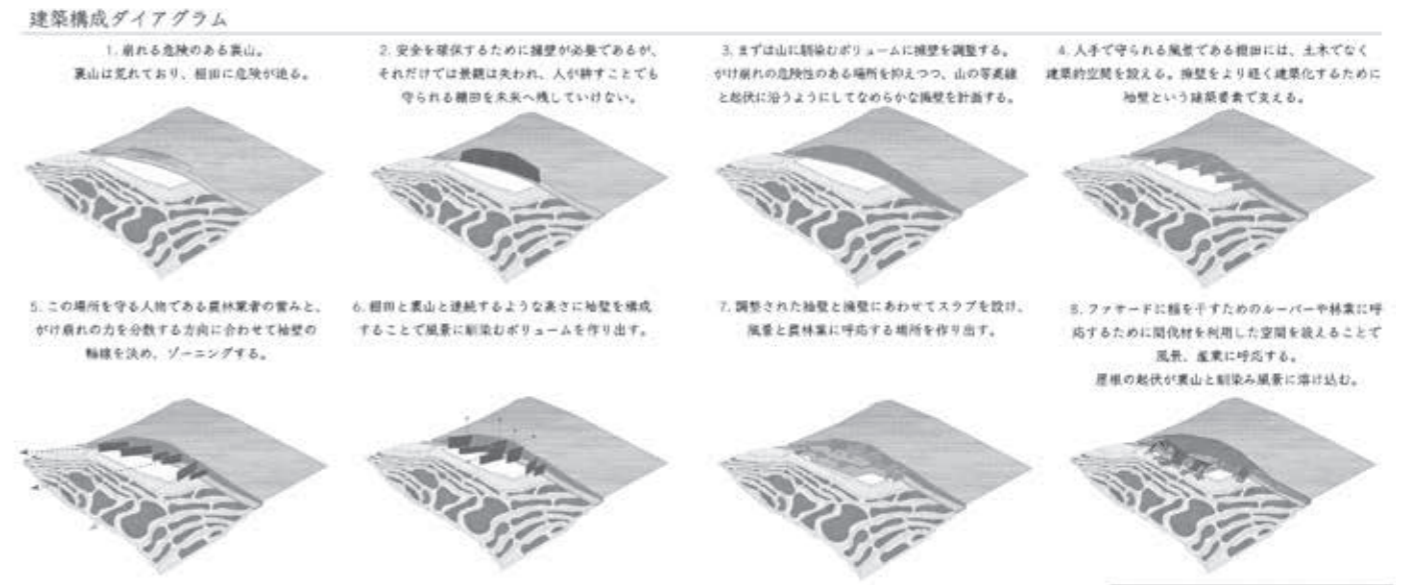
4. 建築計画—土木と建築の間—

崩れる危険のある裏山の前は駐車場となっている。安全を確保するために土を溜める擁壁が必要であるが、それだけでは景観は失われ、人の手でも守られる棚田を未来へ残していけない。ここで、建築で抑えることを考える。頬杖のように袖壁をつくることで土留めは軽くなり、自然が建築と近くなる。風景と農林業の営みを取り込む方向に頬杖壁を操作し、周辺環境と呼応したゾーニングをすることでよりこの場所を楽しめる空間とする。周辺環境と呼応した場所にスラブを設け、人の居場所を設計していく。それらを棚田と裏山と連続するようなボリュームにすることで風景に馴染み、棚田からの風が抜けていく。

結い留める水田 - 生業と土木の結節点 -



第29回千葉県建築学生賞 市民賞・奨励賞 / 第40回レモン展 出展



衛藤成波

1. はじめに

漁師は朝早く起き、支度ができたら階段を下りて1階の船着き場で船の出航の準備をします。出航するころには家族全員目を覚まし、父が漁に出る背中を見送ります。漁を終え家族がいる舟屋へ戻ります。大綱を壁にかけ破れ

た部分を縫い直し、明日すぐ出航できるように整頓しておきます。一日の漁で疲れた体を2階へ運び居間でゆっくり癒します。この舟屋の暮らしは京都府伊根町にある小さな港にあります。海と住居空間を舟屋がつなぎ、この町にしかない暮らしの美しさがあります。この美しさがあるからこそ舟屋群の美しい景観が形成されています。この伝統ある暮らしは保存するに値すると国が考え「重要伝統的建造物群保存地区」に認定されました。

ところが国や町が行っている保存措置はリノベーション。伝統的な外観だけ保存し、肝心の中身(用途)はまったく別のものに変えています。伝統や歴史を一部保存し後世に伝えることは

重要なことですが、私にとってこの保存措置は建築をミイラ化しているようにしか感じません。

2. 計画背景

リノベーションを行っている要因として、伊根町の漁業の衰退にあります。現在の舟屋群は、伊根町の漁業衰退と反比例して空き家化が進んでおり、空き家予備軍(舟屋に住んではないが所持している状態)は約40%まで上がり保存の危機にあります。伊根町は舟屋群を保存しようと舟屋一軒一軒をレストランや民泊へとリノベーションさせていますが、伝統ある景色は守られても伝統ある暮らしを自ら崩してしまっています。この舟屋群の暮らしを生きたまま保存するにはどうしたらいいか。

今回、私はこの問題に立ち向かいます。

3. 基本計画

リノベーションのように舟屋一軒一軒を保存していくのではなく、町の暮らしを保存していく必要があります。町の暮らしの保存とは舟が生活の一部になっている姿の保存であると考えました。この姿を舟屋として形にしている伊根町の漁業を保存するため私は次のような提案をしていきます。1つ、漁師の人口が減少しているので、舟屋で永く暮らししてくれる若者を呼び込みます。全国には「伊根町で漁師になりたい」という若者が多くいます。しかし、伊根町には漁業の教育環境がありません。私は新しく「漁業学校」を新築し、若い漁師を育て、舟屋に住む人

口を増やします。2つ、伊根の漁業を活性化させるため、伊根町で唯一の漁港を1、2、3、次産業を一体化させた6次産業にしていきます。最後に1次から3次まで学べる教育と6次産業をさらに一体化させた「第12次産業」というシステムを作り出し、伊根町の漁業を変えていきます。漁業と教育が連動することにより若者を呼び込み、伊根町とともに成長し一人前の漁師になっても町に根付き、舟屋と町を守っていきます。この12次産業はこれから伊根町にとって最重要な存在になります。計画するうえで、町の核と成りうる敷地を選定していきます。

4. 建築計画

計画地は伊根町唯一の漁港に選定し

ます。現在の漁港は舟屋群の歴史や伝統を感じさせない、四角く機械的な建築が立ち並んでいます。また、いくつか空き地があったり、使われていない倉庫や船着き場があります。広がりすぎた現在の漁港を一回崩し、再構築していきます。再構築する際、新築するものはすべて切妻屋根にします。舟屋がリノベーションされても建築群として評価されてきた要因として、すべての舟屋が切妻屋根で統一されていることにあるため、今回の案も新築すべて切妻屋根にすることで、すべての建築が統一されこの漁港が町にうまく溶け込めるようにしていきます。舟屋に魚の加工場や商売の機能をつなげ、12次産業化させていきます。伊根町の漁業

をより活かすため、加工場や商売の建築を新築し舟屋と一体化させます。機能的に強くなり、舟屋の伝統や歴史とともに永く存在し続けられるようにします。

5. 終わりに

町の、人の暮らしの数だけ建築が生まれ伝統ある建築へと成長していきます。その伝統ある建築を保存する際、景観や建築単体を保存するのではなく、暮らしを保存することが大切であると私は考えます。漁業で生まれた伊根町、漁師の知恵から生まれた舟屋。今、漁業が衰退し舟屋が消えようとしているのなら漁業を活性化し、舟屋を守る力を取り戻すことが本当の保存ではないでしょうか。

■伊根町現地調査

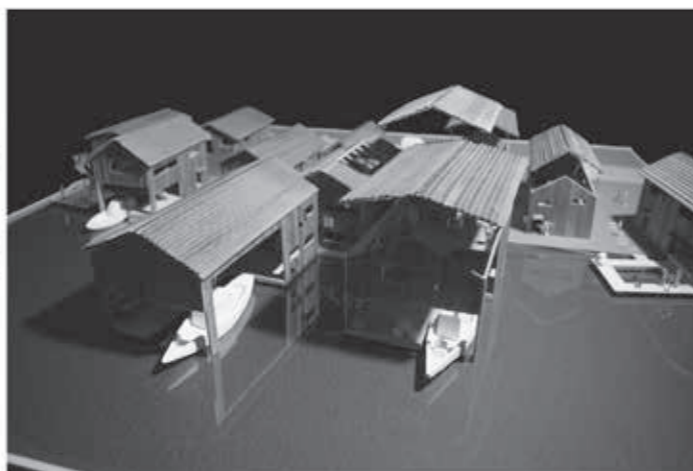


伝統ある建築の保存ではなく、伝統ある町の暮らしの保存の提案

■提案模型(漁港)



■提案模型(漁業学校)

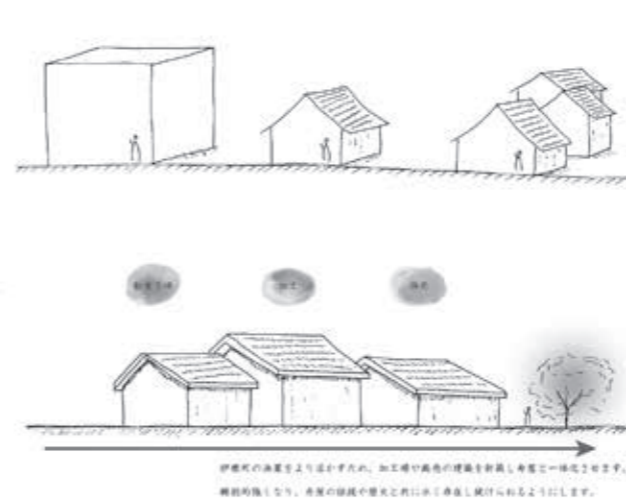


新鮮な魚を買いに町の人や観光客で賑わいます。



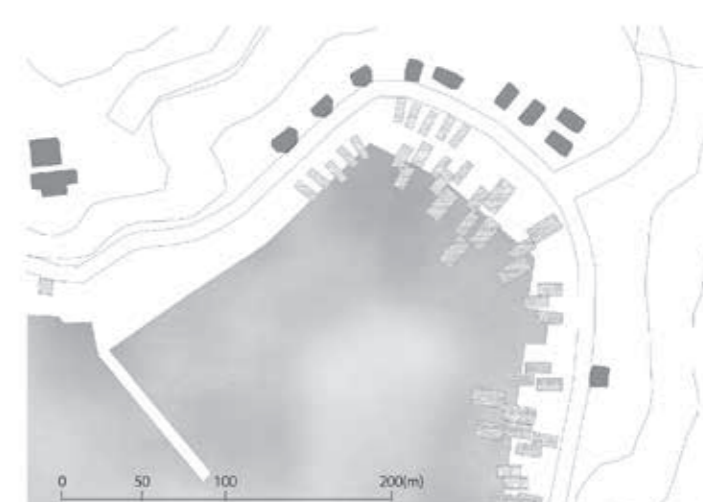
若年の漁師を教育し町の活気を増します。

■建築ダイヤグラム



伊根町の漁業をより活かすため、加工場や商売の建築を新築し舟屋と一体化させます。機能的に強くなり、舟屋の伝統や歴史とともに永く存在し続けられるようにします。

■配置計画



■6次産業(漁港)1階平面図



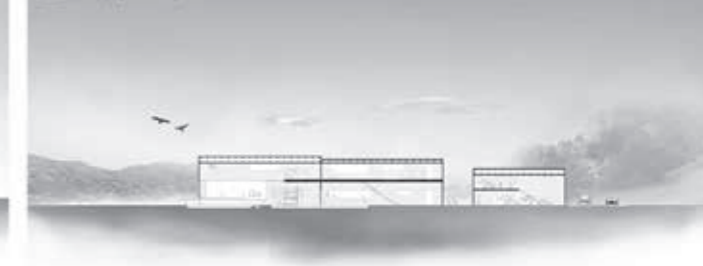
■漁業学校1階平面図



■6次産業(漁港)断面図



■漁業学校断面図



卒業設計  
潤いの成長拠点  
— ツーリストと共に生きるコムル  
— 一村 —

**上田沙矢香**  
カンボジアのシェムリアップ州はアンコールワット遺跡群の広がる観光都市である。年々経済成長が期待されるこの地には近年、多くの先進国が進出し始めている。そして先進国の都市を真似るようなビルディングタイプの建築が街中に現れるようになった。これにより現在のカンボジアでは現地の人々が長年続けてきた「気候との共存」が失われつつある。そこで本提案

では発展の拠点となる産業教育施設でありながらもカンボジアの暮らしの文化を保護できる新たな形態を計画する。  
【計画背景】  
カンボジアの気候は雨季と乾季に分けられる。雨季にはスコールによる水害が多く発生する。一方で乾季になると貯水池の水は干上がってしまい、農村部では水不足に悩まされる。またカンボジアは内戦の影響による教育問題が著しい現状にある。多子若年化によって学校教育の現場では教員不足が著しい。さらに産業教育が行われていないことから職を選ぶことができないという問題も起きている。  
【提案】  
本提案ではカンボジアの人々が気候

と共存するために利用している3つの手法「高床住居」「貯水池」「フローティング」を組み合わせることで新たな空間作りを行う。さらに新たな空間が産業教育につながるような機能計画を行う。  
【敷地選定】  
計画地は、以下の4つの条件によって選定する。①シェムリアップの中心街から半径50km以内の地域であること、②これから観光開発が予想される国道6号線沿いの地域であること、③児童教育、産業教育が必要とされる地域であること、④雨季にスコールによる水害が予想される地域であること。これにより本提案はカンボジアシェムリアップ州コムルー村において計画

する。  
【基本計画】  
本提案では観光客が村人と交わるために宿泊機能・産業機能・観光機能・教育機能を導入する。これにより互いの持つ文化や技術を共有しあえるクリエイティブな空間へと変化させていく。  
【建築計画】  
本提案では既存の村の区画に沿いながら、カンボジアの人々が生活に用いている3つの手法「高床住居」「貯水池」「フローティング」を組み合わせることで新たな形状とする。グラウンドラインに高低差を設け、それぞれのユニットを「浮体式高床住居」として貯水池上に設置する。これにより雨量によってユニット同士の空間構成に変化が現れる。

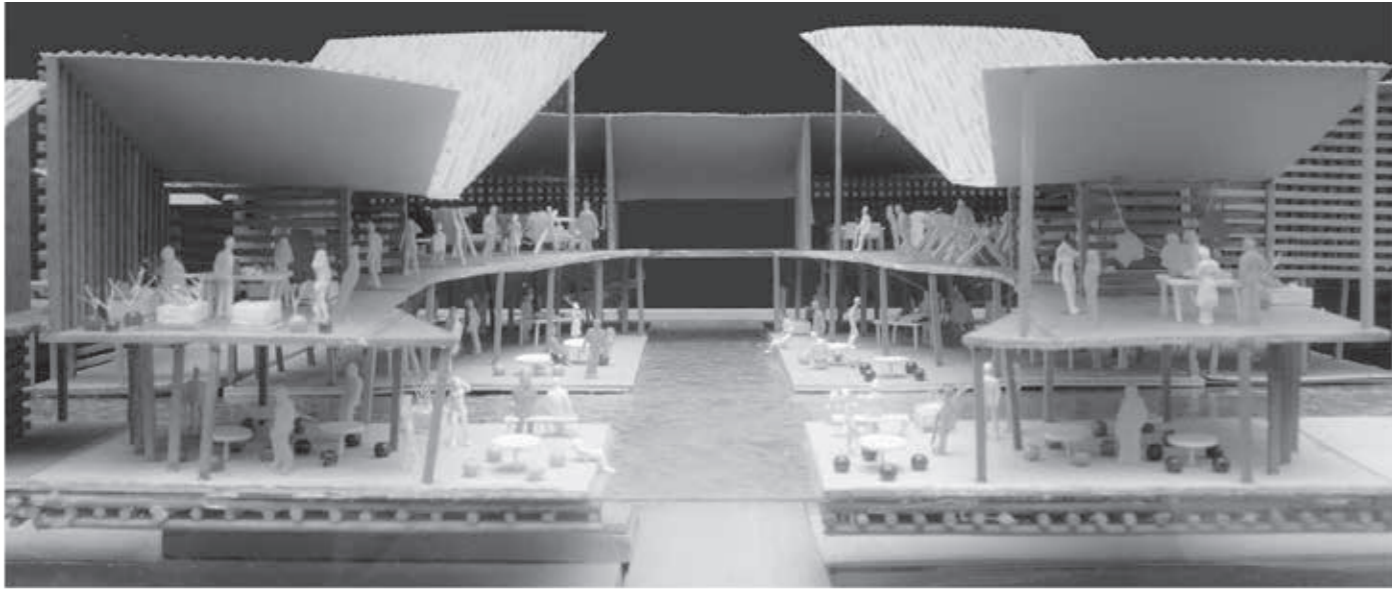
卒業設計  
共助する異文化  
産業教育を介した難民教育施設の計画

**佐々木秀人**  
【計画背景】  
近年、少子高齢化の波が押し寄せることによる労働人口の減少が顕著になってきている。都心部のコンビニやファストフード店では当たり前のように外国人労働者が店頭に立ち、地方の産業の現場ではその町の半数以上が外国人労働者の労働力によって賄われている場所も多く存在する。その反面、在日外国人の孤立化や劣悪な労働環境など、「使う日本人」「使われる外国人」という縮図ができてしまっている。本計画では、今までのような両者の関係性を否定し、日本人と移民が共助しながら生きていくための移民教育施設を提案した。

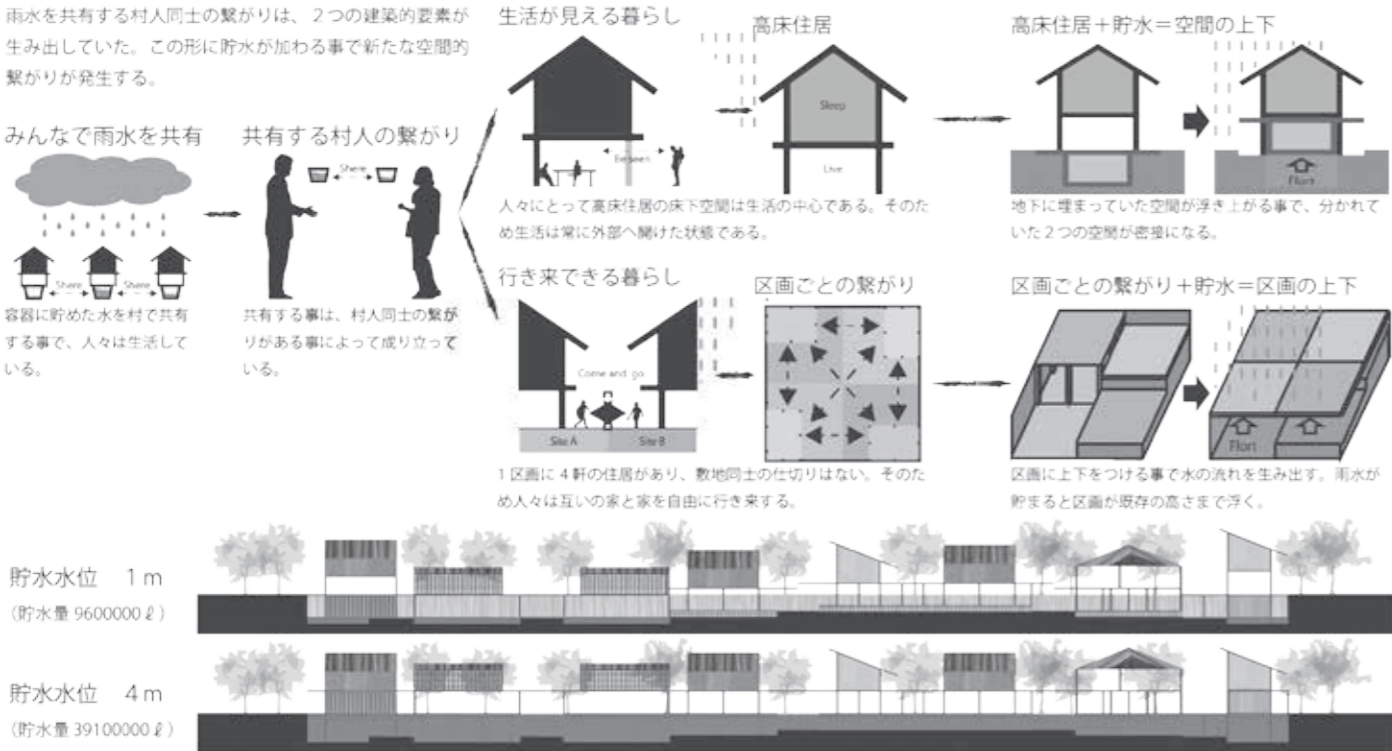
【敷地選定】  
敷地は神奈川県横須賀市浦賀。この地は古くから外国人文化に寛容な街と知られ、今でも多くの外国人が暮らす街である。さらに、山々や海などの自然豊かな環境からさまざまな産業が生まれた地でもあり、その産業を中心とした移民教育施設を計画した。  
【既存建築ストックの移民教育施設への転用】  
この地は浦賀船渠として造船業が盛んであった場所であるが、現在は操業を中止し、街の中心部へ廃工場が取り残されている。この廃工場を日本文化を知るきっかけとなる建築と捉え、移民教育施設へとコンバージョンする。  
【徐々に街の中心へと開かれていく建築形態】  
現在の移民と地域住民との関係の中

で「近すぎる距離感」に疑問を持ち、建築によって地域住民と移民とが程よい距離感を保ちながら生きていくための移民教育施設をデザインする。全体構成として、街の中心部から遠い沿岸部から街の中心部にかけて徐々に建築が地域に開かれていく建築を提案する。来日初めは内向きに開かれた建築形態とし、そこから年度毎に街の中心部へと住み替えていく構成とする。見知らぬ土地へ訪れてすぐの外国人たちは、故郷と同じ青い海と広い空を一望しながら、日本での生活を徐々に身につけていく。その前段を踏むことで、数年後、地域に溶け込み街を支える立派な移民としての彼らを見ることのできるだろう。

せんだいデザインリーグ卒業設計日本一決定戦 100選 / 全国合同卒業設計展「卒、17」総合資格学院賞



雨水の共有が繋ぐコミュニティを生かした建築へ



敷地：神奈川県横須賀市浦賀  
機能：産業教育施設 + 住居施設

「ボリュームの細分化」・「外皮の開閉率」によって移民と地域住民が共助して生きるための距離感をつくりだす

01-「使う日本人」と「使われる外国人」  
02-街の中心に取り残された浦賀船渠跡地  
03-公共施設として使われる産業教育棟

年間24万人もの移民が日本へ  
街の裏側となっている浦賀船渠跡地  
移民と地域住民それぞれの公共施設

04-平面計画 中心部にかけて変化する建築形態

街の中心から離れた沿岸部  
駅を中心とした街の中心部

program 既存工場の教育施設への転用  
a 街の中心に残されている廃工場  
b 産業教育棟と住居棟への用途転換  
c 合わせて外皮の開閉率が高くなる

建築 diagram 工場の架構を利用した建築形態  
a 「外皮」と「ボリューム」による構成  
b 街の中心へかけて細分化する建築  
c 合わせて外皮の開閉率が高くなる

sceneA sceneB sceneC sceneD

大屋根下の余白空間に賑わい生まれる  
街の中心部へかけて、建築と共に生活が溢れる  
大屋根に覆われたことで安定した半外部空間  
街の中心部では、内部の賑わいが外部へ露出する



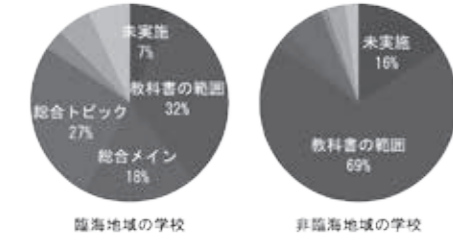
修士設計  
**海に関する学習を提供する  
 新国立青少年自然の家  
 の提案**  
 —三浦市の地域資源を活用した  
 施設的设计—

**志萱侑太**  
 わが国は四面を海に囲まれた島国という環境の中で生活している。その海には、多くの資源があるため、科学技術を進歩させ、海域での人間の行動能力・範囲を増加させることで豊かな生活を実現してきた。しかしながら、海洋に関する国家間の問題や汚染、資源枯渇など、海を巡った問題が21世紀初めから顕著になってきた。そのため、政府は海洋に跨る分野・問題を総合的に管理するための、「海洋基本法」を2008年に制定し、経済社会の発展及び国民生活の安定向上を図った。その後、内閣の総合海洋政策本部が中心となって海における各分野の問題や展望をまとめていく。2015年に行われた第20回

「海の日」特別講演では、安倍首相が「海洋開発に携わる技術者の数を2,000人から2030年までに1万人程度に引き上げる」考えを示した。  
 しかし、こうした展望を実現させるには、若い世代（早期）からの海に対する理解が大切である。海に関する知識水準を高めることで、海洋系の仕事や取り組みがあることを周知することが可能となる。なので、海洋基本計画の重点的に推進すべき5つの取り組みの中でも、とくに4番目の項目で挙げられている海洋教育の充実が最重要であると考えられる。  
 海洋教育の充実が謳われているが、海洋教育の地域格差が生じていることが、海洋政策研究財団の調査によって

明らかとなった。海に近い小学校では45%の体験活動と32%の教科書学習に対して、海から離れた小学校では、69%の教科書学習となっている。また、海洋教育に限らず、海での自然体験を行ったことのない子どもが増加していることも現状である。以上より、海洋教育の充実を図るためには、体験の提供は必要最低限である。さらなる充実のためには、体験プログラムの開発及び研究と教育者の育成が、体験の提供と一体になる必要があると考える。それらの役割を担う「国立青少年自然の家」は、全国に14施設が点在している。しかし、現状では、海に関する体験活動の提供や海洋教育プログラムの開発を中心に行う施設は存在しない。また、

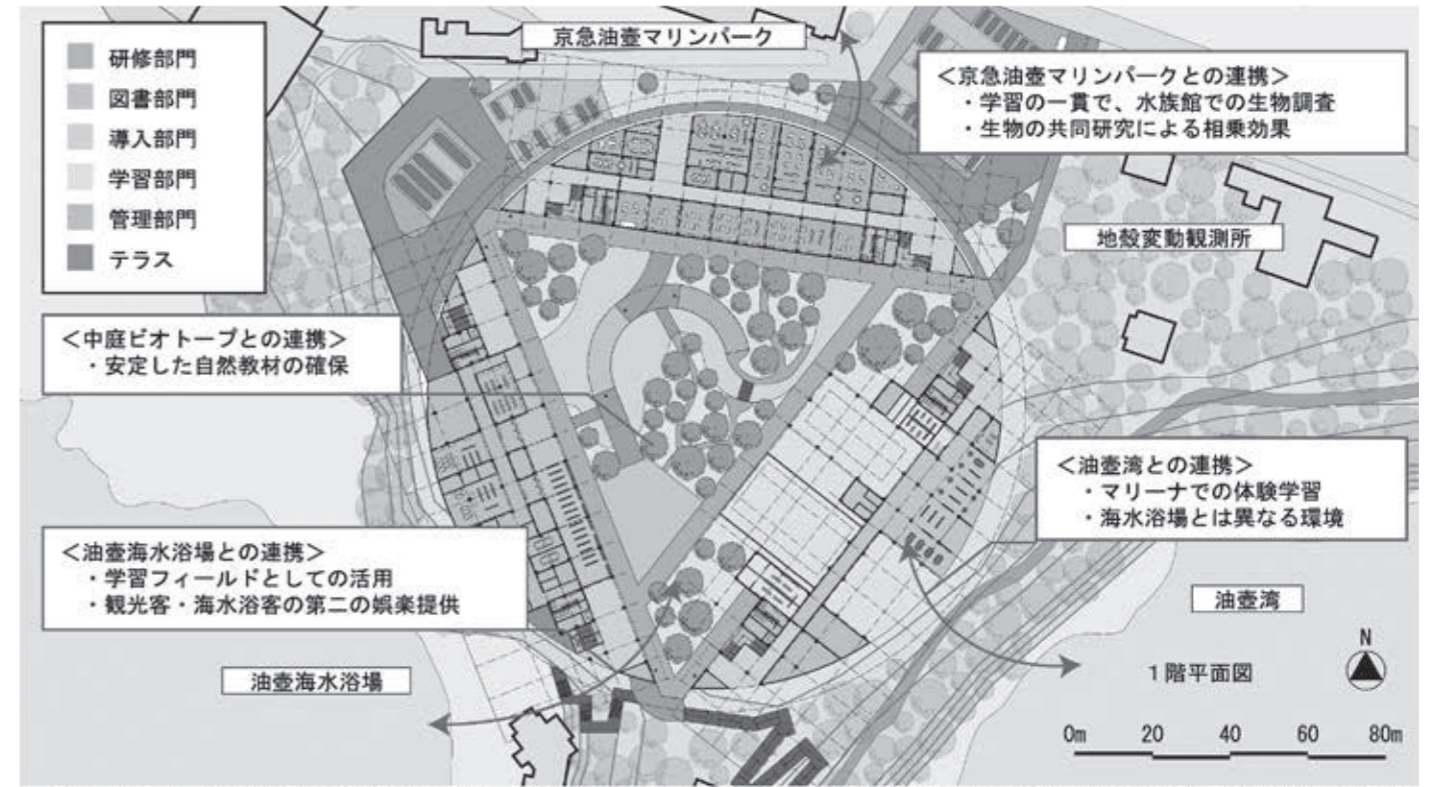
人口約1,362万人を擁する東京近郊に設けられていないのが現状である。しかし、人口の集中する地域であり、自然体験の機会が少ない都市部にこそ「国立青少年自然の家」が必要なのを言うまでもない。また、人口が多いため、利用頻度が高くなるが見込め、学習プログラムの研究や人材の育成がしやすい環境となることが想定される。  
 本提案では、未来の海洋技術立国への第一案として、海に関する国民への理解と小児からの教育を充実させる。そこで、東京近郊を計画地とし、海洋教育の充実のための「体験活動提供・プログラム開発及び研究・人材育成」を中心とする新たな国立青少年自然の家を提案する。



項目	割合 (%)
教材の提供	49.6
外部講師	52.4
施設での解説	16.7
海の学習の提案	27.4
事例の情報発信	24.6
施設での体験活動	36.7
授業の共同開発	41.0



第40回レモン展 出展



修士設計  
干潟の機能を取り入れた  
浮体式浄化施設の設計  
—東京湾におけるリゾートホテル  
を核とした提案—

その結果、物流や交通、商業、居住、重工業、公園といったさまざまな形の土地利用が行われることとなった。その一方で、大気汚染、地球温暖化、海洋汚染、廃棄物、資源の枯渇等、多くの環境問題に直面するようになった。東京湾では1960年代から土地利用による、沿岸域の埋め立てが活発化し水面面積の15%が埋め立てられている。埋め立てられた土地で物流や工業が発展していく一方で、生活廃水や工業廃水などが原因となり赤潮や青潮などの環境問題を引き起こしている。東京湾の水質を改善するために陸域では下水処理場による水質浄化の政策が行われている。しかし、このような水質の改善は海域に対しての直接的な対策とは

言い難いのが現状である。東京湾の埋め立ては干潟や浅場の消失に直接的な影響を与えている。干潟は陸域から流れ出る有機物を分解する機能を持った底生生物の生息場であり、それを採餌する渡り鳥の餌場となっている。また、浅場に広がる海藻群で形成された藻場では、リンや窒素の分解が行われている。これらの海域では魚介類が餌を取り、卵を産むための場所となっている。つまり、干潟と浅場を再生していくことで、東京湾の水質を浄化し、生態系の循環を回復することが可能であると考えられる。また、藻場を形成しているコンブなどの水生植物はCO<sub>2</sub>を吸収し酸素を生産する機能にはおいては陸上植物より

も優れている。さらに、海藻は近年バイオマス発電の燃料としても期待されていることから、この経済的価値は大きい。つまり、干潟と藻場を再生することは、海洋環境の改善だけでなく、CO<sub>2</sub>の削減や代替エネルギー源としてわれわれの生活に大きく貢献することとなると考えられる。本計画では東京湾の北西海域に干潟と浅場の機能を取り入れた、浮体式浄化施設を設置することで、東京湾の生態系を改善することを目指している。さらに、浮体構造の干潟と藻場を新しいリゾート地として位置付ける。そこで行われる研究や海藻を用いた発電を目の前にして体験・学習することができる宿泊施設の提案を行う。

修士設計  
次世代型浮体式海洋ガス  
生産施設の提案  
—愛知県渥美半島沖における複合  
型研究開発施設の設計—

出山 亮  
日本は高度経済成長期以降、豊かな国へと成長を遂げてきた。そんな社会の発展とともに、電力の消費量は大幅に伸び、現在では世界第3位のエネルギー消費大国となった。しかしながら、原子力を含まないエネルギー自給率は5%であり、エネルギー資源の約80%以上を輸入に頼っているのが現状である。これを受けて日本は、2度にわたる石油危機の経験から、エネルギー源

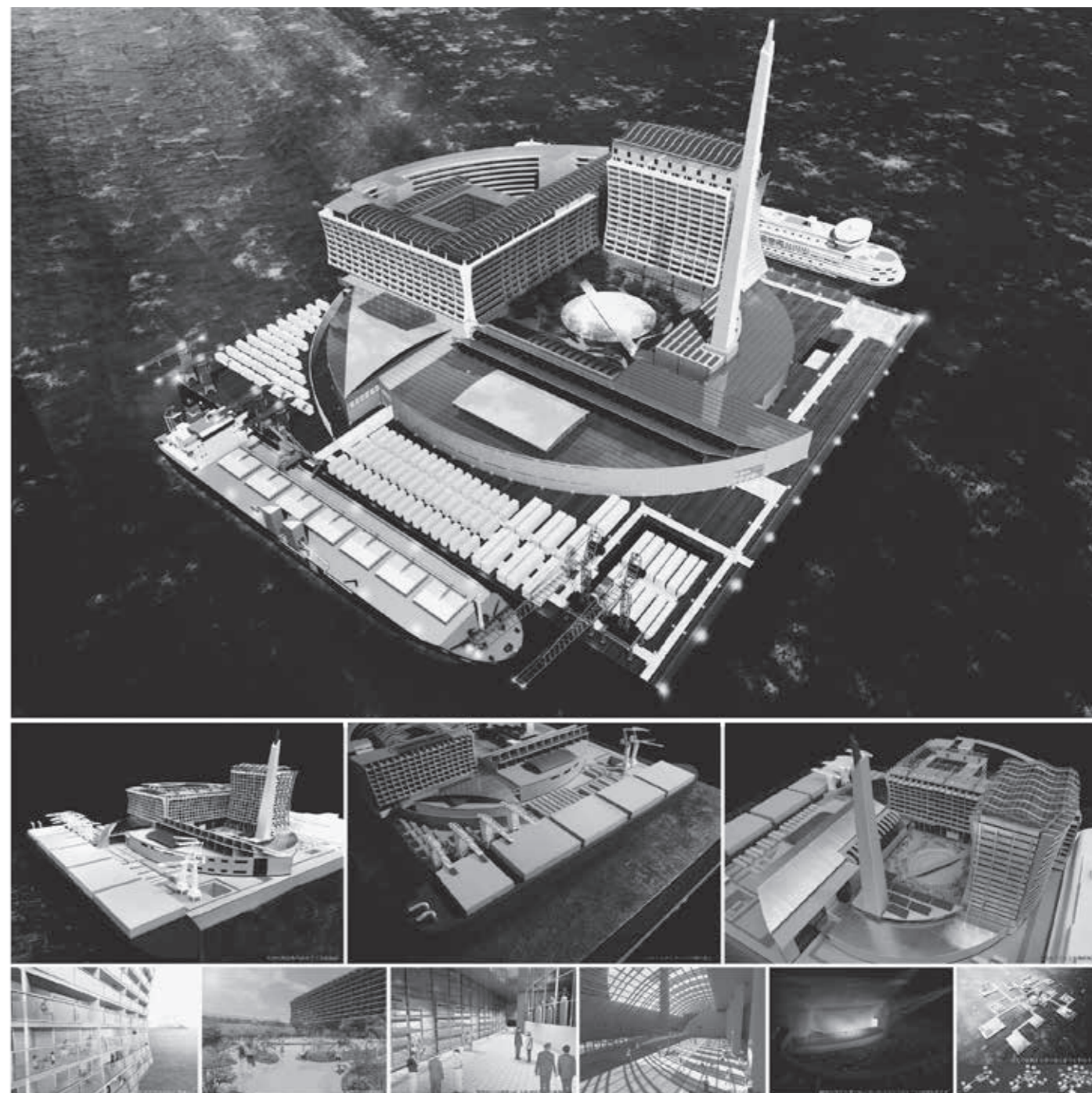
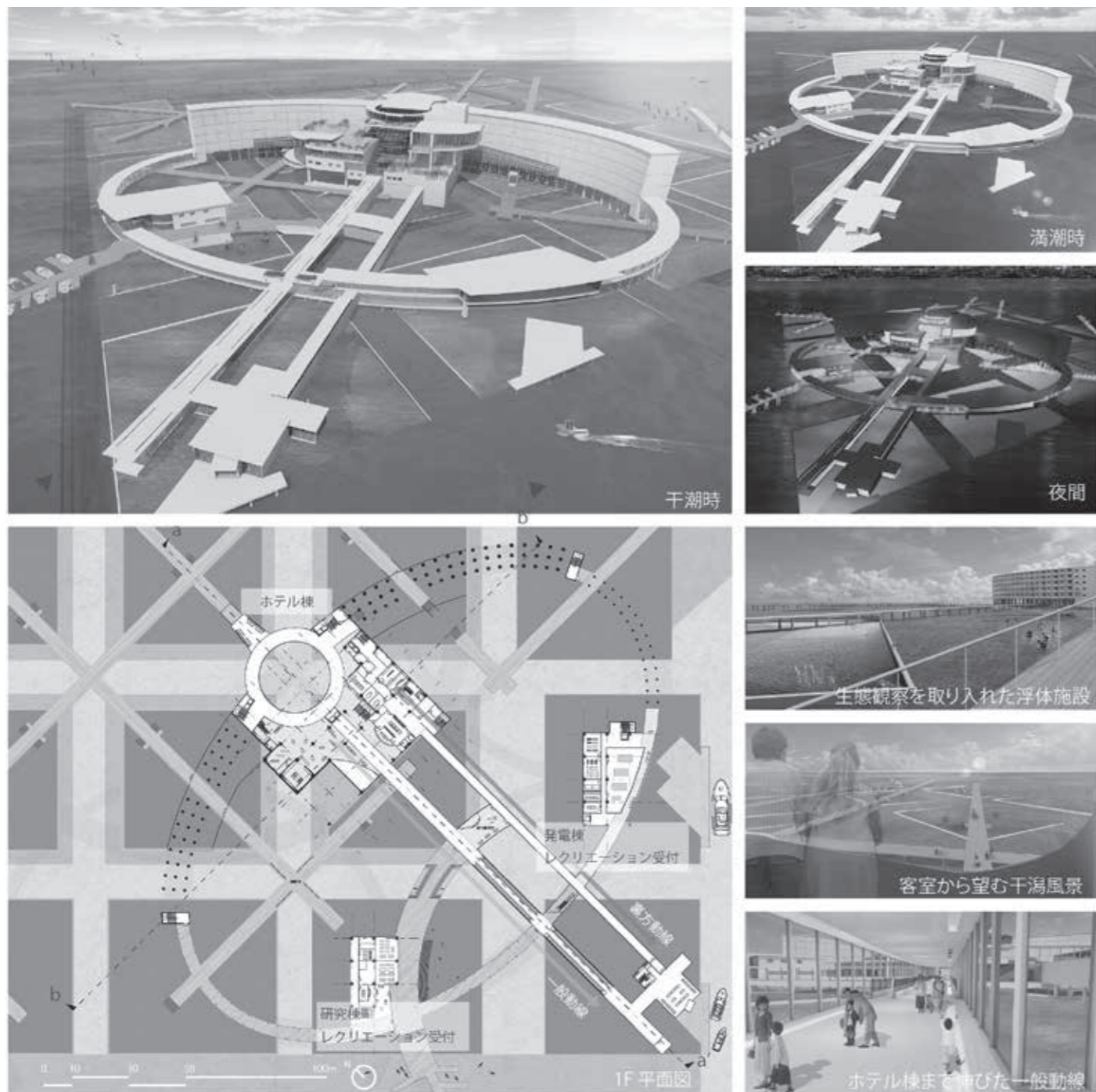
の多様化を図った。主に、石炭・天然ガス・原子力等の開発に取り組み、エネルギー需給構造の改善に努めてきた。しかし、化石燃料への依存は変わらないのが現状である。今後も、インターネットをはじめとするデジタル化社会の進展を踏まえると、電力需要は増加が予想される。そんな中、東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故を契機に、わが国はエネルギーの転換期を迎えている。今後は、輸入に依存しない安全でクリーンな国産エネルギーを求め動きがよりいっそう高まっている。そこで今、注目されているのが日本近海に眠る海底資源である。その代表格であるメタンハイドレートは、天然ガス資

源のひとつであり、「燃える氷」と呼ばれ、従来の化石燃料に比べ燃焼時のCO<sub>2</sub>排出量が半分である等、クリーンなエネルギーとして期待されている。そんなメタンハイドレートは、日本の周辺海域に多く存在している。これは2006年に実施された経済産業省の調査によるもので、南海トラフ海域における埋蔵量は6兆立方メートルが現存することが判明した。この量は、海外から輸入している天然ガスの約100年分に相当する量である。この調査結果を受けて政府は、新たな国産エネルギー資源としてメタンハイドレートの商業化を実現させるべく、2001年7月に経済産業省が「我が国におけるメタンハイドレート開発計画」

を制定した。この開発計画は2001年度から2018年度の18年間に及ぶ長期計画である。具体的な成果として2013年3月、資源エネルギー庁がメタンハイドレートからのガス生産実験を行い、世界で初めて成功を収めた。この実績から、最短でも2020年代の前半には、商業生産が実現可能であることがいえる。そこで本論では、新たな国産エネルギー資源として普及拡大が期待されるメタンハイドレートを主な供給源とする浮体式海洋ガス生産施設を提案する。そこで生産した海洋ガスは、シャトルタンカーへ積み出し陸上へと供給するとともに、施設内で発電を行う。これにより施設全体の電力を賄い、海上での長期的な活動が可能となる。

山影悠時

1960年代の高度経済成長によって、日本は物質的に恵まれた国となった。



## ■コンペ受賞歴一覧

**日本一** 29作品 (卒業設計 19作品、建築学会コンペ 1作品、その他のコンペ 9作品)

**日本二** 21作品 (卒業設計 2作品、建築学会コンペ 4作品、その他のコンペ 15作品)

**日本三** 12作品 (卒業設計 1作品、建築学会コンペ 5作品、その他のコンペ 6作品)

その他受賞数 318作品

年度	卒業設計(●)／修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
昭和52年	●第10回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞／石渡孝夫(建築学科海洋コース) <b>日本一</b>		
53	●第11回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞／富田善弘(建築学科海洋コース) <b>日本一</b>		
54	●第12回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞／小林直明(建築学科海洋コース) <b>日本一</b>		
56	●第14回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞／吉本宏 <b>日本一</b> ・同入選／松木康治		
57	●第15回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・建築部門賞／稲村健一 <b>日本一</b>	●「地場産業振興のための拠点施設」 ・支部入選／鈴木洋一	
58	●第16回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞／遠藤卓郎 <b>日本一</b> ○財日本港湾協会主催マリノポリス計画コンテスト ・優秀特別賞／川口利之	●「国際学生交流センター」 ・全国入選佳作／稲村健一 ・支部入選／大久保豪、杉田祐之、花岡豊、星野博史	
59	○第17回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選／稲村健一		●第11回日新工業設計競技「ノアの箱船」 ・3等／遠藤卓郎、岩崎博一 <b>日本三</b> ●R.I.B.A 英国王立建築家協会国際学生デザインコンペ ・入賞／中村耕史、秋江康弘、稲村健一 ●第19回セントラル硝子国際設計競技「グラスタワー」 ・佳作／秋江康弘 ●三井ホーム住宅設計競技「2×4による新しい住まい」 ・佳作／川口利之、菅沼徹、筒井毅 ●桜門建築会第1回学生設計コンクール「建築学生交流センター」 ・佳作／稲村健一
60	●第18回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選／富田誠	●「商店街における地域のアゴラ」 ・全国入選3等／藤沢伸佳、柳泰彦、林和樹 <b>日本三</b>	●A.I.A アメリカ建築家協会国際学生コンペ ・2等／秋江康弘 <b>日本二</b>
61	●第19回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選／小野正人	●「外国に建てる日本文化センター」 ・全国入選3等／小林達也、佐藤信治、小川克巳 <b>日本三</b> ・支部入選／渋谷文幸 ・支部入選／林和樹、鶴飼聡(建築)、高橋義弘(建築)	●桜門建築会第2回学生設計コンクール「桜母校友クラブ」 ・1等／山崎淳一、松尾茂 ・佳作／小林達也、佐藤信治 ●第6回ホクストン建築装飾デザインコンクール「まちなかの公共トイレ」 ・佳作／小林達也
62	●第20回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選／海老澤克	●「建築博物館」 ・支部入選／松尾茂、横堀士郎、石川仁、鳥海清二(建築) ・支部入選／小野正人、小沢一実、渡邊俊幸	●ミサワホーム住宅設計競技 ・入選／小林達也
63	●千葉県建築三学生会賞 ・銅賞／近藤陽次 <b>地域三</b> ・奨励賞／毛見究	●「わが町のウォーターフロント」 ・全国入選1等／新岡英一、橋本樹宜、丹羽雄一(建築)、毛見究、草薙茂雄 <b>日本一</b> ・全国入選佳作／園部智英、石川和浩、原田庄一郎 ・支部入選／松尾茂、山本和清 ・支部入選／岩川卓也	●'88膜構造デザインコンペ ・佳作／山口明彦 ●第2回千葉ふるさと住宅設計コンクール ・佳作／川村佳之 ●桜門建築会第3回学生設計コンクール「ゲストハウス」 ・1等／山口明彦、原利明(建築)、渡辺一雄(建築) ・2等／加藤麻生 ・3等／飯田隆弘、丹羽雄一(建築)、有馬哲也(建築) ・佳作／小堀泰毅、伊藤剛 ・佳作／長谷川晃三郎、佐久間明
平成1年	●第22回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・建築部門賞／長谷川晃三郎 <b>日本一</b> ・入選／佐久間明 ●千葉県建築三学生会賞 ・金賞／佐久間明 <b>地域三</b> ・奨励賞／長谷川晃三郎	●「ふるさとの芸能空間」 ・全国入選2等／新岡英一、長谷川晃三郎、佐久間明、岡里潤 <b>日本二</b> ・全国入選3等／丹羽雄一(建築)、益田勝郎 <b>日本三</b>	●石川県建築士会設計競技「垂直複合体」 ・1等／矢野一志、佐藤教明、菊池貴紀、廣川雅樹、安田友彦、鈴木宏祐 <b>日本一</b> ●第1回横浜アーバンデザイン国際コンペ ・選外入選／長谷川晃三郎 ●第3回千葉ふるさと住宅設計コンクール「安全で魅力ある三世代住宅」 ・入選／山本和清

年度	卒業設計(●)／修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成2年	●第23回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選／山口哲也 ●千葉県建築四学生会賞 ・金賞／矢野一志 <b>地域三</b> ・銅賞／山口哲也 <b>地域三</b>	●「交流の場としてのわが駅わが駅前」 ・全国入選2等／植竹和弘、根岸延行(建築)、中西邦弘(建築) <b>日本二</b> ・全国入選3等／飯田隆弘、佐藤教明、山口哲也 <b>日本三</b>	●石川県建築士会設計競技「海に浮かぶ市場」 ・3等／川久保智康、野沢良太 <b>日本三</b> ●第2回横浜アーバンデザイン国際コンペ「ウォーターフロントの再生に向けて」 ・佳作／矢野一志、佐藤教明、大坪一之、屋田直樹、佐藤滋晃、菊池貴紀、菅野聡明、門脇桂子、馬場昭光 ●BAY'90デザインコンペ (BAY'90開催記念学生建築設計競技) ・優秀賞／佐久間明 <b>日本二</b> ・佳作／益田勝郎 ●桜門建築会第4回学生設計コンクール「建築家ギャラリー」 ・2等／岡里潤、寺尾浩康、馬場昭光 ・佳作／植竹和弘、白石充、根岸延行(建築) ・佳作／山口哲也、佐藤教明 ・佳作／広部剛司、佐藤岳志、菅浩康 ●第10回ホクストン建築装飾デザインコンペ「都市公園に建つフォーリー」 ・佳作／武田和之、岡里潤
3	●第24回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・建築部門賞／高橋武志 <b>日本一</b> ●千葉県建築三学生会賞 ・金賞／高橋武志 <b>地域三</b> ・奨励賞／廣川雅樹	●「都市の森」 ・1部全国入選2等／山口哲也、河本憲一、廣川雅樹、日下部仁志、伊藤康史、高橋武志 <b>日本二</b> ・2部全国入選最優秀／片桐岳志 ・2部支部入選／布川亨、八代国彦(建築)、堤秀樹	●JIA オープンデザインコンペ「都市の解体と再構築」 ・1等／佐藤教明、山口哲也、木口英俊 <b>日本一</b> ・佳作／川久保智康、野沢良太 ●'91メンブレインデザインコンペ「アーバンビルとメンブレイン」 ・最優秀賞／河本憲一、石井昭博、関戸浩二、福田昌弘 <b>日本一</b> ●第2回長谷工イメージデザインコンペ「現代の夢殿」 ・入選／川添隆史、渡辺千香子 ●第18回日新工業建築設計競技「都市空間の再生計画」 ・入選／川久保智康、野沢良太、花沢真哉、高山一頼、伊藤裕、森泉尚之、額村康博、布川亨、八代国彦(建築) ●第3回タキロンデザインコンペ「時代の風をはらむ都市装置」 ・3等／降旗恭子、黒田佳代 <b>日本三</b> ・入選／木口英俊 ●第5回千葉ふるさと住宅設計コンクール「共働き家族のための住宅」 ・奨励賞／川添隆史 ●第2回学生のためのフレッシュデザインコンペ ・フレッシュデザイン賞／木口英俊、渡辺昇 ●1991第1回 BUFF 国際建築デザインコンペ「東京の住まい」 ・佳作／佐藤教明
4	●第25回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・建築部門賞／片桐岳志 <b>日本一</b> ・入選／寶田陵 ●千葉県建築三学生会賞 ・金賞／片桐岳志 <b>地域三</b> ●東京ガス・銀座ポケットパーク「卒業設計制作展」第10回記念『1993卒業設計制作大賞』 ・金賞／寶田陵 <b>日本一</b> ・銅賞／片桐岳志 <b>日本三</b>	●「わが町のタウンカレッジをつくる」 ・1部全国入選3等／佐藤教明、木口英俊 <b>日本三</b> ・1部全国入選佳作／廣川雅樹、寶田陵 ・1部支部入選／山口哲也、河本憲一 ・1部支部入選／木口英俊、高橋武志 ・2部支部入選／関谷和則、石渡義隆 ・2部支部入選／平崎彰、望月喜之	●盛岡・水辺のデザイン大賞 ・専門部門佳作／佐藤信治、河本憲一、廣川雅樹、伊藤康史、日下部仁志、高橋武志、伊藤賢 ●奈良・TOTO 世界建築トリエンナーレ ・佳作／川久保智康、野沢良太、永島元秀 ●'92メンブレインデザインコンペ「オートキャンプ場」 ・2等／片桐岳志 <b>日本二</b> ・佳作／高橋武志、関戸浩二 ●桜門建築会第5回学生設計コンクール「わがヒーローとの出会い」 ・2等／片桐岳志、岡田和紀 ●アーキテクチャ・フェア KOBE 学生設計競技「神戸・学園東地域福祉センター」 ・佳作／吉田幸正 ●川鉄デザインコンペ'92 ・佳作／三輪政幸 ●第3回学生のためのフレッシュデザインコンペ ・フレッシュデザイン賞／佐藤教明 ●第19回日新工業建築設計競技「記憶の住む家」 ・佳作／野沢良太 ●1992第2回 BUFF 国際建築デザインコンペ「東京屋台空間」 ・佳作／竹内大介、高山一頼、宍倉尚行 ●DYNAX 第2回建築学生・設計大賞'92「〈太陽・月・炎〉の家」 ・奨励賞／竹内大介、高山一頼、宍倉尚行 ・奨励賞／石井昭博、寶田陵、西上順久 ●第4回タキロン国際デザインコンペ「風の道・水の道」 ・3等／山口哲也、川久保智康、木口英俊、永島元秀、布川亨 <b>日本三</b> ・3等／高橋武志、石井昭博 <b>日本三</b> ●1992新建築住宅設計競技「スタイルのない住宅」 ・佳作／川久保智康、高山一頼 ●「(仮称)中原中也記念館公開設計競技」 ・佳作／山口哲也、木口英俊
5	●第26回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・洋々賞／吉田幸正 <b>日本二</b> ・入選／関谷和則 ●千葉県建築三学生会賞 ・金賞／関谷和則 <b>地域三</b> ・銀賞／吉田幸正 <b>地域三</b>	●「川のある風景」 ・1部全国入選佳作／片桐岳志、小野和幸 ・1部支部入選／石井昭博、林正輝、福田昌弘、山口泰永 ・2部全国入選佳作／橋本廉太郎、神蔵良隆、藤生利道 ・2部全国入選佳作／関谷和則、三輪政幸	●石川県建築士会設計競技「21世紀の公園」 ・佳作／片桐岳志 ●第4回長谷工イメージデザインコンペ「現代のさや堂」 ・入選／片桐岳志 ●JIA 東海・北陸支部第10回設計競技「磐座〜いわくら〜」 ・銀賞／田中宏、岡田和紀、澤田憲子、倉川友紀 <b>日本二</b> ・佳作／岡田和紀、田中宏、澤田憲子、倉川友紀 ●新知的生産環境1993デザインコンペティション「グループによる新しい知的生産環境の在り方」 ・優秀賞／小野和幸 <b>日本二</b> ●第4回学生のためのフレッシュデザインコンペ ・フレッシュデザイン賞／岡田和紀、田中宏、木口英俊、川久保智康

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第27回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/清水信友</li> <li>・入選/戸國義直</li> </ul> </li> <li>●千葉県建築三会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・金賞/清水信友 <b>【地域2】</b></li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「21世紀の集住体」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1部支部入選/小野和幸、田村裕彦、高野勇治(建築)、國武陽一郎(建築)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●まちづくりコンクール'94「都市を水からデザイン」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/関谷和則、石渡義隆、館吉保 <b>【日本1】</b></li> <li>・佳作/田村裕彦、岡田和紀、小野和幸、鳥居延行</li> <li>・特別賞/井上真樹、馬淵晃</li> </ul> </li> <li>●桜門建築会第6回学生設計コンクール「磯野家のすまい」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/小野和幸、井上真樹、小山貴雄</li> </ul> </li> <li>●川鉄デザインコンペ'94 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生大賞/関谷和則、石渡義隆、館吉保 <b>【日本1】</b></li> </ul> </li> <li>●小山市城東地区街角広場デザインコンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/坪山幸王、佐藤信治、石井昭博、林正輝、福田昌弘、石渡義隆、関谷和則、館吉保、清水信友</li> </ul> </li> <li>●新知的生産環境1994デザインコンペティション「高齢者のための新しい知的生産環境の在り方」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入賞/小野和幸</li> </ul> </li> <li>●第1回ARCASIA学生賞1994「永続性ある発展を目指した都市居住と住宅改革」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/小野和幸、高野勇治(建築)、岡田和紀、山越寧(建築) <b>【日本2】</b></li> </ul> </li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第28回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/田村裕彦</li> </ul> </li> <li>●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・銅賞/浦野雄一 <b>【地域3】</b></li> <li>・奨励賞/田中厚三</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「テンポラリー・ハウジング」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1部支部入選/清水信友</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●JIA 東海支部第12回建築設計競技「紙〜紙で街に仕掛ける〜」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・銀賞/井上真樹、馬淵晃 <b>【日本2】</b></li> </ul> </li> <li>●第9回千葉ふるさと住宅設計競技「ライフサイクルを見据えた安全で快適な住まい」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励賞/田中厚三</li> </ul> </li> <li>●第5回BUFF国際建築デザインコンペ「東京水空間」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・選外優秀作品賞/広瀬倫恒</li> </ul> </li> <li>●世界の民族人形博物館国際学生アイデアコンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/梶原崇宏、村松保洋</li> </ul> </li> <li>●第3回札幌国際デザイン賞「雪の生活文化」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/馬淵晃</li> </ul> </li> <li>●第6回学生のためのフレッシュデザインコンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品展示/下平将也</li> <li>・作品展示/川崎拓二</li> </ul> </li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第29回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/富永恒太</li> </ul> </li> <li>●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・銀賞/中村武晃 <b>【地域2】</b></li> <li>・奨励賞/小川太士</li> </ul> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●石川県建築士会設計競技「インテリジェンスファクトリー」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・選外優秀作品賞/小山貴雄</li> </ul> </li> <li>●第10回千葉県街並み景観賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・準特選/鳥居延行 <b>【地域2】</b></li> </ul> </li> <li>●桜門建築会第7回学生設計コンクール「キャンパスコア」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパス賞/田中厚三、松元理恵</li> </ul> </li> <li>●第10回千葉県ふるさと住宅設計競技「増改築を考慮したロングライフの住宅」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励賞/田中厚三</li> </ul> </li> <li>●第10回建築環境デザインコンペティション「東京湾内のエコシティー」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/小山貴雄</li> </ul> </li> <li>●第2回九州デザインコンペティション「バリアフリーデザイン」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・協賛企業賞/小山貴雄、田中厚三、安藤亮、北田紀子、峰村亮(生産建築)</li> </ul> </li> <li>●第6回優しい食空間コンテスト「食空間デザイン」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/馬淵晃</li> </ul> </li> <li>●第9回ゆとりある住まいコンテスト「住まいの収納」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1等/田中厚三 <b>【日本1】</b></li> </ul> </li> <li>●'97GREEN DESIGNING IN YAMAGATA「地球環境にやさしいデザイン」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励賞/馬淵晃</li> </ul> </li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第30回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/市原裕之</li> <li>・入選/針生康</li> </ul> </li> <li>●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励賞/市原裕之</li> <li>・奨励賞/針生康</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「21世紀の学校」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1部全国入選2等/村松保洋、渡辺泰夫 <b>【日本2】</b></li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●石川県建築士会設計競技「ヒーリング・プレイス」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/富永恒太 <b>【日本2】</b></li> </ul> </li> <li>●第8回学生のためのフレッシュデザインコンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品展示/宮下新</li> <li>・作品展示/佐藤洋、木村太輔、村松可奈子、北田紀子</li> </ul> </li> <li>●桜門建築会三学部建築学生交流フォーラム <ul style="list-style-type: none"> <li>・審査員特別賞/長井厚、田中啓一、寺内学、関香織、村田昌彦</li> </ul> </li> <li>●運輸省「みんなでつくりよう海洋国日本 未来のアイデア大募集」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校部門 フロンティア賞/鳥居延行、若山喜信、金田岩光</li> </ul> </li> <li>●日本大学理工学部建築学科「TEMPORARY SPACE COMPETITION(DOME COMPE)」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/石川阿弥子、大野貴司、楠川嘉子、山田博栄</li> </ul> </li> <li>●第5回秀光学生コンペティション 新知的生産環境1997「挑戦するオフィス」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入賞/富永恒太</li> </ul> </li> <li>●東京建築士会第33回建築設計競技「コミュニティコアとしての小学校の再生」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/佐藤信治、市原裕之、田中克典、長井厚</li> </ul> </li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第31回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/大野貴司</li> </ul> </li> <li>●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・金賞/大野貴司 <b>【地域2】</b></li> </ul> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●第4回北陸の家づくりコンペ「環境共生住宅」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最優秀賞/田中克典 <b>【日本1】</b></li> <li>・優秀賞/長井厚 <b>【日本2】</b></li> </ul> </li> <li>●第2回太陽電池を用いた創造的構築物「太陽の恵みと建築との調和」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励賞/市原裕之</li> </ul> </li> <li>●壁装材料協会主催「第6回明日のインテリア・アイデア・コンクール」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員企業賞/伊藤昌明</li> </ul> </li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・銀賞/寺田健 <b>【地域2】</b></li> <li>・特別賞/江橋亜希子</li> </ul> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●第5回北陸の家づくり設計コンペ「60年住む家」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/塙貴宏 <b>【日本2】</b></li> </ul> </li> </ul>

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ	
平成12年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第33回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/渡邊昌也</li> </ul> </li> <li>●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励賞/原香菜子</li> <li>・奨励賞/渡邊昌也</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「新世紀の田園居住」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・タジマ奨励賞/青山純、岡田俊博、岡部敬明、木村輝之、斉藤洋平、重松研二、秦野浩司</li> </ul> </li> </ul>		
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第34回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・建築部門賞/秦野浩司 <b>【日本1】</b></li> </ul> </li> <li>●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励賞/秦野浩司</li> <li>・奨励賞/木村輝之</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「子どもの居場所」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・関東支部入選/齋藤洋平、木村輝之</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●栃都市開発技術サービス「坪井地区を対象としたエコ・テクノロジーの活用によるまちづくり計画の提案」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/山端俊也 <b>【日本2】</b></li> <li>・佳作/大工原洋充、舟岡徳朗</li> </ul> </li> <li>●栃東京建築士会「住宅課題賞」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/羽根田治</li> </ul> </li> </ul>	
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第35回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/丸山貴広</li> <li>・入選/山下忠相</li> </ul> </li> <li>●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励賞/栗田耕史</li> <li>・奨励賞/長坂悠司</li> </ul> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●第2回仏壇デザインコンペティション2002 森正 <ul style="list-style-type: none"> <li>・審査員長特別賞/鷺洲正憲、渡邊昌也、伊藤麻也、坂元晋介</li> </ul> </li> <li>●福山大学建築会デザインコンペティション2002 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/白砂孝洋</li> </ul> </li> <li>●栃東京建築士会「住宅課題賞」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/清水大地</li> </ul> </li> <li>●第8回飛騨・高山学生家具デザイン大賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/丸山貴広</li> </ul> </li> </ul>	
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第36回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/川崎未来生</li> </ul> </li> <li>●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励賞/川崎未来生</li> <li>・奨励賞/白砂孝洋</li> </ul> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●新建築住宅設計競技2003 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2等/川崎未来生 <b>【日本2】</b></li> </ul> </li> <li>●福山大学建築会デザインコンペティション2003 <ul style="list-style-type: none"> <li>・金賞/片桐雄歩 <b>【日本1】</b></li> <li>・入選/白砂孝洋</li> </ul> </li> <li>●栃東京建築士会「住宅課題賞」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/中村智裕</li> </ul> </li> </ul>	
16	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第37回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/永嶋順一</li> <li>・入選/佐藤俊介</li> </ul> </li> <li>●千葉県建築四会学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別賞/稲垣直秀</li> <li>・奨励賞/勝又洋</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「建築の転生・都市の転生」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国入選佳作/丸山貴広、鈴木貴之、塚本哲也、長坂悠司、吉田健一郎</li> <li>・東海支部入選/土井涼恵、内田真紀子</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●福山大学建築会デザインコンペティション2004 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/土井涼恵</li> <li>・入賞/勝又洋</li> <li>・入賞/奥田祥吾</li> <li>・佳作/三村舞、勝岡田洋子、望月菜生</li> <li>・佳作/渡辺秀哉</li> </ul> </li> <li>●栃東京建築士会「住宅課題賞」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入賞/賀山雄一</li> </ul> </li> </ul>	
17	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第38回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/鈴木啓史</li> <li>・入選/渡辺秀哉</li> </ul> </li> <li>●第18回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/渡辺秀哉 <b>【地域2】</b></li> <li>・奨励賞/鈴木啓史</li> </ul> </li> <li>○第4回JIA大学院修士設計展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/京野宏亮</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「風景の構想—建築をとおしての場所の発見」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・関東支部入選/金子太亮、勝又洋、中村智裕</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●9坪ハウスコンペ2005 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/金子太亮</li> </ul> </li> <li>●TEPCOインターカレッジデザイン選手権 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/金子太亮、京野宏亮 <b>【日本2】</b></li> </ul> </li> <li>●福山大学建築会デザインコンペティション2005 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入賞/桔川卓也</li> <li>・佳作/河原一也、信戸佑里</li> </ul> </li> <li>●栃東京建築士会「住宅課題賞」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/五十嵐大輔</li> </ul> </li> </ul>	
18	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第39回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/桔川卓也</li> </ul> </li> <li>●卒業設計日本一決定戦 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本三/桔川卓也 <b>【日本3】</b></li> </ul> </li> <li>●卒業設計裏日本一決定戦 <ul style="list-style-type: none"> <li>・裏日本一/桔川卓也 <b>【日本1】</b></li> </ul> </li> <li>●第19回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別賞/河原一也</li> </ul> </li> <li>●奨励賞/丹沢裕太</li> <li>●第30回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・レモン賞/桔川卓也</li> </ul> </li> <li>○第5回JIA大学院修士設計展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/勝又洋</li> <li>・出展/金子太亮</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「近代産業遺産を生かしたブラウンフィールドの再生」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・関東支部入選/金子太亮、勝又洋、中村智裕</li> <li>・関東支部入選/鈴木啓史、三村舞、渡辺秀哉</li> </ul> </li> <li>●「美しいまちをつくる むらをつくる」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最優秀賞/渡辺秀哉</li> <li>・足立区長賞/鈴木啓史、三村舞、渡辺秀哉</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●SMOKERS' STYLE COMPETITION 2006「パブリックスペースと分煙」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/勝又洋</li> </ul> </li> <li>●TEPCOインターカレッジデザイン選手権「現実を虚構化する住宅/虚構を現実化する住宅」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最優秀作/勝又洋 <b>【日本1】</b></li> </ul> </li> <li>●栃ナムラコンチネンタルホーム事業本部・栃日本住研 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回住まいのデザインコンテスト「わたしが暮らす家」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/勝又洋、金子太亮 <b>【日本2】</b></li> </ul> </li> </ul> </li> <li>●栃東京建築士会「住宅課題賞」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/島田がおり</li> </ul> </li> </ul>	
19	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第40回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/赤澤知也</li> <li>・入選/丸山大史</li> </ul> </li> <li>●第20回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/小松崎博敏 <b>【地域2】</b></li> <li>・奨励賞/西村秀勇</li> </ul> </li> <li>○第6回JIA大学院修士設計展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/三村舞</li> </ul> </li> </ul>			
20	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第41回毎日・DAS学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・建築部門賞/椎橋亮 <b>【日本1】</b></li> </ul> </li> <li>●第21回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励賞/上條経伍</li> <li>・奨励賞/高季仁</li> </ul> </li> <li>●第32回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/椎橋亮</li> </ul> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●木愛の会 第1回設計競技「新しい木の建築—魅了する木造都市へ—」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入賞/大西慧</li> </ul> </li> </ul>	

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成20年	●第49回全国大会・高専卒業設計展示会 ・ 出展/椎川恵太 ○第7回 JIA 大学院修士設計展 ・ 出展/五十嵐大輔		
21	●第42回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・ 建築部門賞/細矢祥太 <b>日本一</b> ・ 出展/下泉宏記 ●卒業設計日本一決定戦 ・ 100選/鴨志田航 ●第22回千葉県建築学生賞 ・ 市民賞/永田陽子 <b>地域二</b> ・ 奨励賞/永田陽子 ・ 奨励賞/鴨志田航 ●第33回学生設計優秀作品展 ・ 出展/鴨志田航 ●第50回全国大会・高専卒業設計展示会 ・ 出展/細矢祥太 ●全国合同卒業設計展「卒、10」 ・ 7 選入選/大西慧 ○第8回 JIA 大学院修士設計展 ・ 出展/小松崎博敏	●「アーバンフィジックスの構想」 ・ 関東支部入選/鴨志田航、本多美月 ●「美しくまちをつくる むらをつくる」 ・ 最優秀賞/朽木健二 <b>地域二</b>	●第1回日本大学校門建築会学生設計コンペティション「未来の住処をデザインする」 ・ 東京ガス SUMIKA 賞/細矢祥太、益山未樹 ・ 佳作/細矢祥太、益山未樹 ・ 佳作/椎橋亮 ●第7回「真の日本のすまい」 ・ 日本建築士会連合会会長賞/爲季仁、鈴木啓史 <b>日本一</b> ●(社)東京建築士会「住宅課題賞」 ・ 入選/増田佳菜子
22	●第43回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・ 最優秀賞「金の卵」賞/杉田陽平 <b>日本一</b> ・ 入賞/松井創斗 ●第23回千葉県建築学生賞 ●優秀賞/杉田陽平 <b>地域二</b> ●特別賞/松井創斗 ●JIA 東海学生卒業設計コンクール2011 ・ 佳作/杉田陽平 ●赤レンガ卒業設計展2011 ・ 一般賞 8 位/杉山洋太 ●JIA 全国卒業設計コンクール2011 ・ 出展/松井創斗 ●第34回学生設計優秀作品展 ・ 出展/古明地雲母 ●全国大学・高専卒業設計展示会 ・ 出展/杉山洋太	●大きな自然に呼応する建築 ・ 関東支部入選/大西慧、菅原遼	●ハンサムプレゼンテーションコンペ2010 ・ アーキテキタ賞/小川雅人 ●第6回「新・木造の家」設計コンペ ・ 優秀賞/嶋真史 ●第2回文化遺産防災アイデアコンペ ・ 佳作/爲季仁、平山雄基 ●第2回日本大学校門建築会学生設計コンペティション ・ 佳作/増田佳菜子、小山勇氣 ●建築新人戦 ・ 100選/小山勇氣 ●椅子のある風景 北の創作椅子展2010 ・ 入選/永田陽子、椎橋亮 ●ハンスグローエ ジャパン パスルーム デザインコンペ2010 ・ 佳作/椎橋亮、永田陽子
23	●第44回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・ 建築部門賞/石原幹太 <b>日本一</b> ・ 入賞/渡部亘 ●第24回千葉県建築学生賞 ・ 優秀賞/石原幹太 <b>地域二</b> ・ 市民賞/石原幹太 <b>地域二</b> ・ 奨励賞/渡部亘 ●赤レンガ卒業設計展2012 ・ 特別賞/石原幹太 ●JIA 全国卒業設計コンクール2012 ・ 出展/渡部亘 ●第35回学生設計優秀作品展 ・ 出展/井上彩花 ●卒業設計日本一決定戦2012 ・ 20選/菅原雅之 ・ 100選/渡部亘 ●全国合同卒業設計展「卒、12」 ・ 7 選/菅原雅之 ●DIPLOMA 2012 ・ 学科代表掲載作品/菅原雅之 ●日本建築学会 建築デザイン発表会 ・ 部門優秀賞/菅原雅之 ・ 部門優秀賞/石原幹太 ●Vectorworks 教育支援プログラム OASIS ・ 優秀研究賞/菅原雅之 ●MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2012 ・ 都築馨一賞/菅原雅之 <b>日本一</b> ●全国大学・高専卒業設計展示会 ・ 出展/渡部亘		●第17回北陸の家づくり設計コンペ ・ 北日本新聞社賞/杉田陽平、菅原雅之、渡部亘 ●第3回日本大学校門建築会学生設計コンペティション ・ 佳作/渡部亘 ・ 佳作/浦井匠、海藤航、斉藤亮介 ●キルコス国際コンペティション ・ 満田衛賞佳作/浦井匠、福田雄太
24	●第45回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・ 入賞/浦井匠 ●第25回千葉県建築学生賞 ・ 特別賞/浦井匠 ・ 奨励賞/海藤航		●第10回 R&R 設計アイデアコンテスト ・ 入賞/松井創斗、斎藤亮介、山川大喜、川崎将 ●FUTURE DESIGN 2012 未来エレベーターコンテスト ・ 審査員賞/田原拓、川崎将、山川大喜、善財寛之 ●建築新人戦 ・ 100選/山川大喜

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成24年	●MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2013 ・ 佳作/浦井匠 <b>日本二</b>		●第4回ハーフェレ学生デザインコンペティション ・ 妹尾賞/石原幹太、伊藤春樹、古江志人、遠洞躍斗 ●ALA 建築 Project 建築学生への挑戦「都市と空き地」Vol.2 ・ 優秀作品/松井創斗、堤昭文、辻普 ●第4回文化遺産防災アイデアコンペティション ・ 佳作/榎本翔太、浦井匠、杉田陽平 ●歴史的空間再編コンペティション2012 ・ 入選/杉田陽平、浦井匠、川崎将、徳永尚亮 ●平成24年度「横須賀市の海を活かしたまちづくり」コンペ ・ 最優秀賞/梅田淳、海藤航、福田雄太、浦井匠 <b>地域二</b> ・ 企画賞、デザイン賞/伊藤春樹、斉藤亮介、中山淳雄、望月堅二 ●キルコス国際設計コンペティション2012 ・ 永山祐子賞佳作/浦井匠
25	●第26回千葉県建築学生賞 ・ 奨励賞/山川大喜 ・ 奨励賞/川崎将		●歴史的空間再編コンペティション2013 ・ 入選/菅原雅之、遠洞躍斗、樋浦直紀、井出健、鶴田亜有美、中山博貴 ●建築新人戦 ・ 100選/出山亮 ●平成25年度「横須賀市の海を活かしたまちづくり」コンペ ・ 最優秀賞/遠洞躍斗、田原拓、堤昭文、岩本桃泉、阿部紘樹 <b>地域二</b> ・ 企画賞、デザイン賞/山川大喜、森浩平、徳永尚亮、善財寛之、鈴木彩美、大谷涼 ●キルコス国際設計コンペティション2013 ・ 遠藤秀平賞銀賞/山川大喜、辻普、藤本幸汰、白坂真 ・ 古谷誠章賞佳作/菅原雅之
26	●第47回毎日・DAS デザイン賞 ・ 入賞/滝村菜香 ・ 入賞/出山亮 ・ 入賞/藤本幸汰 ●第27回千葉県建築学生賞 ・ 特別賞(JIA 全国出展)/山影悠時 ・ 奨励賞・市民賞 2 位/志萱侑太 ●全国合同卒業設計展「卒、15」 ・ 審査委員賞(藤村麗至賞)/山影悠時 ●卒業設計日本一決定戦2015 ・ 100選/山影悠時 ・ 100選/志萱侑太 ●福岡デザインレビュー2015 ・ 最優秀賞/堤昭文 <b>日本一</b> ●赤レンガ卒業設計展2015 ・ 審査委員賞(中山英之賞)/滝村菜香 ●第38回学生設計優秀作品展 ・ レモン賞/堤昭文 ●日本建築学会 建築デザイン発表会 ・ 審査委員賞(篠原聡子)/山影悠時 ●MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2015 ・ 入選/志萱侑太 ・ 入選/山影悠時		●建築新人戦 ・ 101選/高橋翔 ●第8回 JACS 住宅設計コンペ2014 ・ 佳作/川崎将、志萱侑太、高橋翔 ●キルコス国際コンペティション2014 ・ 五十嵐淳賞(銅賞)/遠洞躍斗、森浩平、浅見花 ●第6回日本大学校門建築会学生設計コンペティション ・ 審査委員賞/山川大喜、滝村菜香、斉藤賢司 ・ 佳作/浦井匠、遠洞躍斗、山影悠時 ●歴史的空間再編コンペティション2014 ・ 20選/浦井匠、出山亮、森浩平、樋浦直樹、染谷萌衣、高橋政頼 ●平成26年度「よこはまの海を活かしたまちづくり」コンペ ・ デザイン賞/出山亮、井出健、宇山浩和、戸田寛康、樋浦直樹 ・ 佳作/志萱侑太、亀田宏樹、滝村菜香、福島弘明、増田顕弘
27	●第48回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・ 建築部門賞/高橋翔 <b>日本一</b> ●第28回千葉県建築学生賞 ・ 市民賞 2 位・奨励賞/高橋翔 ・ 奨励賞/重田秀之 ●第39回学生設計優秀作品展 ・ 出展/高橋翔 ○第39回学生設計優秀作品展 ・ 出展/山川大喜 ○第14回 JIA 関東甲信越支部大学院修士設計展2016 ・ 出展/川崎将	●日本建築学会建築文化週間学生グランプリ2015 ・ 入選/志萱侑太、重田秀之、高橋翔、千葉雄介、中西宏直、濱嶋杜人	●日本造園学会90周年記念全国大会 U-30国際アイデアコンペティション ・ 佳作/森浩平、杉田陽平、松井創斗 ●Floating City Project Architectural Design Contest ・ 佳作/佐藤信治研究室 ●シェルターインターナショナル学生設計競技2015 ・ 一次予選通過/出山亮、森浩平、蒲生良輔 ●第9回 JACS 住宅設計コンペ2015 ・ 特別賞(長谷川豪賞)/遠洞躍斗、滝村菜香、小貫笑美依、佐々木秀人 ・ 佳作/志萱侑太 ●平成27年度「よこはまの海を活かしたまちづくり」コンペ ・ 最優秀賞/高橋翔、千葉雄介、中西宏直、今村夏波 <b>地域二</b> ●公共施設オープンリノベーションマッチングコンペティション ・ 実施採択/川崎将 ●第7回日本大学校門建築会学生設計コンペティション ・ 佳作/出山亮、森浩平、蒲生良輔 ●歴史的空間再編コンペティション2015 ・ 10選/出山亮 ・ 20選/遠藤躍斗、山影悠時、森浩平、上田紗矢香、小貫笑美衣 ・ 50選/川崎将、滝村菜香、高橋政頼、中西宏直、門口稚奈、蒲生良輔、濱嶋杜人 ●第13回主張する「みせ」学生デザインコンペ ・ 審査委員特別部門賞/志萱侑太、山本雄太郎 ●第1回学生アイデアコンペティション「共のレシピ」 ・ 特別賞/山川大喜、志萱侑太、千葉雄介 ●キルコス国際建築設計コンペティション2015 ・ 近藤哲貴賞銀賞/志萱侑太

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成28年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第29回千葉県建築学生賞</li> <li>・市民賞/蒲生良輔 [地域]</li> <li>・奨励賞/蒲生良輔</li> <li>・奨励賞/濱嶋杜人</li> <li>●せんだいデザインリーグ</li> <li>卒業設計日本一決定戦</li> <li>・100選/上田紗矢香</li> <li>・100選/宮嶋悠輔</li> <li>●全国合同卒業設計展「卒、17」</li> <li>・総合資格学院賞/上田紗矢香</li> <li>●第40回学生設計優秀作品展</li> <li>・出展/蒲生良輔</li> <li>○第40回学生設計優秀作品展</li> <li>・出展/志萱侑太</li> <li>○第15回 JIA 関東甲信越支部大学院修士設計展2017</li> <li>・出展/出山亮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本建築学会設計競技</li> <li>・タジマ奨励賞/宮嶋悠輔、門口稚奈、谷醒龍、濱嶋杜人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ERI学生デザインコンペ2016</li> <li>・佳作/蒲生良輔、小貫笑美依、福富大真</li> <li>●歴史的空間再編コンペティション2016</li> <li>・50選/佐々木秀人、新部瑠介、加藤毅三</li> <li>●都市のパブリックスペースデザインコンペ</li> <li>・佳作/志萱侑太、金井亮祐</li> <li>・佳作/永富快、上田紗矢香、山本雄太郎</li> <li>●(社)東京建築士会「住宅課題賞」</li> <li>・入賞/黄起範</li> </ul>